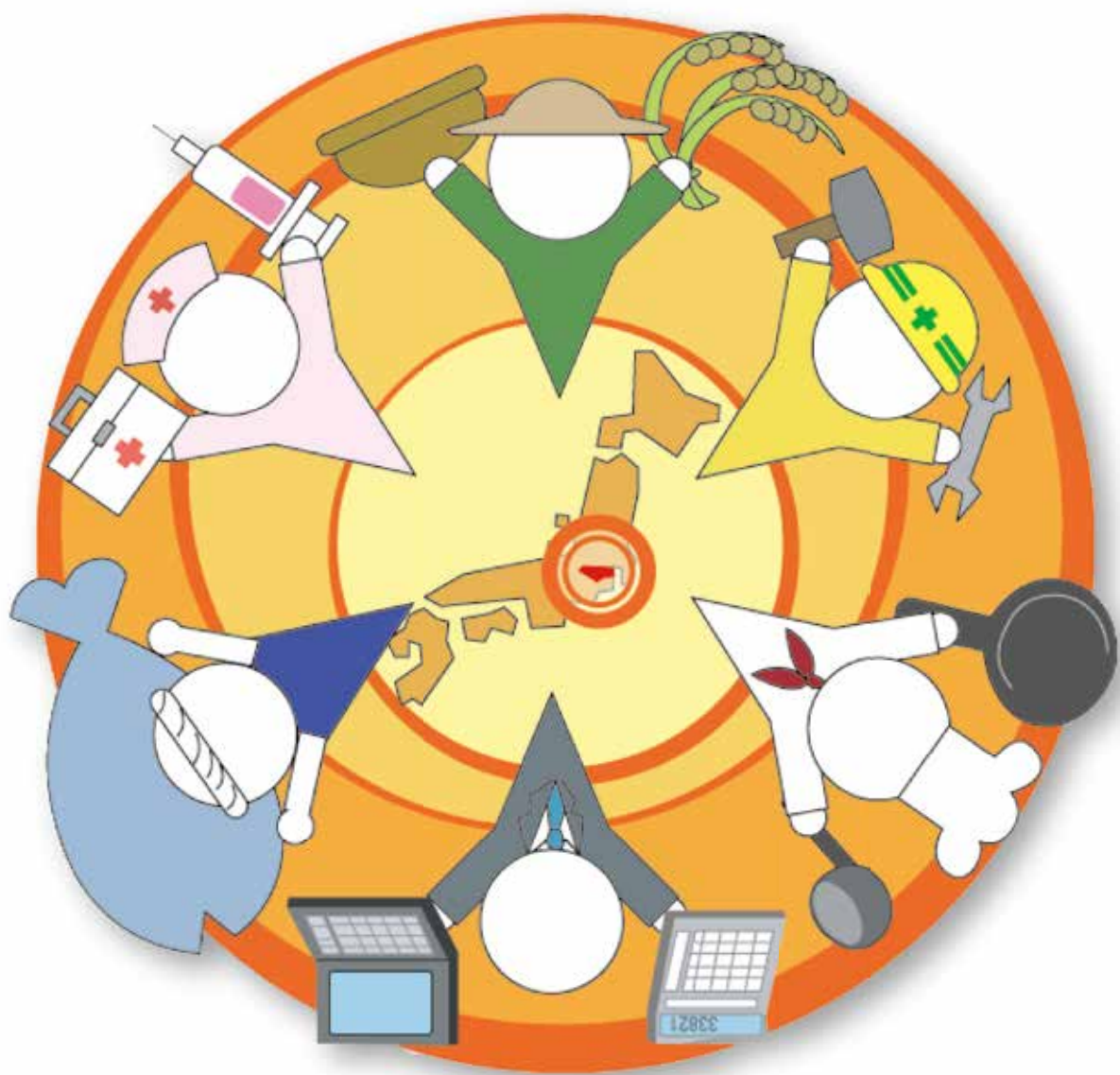


東京の産業教育

60周年記念特別号

特集 東京都産業教育 この10年の歩み、そして提言



平成27年度 第53号

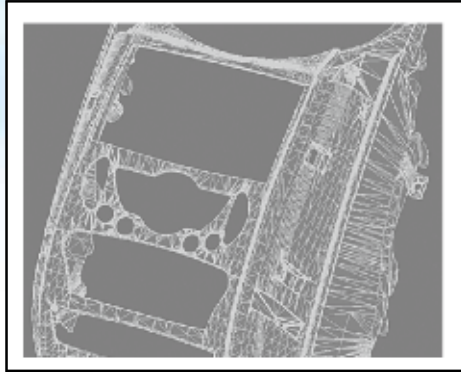
東京都産業教育振興会

時代とともに変わり続ける カナック企画です

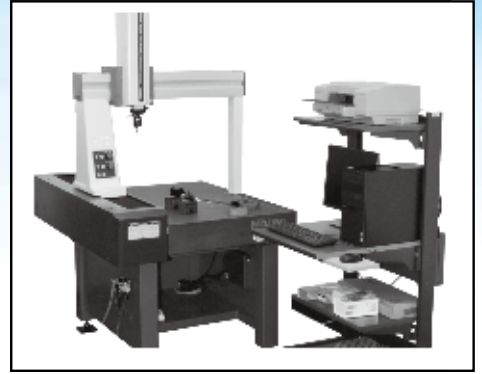
作り方を変える



3Dスキャナーの活用



3D CAD による設計



三次元測定機による測定

作るものを変える

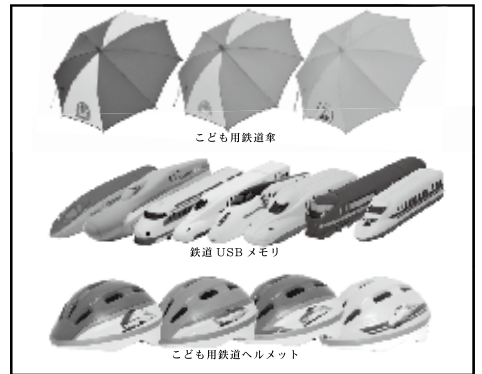


大画面ナビ用カーAV取付キット



ぐんまちゃん 25-041491 (C)FUKAYA CITY
(C)熊本県くまモン#12807

オリジナル USB メモリ



こども用鉄道傘

鉄道 USB メモリ

こども用鉄道ヘルメット

鉄道グッズ (J.R. 東日本商品化許諾済 J.R. 東海承認済
J.R. 西日本商品化許諾済 J.R. 九州承認済)

売り方を変える



オンライン販売

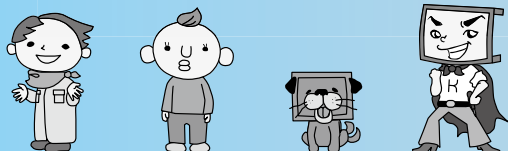


Web や SNS で情報発信



アクセス分析と活用

私たちと一緒に、ものづくりを体験してみませんか？



…インターンシップのお問合せはこちらまで

KANACK 株式会社カナック企画
〒125-0032 東京都葛飾区水元 1-4-10
Tel 03-5660-1234 (代表) Fax 03-5660-1231
E-mail info@kanack.co.jp URL http://kanack.co.jp/



東京の産業教育 第53号 目次

| | | | |
|--------|---------------------|--------|-------|
| 巻頭のことば | 東京都産業教育振興会 会長 | 西澤 宏 繁 | ・・・ 1 |
| 祝辞 | 文部科学省初等中等教育局 視学官 | 望月 昌 代 | ・・・ 2 |
| | 公益財団法人産業教育振興中央会 理事長 | 杉江 和 男 | ・・・ 3 |
| | 東京都公立高等学校長協会 会長 | 小山 利 一 | ・・・ 4 |
| | 東京都中学校長会 会長 | 榎本 智 司 | ・・・ 5 |

特集 東京都産業教育 この10年の歩み、そして提言

| | | |
|--|---------|--------|
| 1 都立専門高校の改革～産業界を支える人材の育成～ 東京都教育庁指導部主任指導主事（産業教育担当） | 富川 麗 子 | ・・・ 6 |
| 2 東京都の農業教育—これまでの歩みと提言— 東京都立園芸高等学校長 | 徳田 安 伸 | ・・・ 8 |
| 3 工業高校この10年間の歩み、そして提言 東京都立工芸高等学校長 | 鳥屋尾 史 郎 | ・・・ 10 |
| 4 東京都商業教育 この10年の歩み、そして提言 東京都立第一商業高等学校長 | 戸田 勝 昭 | ・・・ 12 |
| 5 家庭科教育10年の歩み、そして提言 東京都立忍岡高等学校長 | 岡島 まどか | ・・・ 14 |
| 6 東京都の全日制総合学科高等学校の歩みと現在の取組 東京都立杉並総合高等学校長 | 若林 直 司 | ・・・ 16 |
| 7 福祉科の歩みとこれからに向けて ～地域の福祉・医療に貢献する人材育成のために～ 東京都立野津田高等学校長 | 池田 克 則 | ・・・ 18 |
| 8 白山高校の歩みと教育改革 京北学園白山高等学校副校長 | 杉原 米 和 | ・・・ 20 |
| 9 動くものを教材に～ミニSLの製作をふりかえる～ 日本工業大学駒場中学・高等学校長 | 吉田 忠 雄 | ・・・ 22 |
| 10 高等学校看護教育・この10年 愛国中学校・愛国高等学校長 | 織田 奈 美 | ・・・ 24 |
| 11 中学校技術・家庭科教育 この10年の歩み、そして提言 新宿区立新宿養護学校長 | 寺島 京 子 | ・・・ 26 |
| 12 職業教育の歩みと展望—専修学校の歴史と現状から— 東京YMCA 医療福祉専門学校長 | 八尾 勝 | ・・・ 28 |
| 13 新たな技術者教育の流れを確立するために 東京都立産業技術高等専門学校長 | 田原 正 夫 | ・・・ 30 |
| 14 産業教育とキャリア教育 東京家政大学短期大学部学長 | 川合 貞 子 | ・・・ 32 |
| 15 東京都産業教育振興会のこの10年の歩み 東京都産業教育振興会事務局 | | ・・・ 34 |

東京の産業界

- 1 産業界教育への期待
信川化学工業株式会社 代表取締役社長 信川 仁道・・・ 36
- 2 成長し続ける企業へ
株式会社鈴木塗装工務店 代表取締役 鈴木 英之・・・ 38

情報スクエア

- 1 平成 27 年度高校生夕張キャンプ第 1 期に参加して
東京都立工芸高等学校長 烏屋尾 史郎・・・ 40
- 2 平成 27 年度教員海外産業界教育事情研修に参加して
東京都立第一商業高等学校長 戸田 勝昭
東京都立農業高等学校 主幹教諭 渡邊 幸盛・・・ 42
- 3 平成 27 年度専門高校教員産業界実地研修（流通・情報関連企業）に参加して
東京都立忍岡高等学校 主任教諭 石井 知美
東京都立忍岡高等学校 主任教諭 古賀 富美・・・ 44
- 4 第 13 回創造ものづくりフェア in TOKYO
中央区立銀座中学校長 加藤 譲司・・・ 46
- 5 第 25 回全国産業界教育フェア三重大会・第 57 回全国産業界教育振興大会・・・・・・・ 48

報 告

- 1 平成 27 年度 総会・講演会・・・・・・・ 51
- 2 平成 27 年度 東京都産業界教育振興会教育功労者表彰・・・・・・・ 60
- 3 平成 27 年度 東京都産業界教育振興会後援事業・・・・・・・ 61
- 4 平成 27 年度 第 10 回産学懇談会・・・・・・・ 62
- 5 平成 27 年度 第 26 回東京都産業界教育振興会作文コンクール
(1) 入選者一覧・・・・・・・ 64
(2) 最優秀作文・・・・・・・ 66
(3) 応募校一覧・応募数の推移・テーマ別応募数等・・・・・・・ 69

本会の概要

- 1 平成 27 年度 事業経過報告（平成 28 年 2 月 19 日現在）・・・・・・・ 73
- 2 平成 26 年度 決算・・・・・・・ 75
- 3 平成 27 年度 予算・・・・・・・ 76
- 4 平成 27 年度 役員、委員一覧・・・・・・・ 77
- 5 東京都産業界教育振興会会則・・・・・・・ 79
- 6 平成 27 年度 会員名簿・・・・・・・ 81
- 7 入会案内・編集後記・・・・・・・ 97

巻頭のことば

東京都産業教育振興会 会長 西澤 宏繁



東京都産業教育振興会 会員の皆様におかれましては、日頃から本会の活動に御理解・御協力を賜り、誠にありがとうございます。

御陰様で、本会は、昭和30年の設立から、平成27年度をもちまして、60周年を迎えます。これもひとえに、会員の皆様による御指導・御支援の賜物と深く感謝申し上げます。

本会設立の経緯については、昭和60年に発行された「三十周年記念誌」によりますと、実業教育制度が整備されてから70周年にあたる昭和29年に、都知事を中心に東京商工会議所会頭をはじめ、経済団体・産業団体・教育界で一体となり、記念式典や

記念行事が盛大に実施された際に、恒久的・組織的な振興事業を進めるために「東京都産業教育振興会」を設立することが決定し、翌30年5月26日の設立総会で正式に発足したということです。本会は、設立以来、産業界・教育界の架け橋となって、微力ながら産業教育の振興に尽くしてまいりました。

これまで、産業界・教育界は、経済・社会情勢といった産業教育を取り巻く状況が変化する中、相携えながら協力と努力をして人材の育成に励んできました。近年、産業構造の変化やグローバル化の進展などに伴い、産業界が求める人材は時代とともに多様化し、求められる技術も高度化しています。また、少子高齢化が進行する今日においては、東京の産業を支える技術の継承や人材の確保・育成は、大きな課題となってきています。こうした状況において、将来、産業立国日本を支える有為な職業人を育成するという、産業教育が果たす役割の重要性は決して衰えることはありません。

しかし、一方で、普通科に比して専門高校の志望倍率が低迷していること、産業教育そしてそれを担う学校により一層の魅力化が迫られていることなど、産業教育を取り巻く状況は決して甘いものではありません。このような状況だからこそ、時代の変遷に関わらず産業教育を応援し続ける本会のような組織は存在する価値がある、と考えております。

本会は、これまで、産業教育振興に向けた取組を奨励するため、①産業教育に関して顕著な功労のあった教職員に対する表彰、②産業教育に関する研究活動を対象とした助成金交付、③産業教育を学ぶ生徒・学生を対象とした作文コンクール及び表彰、④産業教育において優良な成績を収めた生徒・学生に対する表彰、⑤永年にわたり産業教育の支援に携わった企業に対する表彰、⑥産業教育の普及向上に寄与する事業に対する後援などを行ってまいりました。

今後も、産業教育を学ぶ生徒・学生を応援する都内有数の団体として、これらの取組をさらに充実させ、盛り上げていきたいと考えております。

60周年という節目の年を迎え、産業界、教育界の連携をいっそう深めるため、意義のある活動をしていきたいと思っております。今後も引き続き、会員の皆様のお力添えを賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



祝 辞

東京都の産業教育への期待

文部科学省初等中等教育局視学官 望月 昌代

東京都産業教育振興会が60周年を迎えるに当たり、心よりお祝いを申し上げます。人間で例えればちょうど還暦、これまでに積み上げてきた数々の業績を基に、さらなる飛躍の時を迎えられていることと存じます。

東京都は、最も多くの情報が集中する中枢の地であり、ソフト、ハードの両面ともに恵まれています。そのアドバンテージをさらに生かした学校づくりをするために、産業教育の振興について、考えていきたい点をまとめてみたいと思います。

平成27年8月に、次期学習指導要領の方向性を示す「論点整理」がまとめられました。その中で強調されているのは、「社会に開かれた教育課程」であり、学校が社会や世界との接点をもつことの重要性を指摘し、各教科等の学びを通して「何ができるようになるのか」という観点から、育成すべき資質・能力を整理する必要がありますとしています。これは、「何を知っているか」を目指してきた従前のコンテンツ重視の教育から、「何ができるか」という能力育成を中心とする教育への転換を求めているものです。

例えば、2030年には、子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就くとの予測もあり、先を見通すことの難しい時代をたくましく生き抜く力が一層求められています。その中であって、学校に求められるのは、質の高い知識や技術(知っているだけでなく、分かって使える)の習得です。そのためには、どのように「学ぶ」のかが問われますが、「もっと学びたい」という生徒の意欲を高め、学ぶ

楽しさを体得させていくことが重要です。情報化、グローバル化等のスピードが速くなっている今日、知識や技術の一部はすぐに古くなり使えなくなります。新しい情報を常に更新するための、生涯学び続ける態度や意欲は、従前以上に求められることとなり、主体的協働的な学び(アクティブ・ラーニング等)を深める指導の在り方等について、教師は常に見直していく必要があります。

全国を見回してみますと、元気な学校は必ずと言っていいほど、地域との連携を深め、地域の活性化に寄与しています。これからの学校は、地域との連携協働といった「地方創生」の視点を踏まえることが最も重要だと思います。地元で愛される学校であることこそが、最強の学校をつくることに繋がります。そのためには、学校が最も得意とする分野をピンポイントにし、誰もが分かるような形で可視化し、発信することが重要です。それが、最終的には、地域や社会との双方向の関係性を深め、差し迫った課題を協働して解決することになります。学校運営の改善や、学校の個性化や特色づくりは、よりよい影響を地域に必ず与えます。特に、地域の産業と深く関わる専門高校においては、「何を学習しているのか」「その専門性は何か」を明確にし、生徒、保護者、地域、企業等の誰からも認識されることが重要です。それが、オンリー・ワン、「なくてはならない存在」に繋がるのだと考えます。

「人づくりは、国づくり」です。東京都が先頭に立って進めて頂くことを祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

公益財団法人 産業教育振興中央会 理事長

D I C株式会社相談役 杉江 和男

東京都産業教育振興会が創立60周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

貴振興会は、我が国が戦後の荒廃から立ち上がり経済成長を歩み始めた頃の昭和30年に設立されました。以来、今日まで様々なご活動を通じて産業教育の振興に取り組まれ、東京の産業経済の発展に多大な貢献をされてこられました。

今日、我が国が世界に伍して発展・繁栄ができた理由の一つとして、国をあげて産業教育の振興に取り組んできたことが挙げられます。とりわけ、専門高校はじめとする専門的職業人を育てる教育機関が、実践的な職業教育を通じて専門的な知識、技術・技能を身に付けた多くの有為な職業人を育成し輩出してきたことに負うところが大きいと言えます。

今日、グローバル化、情報化、科学技術の進展は、産業構造のみならず個々の仕事の中身まで大きく変えています。また、社会全体が加速度的に大きく変化しており将来を見通すことが困難な時代にもなっています。このような中、我が国が将来にわたって繁栄・発展し続けるためには、これまで以上に産業教育の振興に取り組む必要が

あることは言うまでもありません。

我が国の産業経済の発展は、貴振興会の創立とほぼ時を同じくする高度経済成長期から始まり、それを更に推し進めたのが50年前の東京オリンピックと言われていいます。今日、我が国はバブル崩壊後から続いた経済の停滞期から脱却し、再び力強く発展しようとしています。奇しくも、2020年には再びオリンピックが開催されます。今日、産業教育全体を取り巻く環境には厳しいものがありますが、我が国が再び力強く発展するため、産業界と教育界の一層の緊密な連携の下に産業教育の振興により一層取り組む事が大事であると思います。そこに、これからの貴振興会はじめ私ども産業教育振興中央会や全国の産業教育振興会の役割があるかと考えます。貴振興会におかれては全国の産業教育振興会のリーダーとしてこれからの産業教育の充実・発展に、ひいては我が国の発展に貢献されることを期待いたします。

結びに、これまでご尽力された貴振興会の関係各位に敬意を表しますとともに貴振興会の今後ますますのご発展を祈念いたします。



祝 辞

東京都公立高等学校長協会会長

東京都立青山高等学校長 小山 利一

東京都産業教育振興会が、設立以来、本年で60周年を迎えられました。東京都公立高等学校長協会を代表いたしまして、一言お祝いを申し上げます。

昭和30年5月に設立されてから今日まで、東京都産業教育振興会の充実・発展のためご尽力され、優れた成果を挙げられてきました歴代会長の皆様には深く敬意を表する次第です。そして、本会が東京都の産業教育の改善・充実・発展に大きく貢献してこられたことに、心より感謝を申し上げます。

本会が設立されましたのは、日本が戦後の厳しい時期を乗り越え、朝鮮戦争の特需を契機に高度経済成長期を迎える時期にあたります。映画『三丁目の夕日』でも描かれていましたが、東北などの中学校を卒業した若者が上京し、「金の卵」と呼ばれ、中には定時制高校に通学しながら、労働力としてまさに日本経済の復興・成長・発展を支えていました。本会はそうした日本経済の成長の発展とともに歩み、多くの有用な人材の発掘・育成に寄与してきました。

都立の専門学科高校の多くの生徒が、本会に支えられながら、卒業後に産業界で活躍していることは大変喜ばしいことです。また、本会が行っております、①教育功労者表彰、②研究奨励助成、③作文コンクール表彰などの事業により、生徒はもちろん、教職員の大きな励みになっており、専門学科高校ではこれまでも増して創意・工夫した学校経営ができますことは、校長には

大変ありがたいことであり、深く感謝申し上げます。

さて、現在、少子化の影響やグローバル化への対応など、教育をめぐる環境が変動していく中、高等学校をはじめとする初等中等教育から大学をはじめとする高等教育までを一貫したものと捉えた改革が進められております。

職業教育の分野では、平成26年4月から、専門学校において、文部科学大臣認定による「職業実践専門課程」が新たな制度としてスタートしました。

また、平成27年4月から、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化について、中央教育審議会の審議が始まりました。これが実現すれば、我が国の高等教育は学術教育を主とした単線型から、学術教育と職業教育とが並立する完全複線型のシステムとなります。

このように、学校教育は大きな転換期を迎えておりますが、将来的には、より専門性の高い高度職業人の育成が可能になると思われれます。こうした一連の改革に、適切に対応していくためには、これまで以上に、企業や学校、行政の三者が連携していくことが求められます。東京都産業教育振興会にはその扇の要となり、先導役を務めていただきたいと期待しております。

結びに、60周年に当たり、東京都産業教育振興会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

東京都中学校長会会長

新宿区立新宿中学校長 榎本 智司

東京都産業教育振興会が、「産業界・教育界・行政の三者が一体となり相互に連携を深め協力し合って有為な職業人の育成を図る」ことを目的として、昭和30年5月に設立され、今年で60年目を迎えられました。誠におめでとうございます。

また、この間、東京都の産業教育の改善・充実を図り、産業経済の自立発展に寄与してくださいましたことに心より敬意を表します。

さて、イギリスの大学のある研究者は「今後10～20年程度で、アメリカの総雇用者の約47%の仕事が自動化される」と言っています。このことは、アメリカに限ったことではなく、我が国においても同じようなことが今後、起こってくることが予想されます。

また、子供たちが育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的な変化、雇用の多様化・流動化等は、子供たちの将来のとりえ方にも大きな変化をもたらすことが予想されます。さらには、子供たちは、自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルが見付けにくくなったり、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことも難しくなったりしてきていることも事実です。

このような中、現在、中学校では、地域の企業・事業所等の皆様方にご協力いただ

き、「職業調べ」、「職場訪問」、「職業講話」、「職場体験学習」など、様々な教育活動に取り組んでおります。

生徒にとって、実際に様々な企業や事業所等の方々から直接お話をお聞きしたり、実際に仕事を体験させていただいたりすることは、望ましい職業観や勤労観を育成したり、自己の将来について考えたりする大変よい機会となっております。中学校においては、これまで以上に、行政、企業の皆様方との連携を強めさせていただくことが極めて重要と考えています。

また、本会に実施していただいている優良卒業生表彰、作文コンクールなどの生徒の職業教育に対する理解を深め学習意欲を高める取組や、教育功労者表彰などそれを支える教員の士気を高める取組は、中学校での職業教育の理解、振興を支えるものとなっております。この場をお借りいたしまして心から御礼申し上げます。

東京都中学校長会は、東京都産業教育振興会の皆様方にはこれまで以上のご支援・ご協力をいただきながら今後とも教育活動の充実を図ってまいりたい所存です。どうぞ、よろしく願いいたします。

結びに、東京都産業教育振興会のますますのご発展を祈念いたしましてお祝いのご挨拶とさせていただきます。



都立専門高校の改革 ～産業界を支える人材の育成～

東京都教育庁指導部主任指導主事（産業教育担当）富川 麗子

1 はじめに

近年、少子高齢化やグローバル化など、社会が急速に変化するとともに、産業構造の変化や科学技術の進展等と相まって、職業人に求められる専門性は高度化・多様化がより一層進んでいる。このような社会の変化に伴い、職業教育・専門教育に対する社会の期待は益々高まっている。

一方で、学校から社会や職業への移行が円滑に行われないなど、若者の社会的・職業的自立に関わる課題も指摘されている。専門高校においては、職業人として活躍するために必要な基礎的な技術・技能や、ビジネスマナーなどの社会性を身に付けさせる教育を推進していくとともに、専門高校から大学等への効果的な接続も可能となるよう、専門性を生かした進路の実現が図られるよう検討していく必要性も高まっている。

さらに、若者のフリーター志向、無業者の増加、就職後の早期離職などが今日的な社会問題となっている。このような現状の中、日本の産業を支える人材を育成するため、学校、家庭、地域、産業界、大学、行政等が連携して、若者の学ぶ意欲や勤労観・職業観を育て、自分の在り方生き方を考えるキャリア教育の推進が極めて重要である。

東京都教育委員会は、平成24年2月に都立高校改革推進計画第一次実施計画を公表し、さらに、社会や産業構造の変化に対応するため、専門高校の改革を進めてきた。今回、60周年記念誌の発刊に際し、専門高校の改革について以下に述べる。

2 都立高校改革における専門高校の改善

(1) 平成24年2月策定の「都立高校改革推進計画」

東京都教育委員会では、都立高校の現状の課題

を明らかにするため、平成9年9月に策定し10年かけて実施してきた「都立高校改革推進計画」の成果を検証するとともに、中学生、高校生、高校生の進学先大学や就職先企業を含む都民の都立高校に対する意識を調査した上で、平成23年9月に、「都立高校と生徒の未来を考えるために—都立高校白書（平成23年度版）—」を作成し公表した。

さらに、社会の要請や都民の期待を踏まえ、生徒を「真に社会人として自立した人間に育成すること」を目的に、平成24年2月に、新たな「都立高校改革推進計画」及びこの計画の実現に向けた具体的な計画である第一次実施計画を策定した。

都立高校改革推進計画は、今後の都立高校改革の基本的な方向性を示すものとして、計画期間を平成24年度から平成33年度までの10年間とした長期計画としている。

(2) 「都立専門高校改編基本構想検討委員会」 (平成25年12月)

平成24年度から平成27年度までの第一次実施計画では、専門高校の在り方について検討組織を設置し、企業や生徒等のニーズに応じた学科の改編や新たな学科の設置などについて、規模の見直しも含めて検討することとした。そのため東京都教育委員会では、社会の変化と期待に応える人材の育成を推進し、生徒の能力の伸長と進路実現を図り、魅力ある専門高校づくりを進めるために、平成25年12月に「都立専門高校改編基本構想検討委員会」を設置した。また、専門高校の改善にあたって在校生・保護者・中学生・卒業生・教員・企業・進学先など、延べ11,389名を対象にアンケート調査を実施した。

この委員会では、都における専門高校の在り方に関することや専門高校の改編に係る基本的事項に関することについて検討し、平成26年8月に、検討した内容や今後の職業教育を主とする専門高校の改善の方向性について報告書としてまとめた。

報告書では、専門高校の現状から見えてくる課題として次の点をあげている。

- ① 志望倍率などに現れる魅力の不足
- ② 普通科と比較して高い中途退学率
- ③ 専門性を生かして進路選択する生徒の割合の低迷
- ④ 産業界や進学先での活躍に必要な能力の育成の不足

また、課題を解決すべく専門高校全体の改善の方向性として、次の点をあげている。

- ① 職業教育による専門性の向上
 - ア 各専門高校での取組による専門性の向上
 - イ 産業界との更なる連携による専門性の向上
 - ウ 大学や専門学校等の上級学校との連携による専門性の向上
- ② 基礎学力の定着
- ③ ヒューマンスキルの伸長
- ④ 専門高校の役割を果たしていくための改編

(3)「都立専門高校改編基本計画検討委員会」

(平成26年8月)

「都立専門高校改編基本構想検討委員会」の提言を踏まえ、検討組織を設置し、今後の専門高校の在り方について検討した。報告書では、①都立専門高校改編基本構想検討委員会での検討状況について、②専門高校の学習内容の改善について、③専門高校の学科改編等について述べられている。

学習内容の改善については、ものづくりなど、体験的・実践的学習を通して将来のスペシャリストの育成に必要な専門分野に関する基礎的・基本的な知識や技術・技能の定着を図るとともに、専門分野で活躍できる実践力を育成することが大切であることから、都立専門高校改編基本計画検討委員会において工業、農業、商業、家庭・福祉、産業の詳細を検討した上で実施するなど計画的に取組を推進し、専門高校の学習内容を改善していくことが示された。

また、学科改編等については、専門的な知識・技能に興味・関心のある生徒が学習を深め、産業界から求められる能力を身に付けられる専門高校となる必要があることから、中学生やその保護者にとって学校の特徴が明確になるような分かりやすい学科編成や中学生が目的意識をもって学科を選択できるような専門高校（工業、商業、家庭・福祉）の改編について示された。

3 都立専門高校技能スタンダード

東京都教育委員会は、第一次実施計画に基づき、都立専門高校の生徒の専門性の向上を図るため、専門高校において生徒が身に付けるべき、専門分野に関する主な技術・技能の具体的な内容を「都立専門高校技能スタンダード」として策定した。技能スタンダードは、生徒が在学中に身に付けるべき専門分野に関する主な技術・技能の目標をまとめた「技能スタンダードⅠ」と卒業までに取得を推奨する主な資格をまとめた「技能スタンダードⅡ」で構成している。各校では、学ぶべき専門的な技術・技能を明確にして、全ての生徒が修得できるよう取り組んでいる。

今年度から、都内の全ての専門高校においてこの取組を実施している。この技能スタンダードを基に専門的な技術・技能を確実に身に付け、社会が求める有用な資格取得の取組を促進することにより、生徒が未来の産業の担い手となることを確信している。

4 おわりに

昨夏、専門高校生22名を夕張市に派遣した。研究発表の機会、専門性及びプレゼンテーション能力の向上等をねらいとし、平成24年度から、東京都と北海道夕張市の自治体間連携モデル事業の一環として実施している夕張キャンプ第Ⅰ期事業である。このような教育施策をとおして、東京都教育委員会では、目的意識をもって入学した生徒が、専門高校で学んだ知識と技術・技能を関連する分野で発揮できるよう、産業界が求める人材育成に励んでいく。今後も、産業界と教育が連携を深め、専門高校の更なる発展に努めていく。



東京都の農業教育

—これまでの歩みと提言—

東京都立園芸高等学校長 徳田 安伸

1 はじめに

東京都には、農業系の高等学校（以下、「農業高校」と称す。）がバランスよく配置されている。区部に3校、多摩に3校、島嶼に3校の計9校であり、我々はこれを「東京9」と呼んでいる。

今日のように都市化が進むと、大都市東京に農業高校の存在を知らなかったり、必要性を感じなかったりする都民がいるかも知れない。しかしながら、我々人類は食べることで生命を維持しており、その根源となる食料生産活動が「農業」であることから「農業」学習は避けて通ることはできない。

2 東京の農業高校（概観）

明治5年に学制が、16年には農学校通則が発布され、国内各地に農学校が次々に設立された。

東京では、明治期に農芸・園芸・農業・農林の4つの農学校が設立され、農業指導者や地域の中核となる農業者を育成した。戦後には、農産・瑞穂農芸・大島・三宅・八丈高校の5校が分校から独立し、東京9校体制が出来上がった。

3 近年の全国的な歩み

平成6年度から総合学科が導入され、全国の農業高校は大きく変化した。農業高校の中に総合学科が併設されたり、学校自体が総合学科高校に改編されるなどして、全国の農業単独高校は約半数に激減した。近年では少子化の流れの中で一層の高校改編が進んでいる。

4 東京の農業高校の歩み

(1) 園芸高校

世田谷区に位置する園芸高校は、明治41年府立園芸学校として創立し、当時は寮を持ち全国各地から学生が集まってきた。

平成18年に従前の造園教育を園芸科に移行させ、動物科を新設した。動物科では、愛玩動物（ペット）、野生動物や環境に関する学習が展開されている。現在、我が国の愛玩動物の数は、同一年齢の子供の数（約120万人）を超え、さらに増えつつある。

(2) 農芸高校

杉並区に位置する農芸高校は、明治32年に創立し東京の農業高校で最も歴史が古い。鷺宮高校（旧都立家政学校）も農芸高校の元分校の1つである。今上天皇と美智子妃殿下のご婚礼馬車パレードに使用された馬を賜ったのがご縁で、現在も複数の馬を飼育し、高校総体でも馬術競技の常連となっている。

(3) 農産高校

葛飾区に位置する農産高校は、東京東部唯一の農業高校である。「食と緑と農を創造する学校」として地域に密着した活動を重視し、生徒が積極的に地域に出かけ地域に愛される学校となっている。JR亀有駅前や京成お花茶屋駅前公園の花壇植栽（全日制）、教職員研修センターの玄関前の観賞植物の植栽（定時制）は好評を博している。

(4) 農業高校

府中市に位置する農業高校は、農業学科に加え、家庭学科、大規模の定時制があり東京最大規模（30学級）の学校である。府中の大権現大國魂神社参道のケヤキ並木脇に位置し、交通至便で、広く東京全域から生徒が集まっている。

さらに、都内唯一の調理師資格のとれる食物科があり入学希望者も多い。

(5) 瑞穂農芸高校

瑞穂町に位置する瑞穂農芸高校は、町の最高学府として地域と一体となっている。東京で唯一の畜産科学科を持ち、ニワトリやウシ、ブタなどの経済動物を数多く飼育している。近年では、愛玩動物も飼育し広いニーズに^{がん}応えている。2時間以上かかっても瑞穂農芸で学びたいという生徒が都内各地から通う人気校である。

(6) (農林高校)・青梅総合高校

青梅市に位置した旧農林高校は、平成18年青梅総合高校開校に伴い、平成21年3月農林高校として99年の歴史を閉じた。しかし青梅総合高校は、農業学習のできる総合学科高校として、現在でも農場と広大な演習林を有している。都内で最も広大な学校でもある。

(7) 大島高校

伊豆大島に位置する大島高校は、農林・家政科と普通科がある。部活動では野球部が強く、一時甲子園21世紀枠の候補校となった。現在、ツバキの島としての特色を生かし、ツバキ園の世界的認証に動いている。

(8) 三宅高校

活火山の島・三宅島に位置する三宅高校は、平成12年の噴火により全島避難したが、火山活動も落ち着き帰島解除され、10年を経て活力を取り戻している。現在では、茶園も復興し、名産の「三宅高校茶」も生産再開している。

(9) 八丈高校

八丈島に位置する八丈高校は、羽田空港から毎日3往復6便ジェット機就航により、所要時間55分と交通至便である。温暖な気候を生かしてラン類やトマト等の栽培が盛んである。さらに、パッションドリンクは人気の高い生産品である。

5 提言—これからの農業教育—

(1) 小学生の夢

「小学生が将来なりたい職業リスト」によると、ケーキ屋さん(パティシエ)、コックさん(シ

ェフ)、花屋さん(フラワーデザイナー)、ペット屋さん等が上位に挙がってくるが、農業高校にはこれら全ての進路選択があり、子供たちの純粋な夢は農業高校に行きつく。農業高校はまさに「なりたい進路」の学校である。

(2) 我が国の課題

一方、我が国は少子高齢化が進み、地方では過疎化して深刻な限界集落問題が発生している。本来、産業教育は国やそこに住む国民の生活を豊かにするために行われる教育であるべきものだが、時に都会の大きな工場や企業に勤めることが是とされ、グローバル化として世界に飛び出すことがことさら美化される風潮がある。そのため高度成長期に行ってきた教育スタイル、すなわち1点を争う受験戦争、しのぎを削る競争教育をこれからも行っていくのだろうか、甚だ疑問である。

(3) 今、必要な教育

このような時代にあって、地域のことを学び、地域に残って地域を起こそうとする「農業教育」が今以上に必要ではないだろうか。地域に住むということは、家族の養育、親の介護、地域の福祉の問題などの解決につながり、地元の祭りや行事などの後継者として地域文化の継承につながるのである。NHKの朝の連続ドラマでもパティシエとなって郷里石川能登に戻ってケーキ店を開き、地元食材を使っての町起こしや子育てに頑張っている主人公の姿が映し出されている。我々農業高校はトマトを栽培したり、パンを作ったりすることができる実践的な力、すなわち「リアルな力」を生徒たちに身に付けさせているのである。

農業教育は、もはや「食料生産教育」に留まるとはいない。六次産業化として地域に目を向け、そこで栽培し、それを加工、流通させるシステムを学ぶ「地域創生教育」となった。政府の地方創生大臣もこれからの地方創生に農業高校や農業教育が不可欠と熱弁されている。

今まさに「農業教育」を活用して、我が国の未来を、地方の未来を創生する時がきた。今である。



工業高校この10年間の歩み、そして提言

東京都立工芸高等学校長 鳥屋尾 史郎

1 はじめに

この10年、それぞれの工業高校が各校の実態に即して様々な工夫を重ね、特色化に向けた努力を行っている。本稿では都立工業高校全体の歩みと提言を述べたい。

2 学習内容等の変化

この10年でコンピュータが急激に学校教育へ浸透し、工業高校の卒業生には社会に出るすぐに役立つスキルとしてコンピュータの知識と活用を習得していることが求められてようになった。各校は3DCADによる製図、レーザー加工機、3Dプリンターなどを習得するにあたり、コンピュータ操作を積極的に生徒に指導するようになった。

また、一方では、厚生労働省が平成25年より始めた「若年技能者人材育成支援等事業」の「ものづくりマイスター制度」を活用することで、実際に社会で技術者や職人として働いている方から直接学ぶ授業により成果を上げている学校もある。

3 高度な機器類を使用する拠点校実習

先端的システム装置や高額な機器類を工業高校が共同で利用できる施設として、平成9年3月に「東京都総合技術教育センター」が開設され、各工業高校は年間2日間から4日間の「センター実習」方式で実習を実施していた。その後、平成15年3月に同センターを閉設したため、平成16年度から都立工業高校6校が設備実習拠点校に指定され、高額なシステム実習装置や高額なものづくり機器類が配置された。生徒が拠点校に年間2日間から4日間程度通って実習する「拠点校実習」が導入されて現在に至っている。

4 産業現場等における実習と単位認定

科目「課題研究」で「産業現場等における実習」が職業学科で初めて取り入れられたのは平成元年12月改訂「高等学校学習指導要領」からであり、「学校外の学修」として「現場実習」が単位認定できるようになった。平成17年4月より学校教育法施行規則97条、同99条により「学校外の学修における単位認定」による単位認定が20単位から36単位まで拡大され、学校外で実際に職業体験など実践的な態度を育成することとなった。各校においてもキャリア教育の一環として、長期休業期間等を活用してインターンシップの取組が行われるようになった。

5 デュアルシステム

平成13年度から蔵前工業高校において3年間文部科学省の研究指定校として「企業と連携したデュアルシステム」について研究が行われ、平成16年度より新たに開校した六郷工科高校において同省の研究指定校として「就業体験」29単位を認める全国で初めての「デュアルシステム科」が設置された。現在ではその成果から更に工業高校4校が「デュアルシステム」を取り入れ、地域企業、事業所との連携による教育を推進している。

6 新たな学校改編

平成16年の六郷工科高校の開校に続き、平成18年に総合工科高校、平成19年に橘高校、葛飾総合高校、八王子桑志高校、平成22年に多摩科学技術高校が相次いで開校した。また、平成18年には練馬工業高校はエンカレッジスクールの指定を受け、工業高校の学校改編が進んだ。

7 検定・資格取得とジュニアマイスター顕彰

公益社団法人全国工業高等学校校長協会では、計算技術検定・情報技術検定・製図基礎検定など

様々な検定を主催するとともに、関係省庁に実務経験を受験条件とする危険物取扱者や建設系の「施工技術者試験」などを新たに実施することを依頼し、多くの生徒が様々な資格・検定に取り組める環境を整備してきた。現在では200以上の職業資格・検定と約80のコンテストをポイント化する「ジュニアマイスター顕彰」制度により、毎年全国で1万名以上のジュニアマイスターが誕生している。都立工業高校でも、25年度には77名、26年度には87名の生徒がジュニアマイスターの認定を受けていることから、生徒の学習意欲向上に貢献する制度となっている。

8 中退防止と進路実現の取組

この10年においても工業高校に進学してくる生徒たちの中には、不本意入学者が依然として多く在籍し、各校とも進級、卒業に向けたきめ細かい指導、補習・補講等を計画的に実施して学習の基礎・基本の定着を図っている。そのため、工業高校としては中途退学者数が減少傾向にある。

また、近年の日本の経済状況により工業高校への求人数は全体として増加してきており、ハローワーク等との連携強化によって就職志望者は100%近い就職内定率となっている。進学については、大学や専門学校等からの積極的な働きかけがあり、指定校推薦、AO入試等で進路実現できるケースが増加傾向にある。

9 生徒募集の取組

生徒募集として小学生・中学生対象に平成19年度まで科学技術館で工業高校の紹介を行ってきたが、平成19年度より、各工業高校を会場として専門学科の学習内容・施設設備を生かした「わくわくどきどき夏休みワークショップ」を実施している。また、各学校は、専門分野の「ものづくり」の学習内容やものづくりの施設設備、在校生徒を指導者とした「ものづくりを中心とした体験学習」「出前授業」などを実施し生徒募集に取り組んでいる。

10 まとめと提言

この10年を振り返ると工業高校は、変化す

る社会の中で基礎・基本を精査しながらコンピュータを多く取り入れた授業に取り組んできた。上記のように「産業現場等における実習」「検定と資格取得」は更なる推進と成果が見られ、生徒の学習意欲の向上を図るために、今後も更に拡大する方向で取り組んでいく必要がある。

以上のことから今後の工業高校が更に役割を果たすため以下のような提言を行う。

(1) 「都立専門高校改編基本計画検討委員会報告書」に沿った工業高校の改革の推進

平成27年6月に発表された「都立専門高校改編基本計画検討委員会報告書」に沿って、工業高校の見直しを積極的に進めていく。

(2) 中退防止

中途退学者は全体として減少傾向にあるが、工業高校として更に中途退学防止に向けた工夫を行っていく必要がある。不本意入学者をできる限り少なくし、学習の遅れが起きないようにきめ細かい指導を進めていく。

(3) 資格取得の更なる推進

学科内容にとらわれない横断的な工業分野の基礎的な資格取得（危険物取扱者・電気工事士・情報処理技術者など）の充実により学習意欲の向上と自発的・創造的能力と態度を育成する。

(4) 工業高校の魅力のアピール

専門科目の少人数授業や体験的授業、公立高校ならではのものづくり機器類の充実、職業と直結した資格取得の取組、100%に近い就職内定率、指定校推薦等による高い大学合格率等による工業高校の高い進路実現を説明した生徒募集を行う。

(5) ICT教材等の共有化

ICT教材は作成するには時間がかかるけれども、生徒の理解度を上げていくため今後も力を入れていく必要がある。分かりやすい授業を目指して教材や授業の工夫を学校同士で共有していくことが大事である。

(6) 地域企業との更なる積極的な連携

地域企業や事業所との連携、新たな企業の開拓により、デュアルシステム校の支援体制や、各校で行っているインターンシップの指導体制を確立し、キャリア教育の一層の充実を図る。



東京都商業教育 この10年の歩み、そして提言

東京都立第一商業高等学校長 戸田 勝昭
(元都立商業高等学校長協会会長)

1 20年の歩み 都立高校改革推進計画

平成7年、京橋高校と京橋商業高校が統合され、都内初の晴海総合高校が開設された。

東京都教育委員会は、平成9年9月「都立高校改革推進計画」を発表した。生徒の多様化や少子化等の進行に対応するため、適正規模、適正配置を必要とした計画である。さらに、東京都教育委員会は、平成11年10月「第二次実施計画」を、平成14年10月に「新たな実施計画」を発表した。

これらの計画により、20年前に存在した以下の高校が統廃合されることとなった。

京橋商業高校・池袋商業高校・牛込商業高校・桜水商業高校・四谷商業高校・向島商業高校・台東商業高校・第二商業高校・赤坂高校・市ヶ谷商業高校・上野忍岡高校・深川商業高校。また、定時制商業科の多くは、チャレンジスクールや昼夜間定時制高校として統合された。

新設の商業高校としては、進学型商業高校として千早高校・大田桜台高校の2校が開校された。

2 都立専門高校改編基本構想検討委員会報告

平成26年8月に、都立専門高校改編基本構想検討委員会での検討状況が報告された。

現在、東京都の各々の商業高校においては、都立専門高校改編基本構想検討委員会報告書に示された、ケーススタディ・ケースメソッド・ディベート・知識構成型ジグソー法・ワールドカフェ・反転授業等をはじめとして、教育の国際化に対応できる様々な工夫を凝らした授業の研究が行われつつある。

また、模擬株式会社の経営、販売実習、商品開発、知的財産の創造・登録、電子商取引等の教育活動を実践して、地域や産業界にプレゼンテーションを行うなどのICTを活用した学習活動を充実させてきている。このような活動の集大成であ

る全国高等学校生徒商業研究発表大会において東京都代表として、見事な発表をも披露している。

さらに、難関大学の合格者数、高度資格の取得者数は、過去20年間を振り返ってみても最高の実績を挙げつつある。

3 商業高校の不易と流行

変化が激しい社会であればこそ歴史を顧みて、不易と流行の教訓を生かすことが重要と考える。

不易の部分では、「近江商人の三方よし（売り手よし 買い手よし 世間よし）」、「都鄙問答」、「論語とそろばん」等の精神は、東京都の商業高校でも積極的に取り入れられている。どんなに時代が変化しようとも、古（いにしえ）からの日本人としての誇りと商（あきない）に関する道を生涯にわたって生徒に身に付けさせることが肝要であると考えている。

流行の部分では、東京都の各々の商業高校は、高い目標を掲げ、商品開発や電子商取引等を通じて、企業との連携を積極的に推し進めることにより、ビジネスマナーやコミュニケーション能力、さらには、課題に対して自ら積極的に取り組む態度を育てている。

特にここ5年間は、NHKをはじめとしたテレビ局や在京新聞各社等のマスコミに都立商業高校が何度も取り上げられ、実学としての商業教育の面目を施しており大変心強い限りである。

現在、国においても、教育立国の実現に向けた改革の方途が研究されている。このことを好機に、東京都の商業教育においても社会の要請に応えるため、積極的に研究し、正すべきは正し、改めるべきは改め、進んで商業教育の振興隆盛に努力する決意を新たにしなければならないと考える。

4 知識基盤社会への対応

知識基盤社会に対応するために商業教育の喫緊の課題を以下に挙げる。

- (1) 教育課程編成においてどのような特色（人工知能、IoT、ビッグデータ等に対応）を持たせるか
 - (2) 自校の教育課程における商業（ビジネス）としての「育てるべき生徒像」
 - (3) 自校の特色、商業科目に対応した検定資格等
 - (4) 企業の期待する生徒像および検定資格等
 - (5) 都（市）教育委員会の商業教育への理解度
 - (6) 中学生・保護者・地域・関係諸機関から見た商業高校の置かれた立場
 - (7) 商業高校の強み、弱み、将来の見込み
 - (8) 商業高校から大学進学することの有利性
 - (9) 入社後、有効活用できる資格検定は何か
- これらの課題に対応した教育活動を愚直に実践していくことしかないと確信している。

5 国際的視野に立脚した生徒の育成

現在、グローバル企業に求められる人材とは、簿記がわかり、各国の税制をはじめとした会計制度の違いが徹底的に理解でき、その中でどうやって企業に、ひいては社会に貢献できるかという人材（ビジネスパーソン）が求められている。

このような中で「商業高校で目指す生徒像」を、どのようにして育成していったらよいか、ということも考慮に入れなければならない。

回答は、現行学習指導要領の教科商業科の目標である「商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる」にあると強く認識している。

同時に「校長が学ぶ姿勢を見せなければ、教職員は学ばない。教職員が学ぶ姿勢を示さなければ、生徒は学ばない。」。このことを良く自覚して、自校の教職員一人ひとりが、学習指導要領に一層深く精通して教育活動にあたることが重要である。

その上で、不易と流行の教訓に即した実践的な

教育活動を通じて、グローバルを意識した基礎的な「データ解析能力」や「未来予測」を身に付ける。そして、検定取得等で自信をつけ、商業教育における三言語「自然言語（国語・英語）」「会計言語（簿記会計）」「人工言語（情報処理）」を中心に、高校3年間で様々な「稼ぐ力（生きる力）」を身に付けていくことが肝要である。

商業教育の適時性という観点からも、10代の多感な時期に、先達の商（あきない）の教訓と企業が求めている現代に即した基礎・基本の内容を生徒に身に付けさせることが不可欠であることは、130年の商業教育の歴史が証明している。

6 提言

結論として、三言語を身に付け、国際的視野に立脚した生徒の育成を図ることが急務である。

商業高校の一時間一時間の授業の中には、稼ぐ力（生きる力）、未来予測、起業方法、解決策等、ありとあらゆるものが詰まっている。

付加価値や利益を生み出す模擬株式会社の経営、販売実習、商品開発、知的財産の創造・登録、電子商取引等の教育活動や検定取得、工夫を凝らした研究発表授業を実践することが不可欠である。

商業高校生の強みは、限りなく実社会に近いスキルを身に付けていることである。卒業後は、生涯に渡って「学ぶ構えが身に付いている」「働く覚悟ができていいる」ことが一番大きな財産である。

商業教育が大きく変わるこの時期、その最先端を担う東京都の商業教育が果たす役割は大きい。生徒、保護者、地域から信頼され、尊敬される商業人の育成に「チーム東京」として、東京都立商業高等学校及びPTA、東京都教育委員会並びに東京都産業教育振興会とともに全力を挙げて教育に邁進しなければならない。

私たち教師は、生徒個人の将来に関わるだけの仕事ではない。わが国の将来をも左右する仕事に携わっている。この教育への畏れを直視し、われわれは、自ら日常的に研修を重ね、教育者としての慧眼と力を磨き続けなければならない。

東京都の先生方とともに、生徒の夢と希望が実現する商業教育を推進して行く所存である。



家庭科教育 10年の歩み、そして提言

東京都立忍岡高等学校長 岡島 まどか
(全国高等学校長協会家庭部会代表理事)

1 新しいタイプの家庭科教育

平成14年に策定された都立高校改革推進計画は、平成23年で計画満了を迎えた。現在、都立高校の家庭に関する学科設置校は6校（併合科を含む）、コース（系）設置校は6校である。

都立忍岡高校は、平成18年4月に普通科と生活科学科を併設する単位制高校として改編され、今年で10年目を迎えた。生活科学科は、23区内で唯一の家庭科に関する専門学科であり、前身の都立上野忍岡高校の伝統と実績を継承し、大学進学の実現と将来のスペシャリストとしての資質・能力の育成、豊かな人間関係を構築する力を育てる新しいタイプの家庭学科を目指している。

学習においては、単位制を生かし、多様な家庭科専門科目を配し、少人数授業を展開している。スペシャリスト育成のため、2年次からは食物系列・服飾デザイン系列・総合（保育福祉）系列を中心とした専門性の高い科目を学び、資格取得を通して知識・技術の確立を果たしている。平成26年度検定合格実績（校長会家庭部会主催）は、66名の在籍者のうち、食物調理技術検定1級22名、被服製作技術検定1級17名、保育技術検定1級2名である。

また、国際人としての教養を身に付け、自己表現力を高めるため設置された、日本の伝統文化・外国語・舞台芸術に関する15の講座は誰もが選択でき、生活文化の伝承と創造に寄与している。

そして、本校のキャリア教育の大きな柱として、高大連携事業がある。スペシャリストを育てる学習支援として、大学・短大・専門学校の講師によるTT授業や大学の聴講生として単位取得が行われている。このことは、家庭科に関する大学への

進学者を多く輩出しており、その後の職業へとつながることで生活産業を担う人材となっている。

2 家庭科・福祉科における改編の方向性

東京都教育委員会は、平成26年8月に今後の専門高校の在り方について「都立専門高校改編基本構想検討委員会報告書」を策定した。この中で、家庭科・福祉科における今後の方向性については以下のようにまとめられる。

(1) 家庭科・福祉科における改善点

ア 保育・調理などにおける実践的な学習の拡充
東京に立地する強みを生かし、将来のスペシャリストの育成に向け、教育活動全体を通じてこれまで以上に上級学校や生活産業に関わる企業等と連携し、外部の教育力を活用した実践的な学習を拡充すること。

イ 資格取得に向けた上級学校への接続

専門性の高い資格取得に向け、理数系教科を充実した教育課程を編成し、上級学校への接続を図るとともに、ダブルスクールによる資格取得などの上級学校との連携を推進すること。

(2) 家庭・福祉に関する高校の検討

ア 新しい家庭科の設置

[保育人材の必要性について]

現在、都立高校の家庭科は区部に1校（2クラス70人）、多摩に2校（4クラス140人）設置されており、志望倍率は近年1.2倍前後である。これらの家庭科では、ヒューマンケアに関する学習を行い、上級学校に進学して保育士などの資格取得につなげている。また、「東京都長期ビジョン」では平成29年度末までに待機児童を解消することが示されているが、都の保育士は約2.2万人不

足すると推計されている。

[調理人材の必要性について]

調理師を養成できる都立高校の食物科は多摩に1校(1クラス35人)のみで、入選の最終倍率は2倍を超える。ここでは、高校卒業時に調理師免許が取得でき、卒業生の多くが調理分野に就職・進学している。今後の超高齢社会においては、専門調理師など食を支える人材の活躍の場が広がることが期待される。

[在校生の進路希望について]

「都立専門高校のニーズ調査」では、家庭科の在校生の88.2%が家庭科を希望して入学しており、65.9%の生徒が学びと関連がある進路を希望している。この結果から、「生活産業のスペシャリストを育成する家庭科」や「調理師免許を取得できる家庭科」として、家庭科に関する新たな専門高校を設置していく必要がある。

イ 新しい福祉科の設置

[介護人材の必要性について]

現在、都立高校の福祉科は、多摩に1校(1クラス35人)のみで、志望倍率は1.8倍を超える年度もある。高校卒業時に介護福祉士の受験資格を取得でき、平成25年度は25名の資格取得者を輩出している。平成52年度の都の高齢者人口は、412万人と推計され、要介護認定者数は70万人以上と推計されており、介護人材の必要性が今後高まっていく。

[在校生の進路希望について]

「都立専門高校のニーズ調査」では、福祉科の在校生の84.0%の生徒が福祉科を希望して入学しており、73.4%の生徒が学びに関連がある進路を希望している。この結果から、「介護福祉士受験資格を取得できる福祉科」や「広く福祉を学習する福祉科」として、福祉科に関する新たな専門高校を設置していく必要がある。

以上のことから、この報告書の内容を受け、家庭科・福祉科に関する新たな都立専門高校の設置が今後検討されていくと考えられる。家庭科教育

が目指す「自立」と「共生」を理念とした新たな学校が開設されることを期待する。

3 生活産業を担うスペシャリストの育成

家庭科の学習は、一生涯の生活を主体的に創造し、誰もが幸せに暮らすためにはどうしたらよいかを常に思考できる生徒の育成に取り組んでいる。教科の目標には「生きる力」が掲げられ、今後ますます進展する情報通信ネットワーク社会やヒューマンサービス社会における生活環境の変化をたくましく生き抜くために必要な学びである。

特に、専門教科「家庭」においては、少子高齢化の進展やライフスタイルの多様化、食育の推進などを受け、これからの衣食住、ヒューマンサービスなどにかかわる生活産業を担うスペシャリストを育成することが求められている。

そのためには、専門分野に関する知識、技能を高めるだけでなく、社会が求めるニーズやサービスを提供できる企画力・マネジメント力・コミュニケーション力を身に付けさせるとともに、地域産業や地域社会への理解と貢献を深めさせることが大切である。

さらには、生活における価値観やライフスタイルを通じた生活の質の向上を図るため、地球環境や家族の在り方等にも課題意識を持たせ、全体の福祉の向上や社会貢献に寄与する人材を育ててはならない。生活産業は、衣食住、保育、家庭看護や介護など、人間生活にもっとも密接にかかわるものである。したがって、安心安全であることはもとより、それに従事する職業人として、高い倫理観や規範意識、そして豊かな人間性をもつスペシャリストの育成が重要かつ急務である。

このことから、今後の家庭科教育は、生活を取り巻く課題と背景に密接に結びつき、その解決を図る力と社会に貢献する実践的態度の育成に積極的に取り組んできた実績と成果により、今後ますます見直され重要度を増していくものとする。



東京都の全日制総合学科高等学校の 歩みと現在の取組

東京都立杉並総合高等学校長 若林 直司
(東京都高等学校総合学科教育研究会会長)

1 東京都の全日制総合学科高等学校の設置

総合学科高校は、普通教育を主とする「普通科」、専門教育を主とする「専門学科」に並ぶものとして、平成6年度から全国に導入された。総合学科で行われる教育の特色として、幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択し学ぶことが可能であり、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視することや、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視することなどが挙げられる。

東京都では平成8年度に晴海総合高等学校が開校し、その後平成11年10月に策定された都立高校改革推進計画第二次実施計画により各学区に1校程度の設置が計画され、平成14年10月に策定された都立高校改革推進計画「新たな実施計画」により9校の設置が決まった。平成23年度に王子総合高等学校が開校したことにより完成を見た。

10校の開校年度と各学校の系列は下記表の通りである。

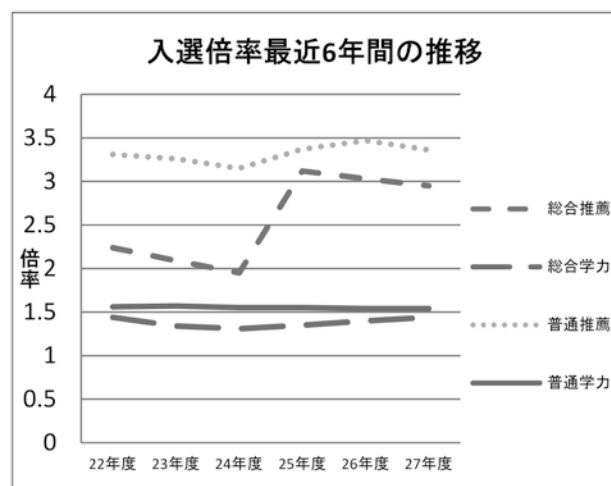
| 学校名 | 開校年度 | 年数 |
|----------|-------|------|
| 晴海総合高校 | 平成8年 | 20年目 |
| つばさ総合高校 | 平成14年 | 14年目 |
| 杉並総合高校 | 平成16年 | 12年目 |
| 若葉総合高校 | 平成17年 | 11年目 |
| 青梅総合高校 | 平成18年 | 10年目 |
| 葛飾総合高校 | 平成19年 | 9年目 |
| 東久留米総合高校 | 平成19年 | 9年目 |
| 世田谷総合高校 | 平成20年 | 8年目 |
| 町田総合高校 | 平成22年 | 6年目 |
| 王子総合高校 | 平成23年 | 5年目 |

| 学校名 | 系列 |
|--------|---|
| 晴海総合 | 社会・経済 国際ビジネス 語学コミュニケーション 自然科学 情報システム 芸術・文化 |
| つばさ総合 | 国際・コミュニケーション 美術・デザイン 科学・技術 スポーツ・健康 生活・福祉 |
| 杉並総合 | 人間・社会 科学・環境 ビジネス メディア・文化 国際コミュニケーション |
| 若葉総合 | 人間探究 伝統継承 情報交流 芸術表現 |
| 青梅総合 | 文科・理科 生命・自然 環境・資源 食品・健康 生活・福祉 |
| 葛飾総合 | 国際コミュニケーション 環境サイエンス 情報メディア ロボティクス スポーツ福祉 生活アート |
| 東久留米総合 | 人文科学 自然科学 情報テクノロジ 科学 看護福祉 美術デザイン |
| 世田谷総合 | 社会・教養 国際・文化理解 環境・サイエンス 情報デザイン ライフデザイン ものづくり |
| 町田総合 | 暮らし ひと 自然 まち |
| 王子総合 | メディアネットワーク ビジネスコミュニケーション 工業・デザイン 伝統文化・工芸 スポーツ・健康 |

2 入選倍率の推移（過去6年間）

平成22年度以降の東京都の入選倍率の推移は次ページの表の通りである。学力検査に基づく選抜における入選倍率を見ると、普通科と最大で0.24倍もの開きがあった倍率が、平成27年度の入試では差が0.1倍になっている。このことは都民の皆様に総合学科高等学校への理解が進んできたことと、総合学科高等学校におけるキャリア教育を中心とした教育内容が中学生や保護者にも認められてきたことの結果だと推察できる。（※推薦に基づく選抜の総合学科高校における推薦人数の割合は、平成25年度から50%が30%に変わった。）

| 年度 | 総合学科 | | 普通科 | |
|--------|------|------|------|------|
| | 推薦 | 学力 | 推薦 | 学力 |
| 平成22年度 | 2.24 | 1.44 | 3.31 | 1.56 |
| 平成23年度 | 2.09 | 1.34 | 3.26 | 1.57 |
| 平成24年度 | 1.95 | 1.31 | 3.15 | 1.55 |
| 平成25年度 | 3.12 | 1.35 | 3.37 | 1.55 |
| 平成26年度 | 3.03 | 1.40 | 3.47 | 1.54 |
| 平成27年度 | 2.95 | 1.44 | 3.36 | 1.54 |



3 総合学科高等学校教育活動成果発表会の実施

都立の全日制総合学科高等学校は、平成25年度から晴海総合高等学校を会場として「東京都立総合学科高等学校教育活動成果発表会」を実施している。その目的は生徒による都立総合学科高等学校の特色や教育活動の発表を通して総合学科高等学校相互の理解を深め、各校の教育活動の充実、生徒のプレゼンテーション力や企画力の向上等に資するとともに、一般都民をはじめとする総合学科教育に関心をもつ全ての人々に総合学科教育への理解を深めていただく機会とするためである。

実施にいたる背景としては、平成19年4月に東京都教育委員会が出した「新しいタイプの高校における成果検証委員会報告書」や平成24年度の都立総合学科部会による成果検証研究の結果から、在学している生徒の学校満足度が80%を超える高い数値の学校が多いにもかかわらず都民や中学校生徒・保護者の理解が進んでいないことへの対策がある。総合学科高校の生徒が都民の皆

様の前で学習成果等を発表することにより総合高校の特色ある取組を広く都民に周知することができ、こういった取組が先述した入選倍率向上の原因の一つになったとも考えられる。同時に生徒のプレゼンテーション能力向上の場としても大変有効に機能している。



4 これからの取組

東京都の総合学科実践研究会では、総合学科高等学校の新たな“identity”の確立をめざし、基礎的・汎用的な能力をいかにして伸ばすかを研究している。東京都総合学科教育研究会では平成27年度に新たに3つの取組を始めた。まず、キャリア教育部会を立ち上げ「産業社会と人間」の研究授業を実施し、総合学科高等学校間で教員が相互に交流しながらキャリア教育への理解を深める取組を始めた。また、国際理解教育推進の取組として外部講師を招き、「世界の言語と文化を知ろう！世界の韓流と日本の韓流－隣国を知ろう！」という講演会を実施した。さらに、東京都と神奈川県の実験校がキャリア教育の一層の発展のために連携し、今年度から互いの教育活動成果発表会に代表生徒を派遣し合い、発表する場を設けることとした。

次期学習指導要領の改訂では社会・世界との関わりや、何を知り何ができるか、知っていることをどう使うかが問われる。総合学科高等学校ではこれまでも数値で計ることのできない力の育成に力を入れてきた。今後も時代の先頭を走り、未来を担う人材育成に全力で取り組んでいきたい。



福祉科の歩みとこれからに向けて

～地域の福祉・医療に貢献する人材育成のために～

東京都立野津田高等学校長 池田 克則

1 はじめに

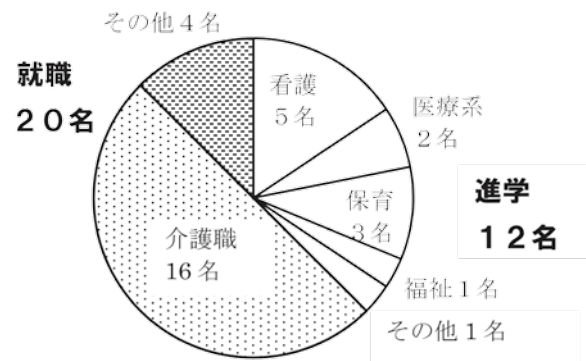
東京都立野津田高等学校は昭和50年に「未見の我の発見」を教育目標の一つに掲げ、開校した。その後、平成8年に普通科でコース制を導入し、普通科3クラスと看護福祉コース1クラス、健康スポーツコース2クラスとなった。看護福祉コースでは、平成10年よりホームヘルパー3級の取得講座を開講し、その実績を踏まえ平成13年にはホームヘルパー2級の取得講座を開講し、多くの資格取得者が卒業し、介護職として就職したり、看護学校へ進学したりした。このコース制を基盤に平成18年度から、普通科、福祉科、体育科の3学科に学科の改編を行った。東京都で初めての福祉科であり、都立高校では唯一、介護福祉士の国家試験受験資格の取得できる学校である。

2 福祉科の教育目標

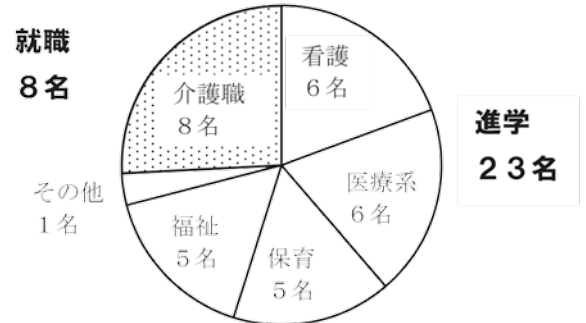
- ◎ 生命の尊さを真摯に学び、人間尊重の精神をしっかりと身につけ、共生の視点より社会の援助者として行動できる資質及び心を養う。
- ◎ 福祉に関する基礎的・基本的知識や技術を身につけ、将来、福祉や関連領域で活躍しうる力を養う。
- ◎ 知識の吸収のみならず、日常的なボランティア活動や体験的な学習などの実践的活動により援助者としての資質の向上を図るとともに、地域社会に貢献する活動を行う。
- ◎ 国民の健康の保持・増進に寄与する能力・態度を養う。
- ◎ 高齢、障がい、疾病等による様々な問題に対する援助、介護及び自立生活の実現の寄与に努める能力・態度を養う。

3 卒業生の進路状況

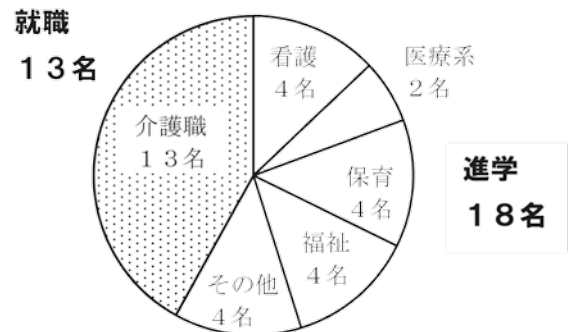
平成24年度（32名卒業）



平成25年度（31名卒業）



平成26年度（31名卒業）



進学は、福祉や医療系が圧倒的に多い。また、就職もほとんどが介護職として就職している。

3年間の専門学科での学びを通して、具体的に進路を考え、実現につながっているといえる。

4 国家試験合格者数

| 年度 | 受験資格取得者数 | 受験者数 | 合格者数 |
|----|----------|------|------|
| 24 | 31名 | 23名 | 21名 |
| 25 | 30名 | 29名 | 25名 |
| 26 | 31名 | 31名 | 27名 |

平成26年度は、卒業生全員が国家試験を受験し、27名の生徒が合格した。模擬試験を2年生から開始し、国家試験の対策講座を放課後実施したり等の国家試験の対策の成果があらわれてきていると言える。

5 地域からの期待

100か所以上の高齢者施設、障害者施設、保育園等で実習させていただいている。これらの施設から、卒業後の生徒の就職に期待を寄せていただくことも少なくない。高卒の介護職の若くて、素直な姿勢に多くの期待を寄せていただいている。3年生の「実習Ⅱ」の実習報告会には、実習施設の職員も参加していただいている。2年生も参加し、先輩から後輩への学習の伝承も大切にしている。

平成25年度入学生からは、「医療的ケア」の基本研修も実施しており、地域からの期待は一層高まっている。



3年生の実習報告会



医療的ケアの実習

6 地域の中での産業教育

本校で平成8年にコース制を導入してから、今

日まで、近隣の施設や学校等に大変お世話になってきている。10年間以上、実習等でお世話になっている施設もあり、また実習先へ就職させていただいた卒業生も多々いる。

福祉教育、殊に介護福祉士の養成校は実習無しでは成り立たないため、近隣の協力を得られなければ成立してこなかった。また、町田市を中心に多摩市、府中市、日野市、稲城市等の高齢者施設、障害者施設、保育園、病院、学校等多くの実習先や見学先で他の高校生では学ぶことのできない生きた学習を3年間積み重ねることができた。3年生は、卒業を前にこれまでの学習を振り返りながら地域へ出かけて行って学んできたことの成果がいかにか重要であったかに気づくことが多い。人を支えることを業とする職業教育の人から学ぶことの大切さを地域の中で学んでくることができた。

7 これからの課題

高校生が福祉を学ぶ意義は大きい。多くの命に向き合い、その尊さを体験を通して学ぶ。そして、命を大切にす態度とそのための知識と技術を身につけていく。そして、その根底にあるものは自尊感情である。学校だけでなく実習やボランティア等の活動を通し、自尊心を育て、自分の周囲の人を尊ぶ心を養うことが福祉教育においては重要であると考え。介護福祉士の重要性が増し、養成校のカリキュラムが大きく改編され、学習時間も増加してきている。今後、医療ケアの学習が増える見込みもあり、さらに授業数の増加が見込まれる。高校においては基礎学力を十分につけていくことも非常に重要であり、専門科目との学習の両立が今後の課題と言える。

また、地域の協力なくしては成り立たない教育であり、15年、20年と地域に根付き、地域とともに成長できるよう、様々な取り組みを検討していくことが重要であると考えている。



白山高校の歩みと教育改革

京北学園白山高等学校副校長 杉原 米和

1 白山高校の歩みと教育改革

白山高校は、明治時代の哲学者井上円了が、自分の頭で考え、判断し、実行できる青年の育成のため、1887（明治20）年に哲学館（現東洋大学）を設立したことに始まる。そして社会に必要な実業教育の場として白山高校の前身京北実業学校が1908（明治41）年に文京区（現東洋大学白山キャンパス）に設立された。新学制が実施されて京北商業高等学校となり、2002（平成14）年に校名を変更し京北学園白山高等学校となった。2011（平成23）年4月には学校法人東洋大学と合併し、新校舎が完成するまでの間、北区赤羽台に移し、それまでの白山高校とは違った新しい教育をスタートさせた。

現在は募集停止をして、休校状態である。

本校での取り組みは、最初は校名変更から始まった。本学園には、他に普通科高校を併設しているため「商業課程」をそのままにして、校名とカリキュラムを大幅に変更することで生徒のやる気を喚起し、大学進学の実績も大幅にアップし始めた。以後、文系大学進学を目指す商業課程のある進学校として進学実績をあげてきたが、大学教授の出前授業や大学の卒論発表会を行うなど生徒の意欲を高める「新しい教育」にも取り組んできた。

白山高校は「学力と人間力」の両方の育成を目指している。「進学指導」と「特色ある人間教育」の「二兎を追う教育」である。白山高校は「PBL」（プロジェクト・ベース学習）や「課題研究」を中心とした、生徒の意欲を高め自信をつけさせる人間教育、それを土台として、それぞれ生徒の進路実現を応援する。

学校創りの3本の柱は、次のとおりである。

1. 進路設計する力を育てる

2. 意欲を育てる探究型の学び（「PBL」、「課題研究」等）

3. 専門的職業人への挑戦

先ず、教育改革の1点目は進学指導の強化である。土曜日と朝の時間を大きく変えた。毎土曜は、授業と特色あるキャリア教育を実施した。「朝学習」で学ぶ習慣づくりをし、「英・国・数」の順で10分間テストを実施した。これは1年から3年生まで同じ時間に実施し基礎学力の定着をはかった。又、実力テストの回数を増やし、教員の分析会を持ち、ベネッセファイナンスシステムという生徒一人一人の個人データ（カルテ）を活用して生徒との進路面談を細かく実施した。その他にも進学指導のために生徒の大学訪問、進路講演会、保護者のための講演会も実施した。夏は1年生全員が河口湖にある東洋大学セミナーハウスで勉強合宿を実施し、又、1～3年生まで共に10日から2週間ほどの講習を実施した。そのほかにも検定資格取得のための英検、情報、簿記講座を実施した。

2点目は、キャリア教育の推進である。本校のキャリア教育は、生徒自身が自分の良さや可能性に気が付き、夢を持ち、その実現に向けて努力することを援助することである。それをあらゆる教科で支援する。土曜日を中心に生徒の興味関心を引き出し、主体性を養う「CUD（キャリア・アップ・デー）」という取り組みを始めた。授業だけでなく、PBLの発表会、資格取得講座、社会人や大学生による「ようこそ先輩講座」、面接指導、課題研究特別授業、大学の先生による進学講演会等を実施した。又、土曜日の放課後、東洋大学留学生との交流会「レッツ・チャット」（英語で話そう）を3回実施。又、大学や専門学校見学・インターンシップ、博物館見学、保護者対象講座と

して「パソコン講座」や「親子関係講座」を実施した。

3点目は、資格取得である。英検、漢検、数検、全経簿記、情報検定、全商簿記、日商簿記に取り組んだ。

2 生徒の可能性を拓く「PBL（プロジェクト・ベース学習）」

『全私学新聞』には「新世紀を拓く教育」と題して「京北学園白山高等学校は、米国のミネソタ・ニューカントリースクール（チャータースクール）で行われている学習プログラム『プロジェクト学習』を平成14年度から導入した（平成16年3月3日号）」と紹介されている。

PBLとは、自主学習のための一方法で、テーマと目的を定め、その追求のプロセスを体験学習や問題解決学習によって構成するものである。

このPBLによって生徒たちは、自分の可能性を確信し、将来の進路への展望や希望を抱くようになる。実際に、本校でも、この学習により生徒と教師の関係が良くなり、生徒が自信を持ってきた。

本校でのPBLは平成14年9月9日の千葉大学教育学部の上杉賢士教授による解説と企画書作成の2時間の授業から始まった。その後、学年所属の担任団と教科が授業の一部やホームルーム、放課後などを利用して取り組んだ。平成15年2月28日に「プロジェクト・ベース学習プレゼンテーション」が生徒・教師・父母・上杉先生と研究生及び報道陣の前で行われるまで、国語4、商業1、情報処理5、社会4、ホームルーム5の19時間を当て、その他放課後や休み時間、家庭学習まで加えとかなりの時間を生徒たちは費やしたことになる。プレゼンテーションの前日などは、夜11時過ぎまで、先生と生徒がプロジェクターを使い真剣に予行演習をしている姿が特に印象的であった。この学習は、自分が関心のあることであればどんなテーマでもよく、グループでも個人でも取り組んでもよい。出てきた内容は、①スポーツ（25人）・・・大相撲研究、サッカーの歴

史など ②文化（24人）・・・サザン秘密解明計画、ドラえもん研究など ③個人的関心（18人）・・・友達を作る方法、貧血対策、テストの点数アップなど ④環境問題（16人）・・・東京都のゴミ問題、町の美化など ⑤部活動（6人）・・・インターハイ予選で勝ち残るなど ⑥自分の進路（5人）・・・プロサーファーになる準備、医者になる準備など ⑦生活（3人）・・・害虫ライフ、カレーの作り方とスパイスの効能など ⑧社会（3人）・・・銃犯罪など、の8つのカテゴリーに分類される。

内容が多岐にわたることやプロジェクトを進めるために「実在の人物」も情報源にするという条件もあるため、生徒たちは、様々な分野の先生や地域の人々にもインタビューに出かけるなど、学校全体を巻き込んだ学習となっていた。

進路との関係では、一例としてプロジェクト・ベース学習で＜少年法＞に取り組んだ生徒が、大学の法学部に進学した。



3 「自信」を育む学校として

人は生きていく上で様々な体験をする。もし、その過程で「自分は、たいしたことない」とか「俺ってダメなやつ」など、自分自身にマイナスのレッテルを貼ってしまったら、それこそ残念なことである。そんなレッテルはすぐにはがして、生徒たちが「やればできる」という自信をつけることであればと思う。

本校では「今まで何をしてきたか」よりも「これから何をしたいか」に焦点を当て、自信を持ってスタートするための支援をしている。

白山高校の歩みは生徒たちが自信と可能性を持つ学校創りの道である。



動くものを教材に ～ミニ SL の製作をふりかえる～

日本工業大学駒場中学・高等学校長 吉田 忠雄

1 はじめに

本校は、明治40(1907)年に設立認可、翌年2月に開校した東京工科大学がはじまりです。校舎は現在の文京区小日向1丁目にありました。学科は、機械・電工・建築・採鉱冶金の4科が設置され「即戦力となる工業技術者を、生きた工業教育によって育成する」を教育方針として、学び、技術を磨き、実務能力を高める教育運営を行いました。

開校まもない明治43(1910)年、校内の実習工場において飛行界の権威、日野熊蔵大尉の指導のもとに日本初の国産飛行機が組み立てられました。先進の技術とともにあり、それを生きた工業教育としていく先駆性と実学重視の伝統はこうしてはじまりました。

明治44年8月に校舎を神田錦町に移転。昭和23年4月に神田より現在の東京都目黒区駒場に移転、東京工業学校を廃止し、東京工業高等学校を設置。昭和42年4月には、日本工業大学を開学し中学・高校・大学を運営する学園になりました。平成18年には、工業科に理数工学科と国際工学科を設置、翌年の平成19年には、この2工学科を共学にして普通科設置の準備が整いました。

平成20年に普通科3コース(特進コース・理数特進コース・総合進学コース)を設置、

●普通科 特進コース・理数特進コース・総合進学コース(共学)

●工業科 理数工学科・国際工学科(共学)

機械科・建築科・電子情報システム科(男子)で運営しています。

2 動くものを教材に

「工業教育の原点は体験学習に」。この考えを基本に、本校では生徒が興味や関心を持つ教材開発を行ってきましたが、さらに動くものを教材にしたいという長い間の希望があり、昭和51(1976)年、より製作の実感があって、ものをつくる喜びが感じられ実習設備を総合的に活用できる実習の教材として、ミニSL(ミニ蒸気機関車)製作を決定しました。

●ミニSLの仕様

型式 旧国鉄 9600形

スケール 1/10

重量 約125kg

レール 5インチ(127mm)

ここで、ミニSLの主要部分の名称と加工方法を挙げてみます。

鉄製ボイラー：溶接実習

テンダー(炭水車)：溶接実習

エンジン：マシニングセンタ実習

リンク：マシニングセンタ実習

フレーム：マシニングセンタ実習

軸箱：フライス盤実習

安全弁：NC旋盤実習



ミニSL 9600形

車輪・車軸：旋盤実習

煙突：旋盤実習

キャビン：板金、プレス、レーザ実習

デッキ：板金、プレス実習

オイルタンク：板金、プレス実習

ドーム：プレス実習

板バネ：板金実習

車輪・エンジン：鋳造実習

約 700 点になる部品加工の多くは、フレームやエンジンなどかなり難しい加工と精度が必要なことから、マシニングセンタや NC 工作機械を導入し、部品を製作する NC 実習を強化しました。

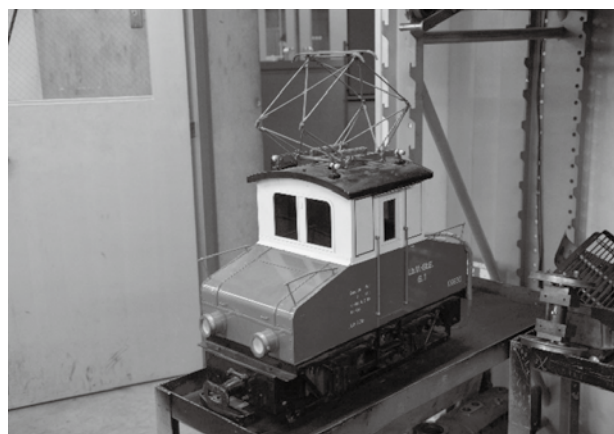
このように、ミニ SL の製作を教材にしてスタートしましたが、ミニ SL では本物の機関車と違いどうしても部品としてないものがありました。それは、教材としての歯車がありません。そこで市販のガソリンエンジンを使用し歯車により回転数を減速させ駆動させる、ミニ DL（ミニディーゼル機関車）の製作が行われることになりました。歯車の加工ができるようになり、歯切り、歯車研削と教材として使われました。また、電気関係の科にも教材をとということで、ミニ EL（ミニ電気機関車）の製作に着手しましたが、ミニ DL は市販のエンジンの使用によりギヤボックスや歯車、車輪の製作で設計できましたが、ミニ EL に使用できる特性を持った汎用の直流モータが見つかりません。

比較的近い直流モータとして、自動車のワイパー用のモータを検討いたしました。始動時の出力に問題がありミニ EL には適さないことがわかりました。いろいろな直流モータを検討した結果、ミニ EL に適する市販のモータがないために、本校で製作することになりました。

直流モータの製作という、経験のない「ものづくり」でしたが、専用マグネットの試作・購入やコアの打ち抜きをするプレス加工機、巻き線機の購入、バラシングマシンなどの購入により、時間はかかりましたが、50W と 80W の 2 種類の直流モータの試作が完成しました。このモータの完成により EB 形電気機関車が完成し、幅 5 インチ

ゲージのレールを走るミニ機関車は、SL、DL、EL の 3 種類になりました。

この EB 形機関車は、主に電子機械科の教材として製作され、1 年間かけて完成した EB は各自で最終の塗装が行われ自宅に送られました。



ミニ EL EB 形

3 おわりに

ミニ SL を教材として機械科の実習カリキュラムに取り入れ「ものづくり」を行ってから 40 年になります。動くものを教材にという考え方は、学園創立以来の方針であり、ミニ SL の製作、組み立てという教材に恵まれ、工業科の教員を中心に DL、EL と作る楽しさ体験ができたことは、生徒にとって良かったと思っております。

また、実習のみならず SL 部品の製図、駅舎の製作、直流モータの研究など、機械科・建築科・電子情報システム科に SL 関係の教材として使用されました。

平成 20 年に、本校は東京にある私立の工業高校（現在 6 校）の中で最後に普通科を設置致しました。普通科を併設、男女共学（一部は男子のみ）になりましたが、ものづくりの考え方は今も生きています。ミニ SL の整備、保守部品の製作、認可ボイラーの点検、部活動など今も存在感を示しています。また、本校の正門から校内に約 120 m の 5 インチレールが敷設されており、両端にはターンテーブルが設置されています。学園祭、行事、部活動で活躍しています。これからも、どの科・コースにおいても「ものづくり」の楽しさ体験を生かしながら学校運営を実施して参ります。



高等学校看護教育・この10年

爱国中学校・爱国高等学校長 織田 奈美

1 高等学校における看護教育

高等学校での看護教育は、准看護師養成として昭和39年(1964年)に始まりました。その後、平成11年(1999年)12月に「保健婦助産婦看護婦養成所指定規則」の一部改正が行われ、平成14年度入学生から准看護師養成カリキュラムの総時間数を旧来の1500時間から1890時間にするとの提言を受け、看護高等学校は大きな節目を迎えました。看護教育を継続する高等学校は、「5年一貫(高校3年間で准看護師資格を取得せず2年の専攻科を含む5年で看護師国家試験受験資格を取得)」「准看護師(高校3年間で准看護師受験資格を取得)」「看護専攻科(准看護師が2年で看護師国家試験受験資格を取得)」「看護進学(高校で資格を取得せず看護系大学へ進学)」「技能連携(近隣の准看護師養成施設との連携)」の教育課程のいずれかを選択し、今日に至っています。

2 看護師教育(2年課程)のカリキュラム改正

厚生労働省医政局看護課の平成19年4月16日の「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」を受けて「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」及び「看護師等養成所の運営に関する指導要領」の改正が行われ、平成21年4月1日からこれが適用されました。近年の医療環境の変化に対応するため、看護師教育の基本的考え方については対象者を「健康を損ねている者」のみでなく「疾患や障害を有している生活者」とし、看護実践の局面や対象を「終末期や障害」も含めること、また多職種と連携・協働した「チーム医療」の中で看護の役割を果たすこと等が盛り込まれました。

3 高等学校学習指導要領改訂

平成21年3月9日の「学校教育法施行規則」の一部改正と「高等学校学習指導要領」の改訂により、平成25年度入学生から新カリキュラムとなりました。「看護科の目標」は現行通りで変更なく、①看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させること。②看護の本質と社会的な意義を理解させること。③国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育てること。の3点です。

今回の改訂は、平成20年1月の中央教育審議会の答申を受け、医療の高度化や患者の高齢化・重症化に対応できる専門性の高い《看護判断能力》、安全管理技術や医療機器等に関する安全確実な《看護技術》、看護倫理・コミュニケーション能力を持ち人権を尊重する《豊かな人間性》という、人材育成の観点で進められました。そして教育内容の充実を図るため、専門科目は改訂前の6科目を整理再構成して13科目とし、さらに「看護の統合と実践」が新しく加わりました。

看護の学習を進める上で最もその成果が問われるのは「看護臨地実習」です。この科目は従来の《基礎看護》《領域別看護》と、新設された《統合実践看護》から構成されています。特に統合実践看護臨地実習では、成人・老年・小児・母性・精神などの専門分野で履修した看護学を、在宅看護論も含めて臨床で実践できるよう、知識・技術を統合するとともに、専門職として必要な能力と態度を育てることを目標としており、本校では最終年度の専攻科2年次において、大学病院でのリーダー業務見学・患者様2名受け持ち・夜間体制の業務見学などを行っております。

4 看護専攻科修了生の大学編入

看護科を設置する高等学校は、この10年間での閉科・新設の結果4校増えて全国で95校となりましたが、その約85%が5年一貫校もしくは専攻科併設校です。

平成10年6月、学校教育法の一部改正によって専修学校からの大学編入が制度化され、翌11年4月1日から施行されました。その際、残念ながら高等学校の専攻科は中等教育に属するという事で、高等教育である大学への編入学は適用されませんでした。生徒たちは幼い頃からの夢を実現すべく看護高等学校へ入学し、高校1年生から人の命に係わる専門学科に学ぶ自覚を持って自らを律し、高校2年生から始まる臨地実習で貴重な経験を重ね、専攻科では2年という限られた修業期間を全力で学び、養成制度で最年少の20歳で難関の国家試験に合格して「看護師」になります。専攻科修了者の中には、一日も早く医療の現場において患者様やご家族のために尽したいと思う者も多くおります。しかしその一方で、深く《看護学》を学びたい、《保健師資格》や《助産師資格》を取得したい、あるいは《高等学校教諭「看護」の教員免許状》を取得して母校の教壇に立って後輩たちを育てたい、と願う生徒たちのために大学編入の途を開くべく、全国看護高等学校長協会は文部科学省への要望を継続して参りました。

その後、多方面からのご理解ご協力をいただき、高等学校でのキャリア教育や職業教育の充実をとの観点から検討が進み、平成26年12月の中央教育審議会の答申を受けて「学校教育法等の一部を改正する法律案」が翌27年6月に衆参両院で可決・成立、6月24日に公布され、平成28年4月1日から施行されることとなりました。

この法改正により既卒者も含めて高等学校専攻科の卒業生にも大学・短期大学編入の途が開かれ、実行するにはいくつかの課題はあるものの、長年の念願をかなえることができました。

ご尽力下さった皆様に深く感謝申し上げます。

5 東京都内唯一の「看護高等学校」として

愛国中学高等学校は学校法人愛国学園を経営母体とする創立77年の女子校です。普通科・商業科・家政科（調理師養成施設に指定）、そして都内唯一の看護の専門教育を行う高等学校として、昭和41年に衛生看護科（准看護師養成3年課程）を同55年に衛生看護専攻科（看護師養成2年課程）を開設し、「親切正直」の校訓の下で知識・技術・態度の研鑽に努めております。衛生看護科の生徒たちは高校生として普通教科を学び、すべての学校行事に参加し、クラブ活動で汗を流し、生徒会活動をしながら専門教科を修めております。



平成23年3月11日の東日本大震災。経験したことのない強い揺れと交通機関の混乱。大都市東京に暮らす便利さと脆さが交錯した一日でした。

4月から愛国高等学校衛生看護科への入学が決まっていた生徒たちは、震災当日は中学校3年生でした。「人の命を救いたい。」「被災なさった方々のために何かしたい。」入学式までの1か月で志望動機に震災の記憶が深く刻み込まれました。

平成28年3月、あの日の中学3年生は5年の歳月を経て専攻科を卒業し、誓った心に国家資格を携えて、病院で介護施設で保育園で学校で街中で、あるいはご家庭で、看護職者として社会貢献を始めます。後期高齢者が激増する2025年に向けても、15歳から看護の道を歩んで来た卒業生が医療現場で活躍し、社会の安心安全に貢献できますれば、幸いこの上ございません。



中学校技術・家庭科教育 この10年の歩み、そして提言

新宿区立新宿養護学校長 寺島 京子

1 はじめに

東京都産業教育振興会 60周年、誠におめでとうございます。

平成17年に50周年を迎え、さらに10年の時が流れ、その速さに驚くばかりである。諸先輩、関係者の方々の築かれてきた歴史の厚さ、重みに敬意と感謝を申し上げたい所存である。

本会報誌には会の目的が記されている。それは、「産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、」とある。まさに互いに手を取り合って、若者の未来をよりよい方向へ導く道標のような役割を果たしていると確信している。

近年、科学技術の発展をはじめとする様々な分野が大きく変化している。そして、今後の社会構造や雇用環境の変化、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展等により、今ある職業もやがては消えていくものが多々あると言われている。しかし、どのような時代においても「生きる力」をばぐくみ、よりよい社会を築くことのできる人材の育成は不易であり、産業教育がその役目を担っていると自信をもって言えることである。

2 会報誌について

今年の8月、会報誌148号が手もとに届いた。8ページ構成の紙面に、多くの貴重な内容が記されている。シリーズとして在校生からのメッセージは、青春真っ只中の生徒の学校での様子が伝わってきて、義務教育終了後の進路としてとても興味深く読んでいる。生徒の生き生きと学んでいる姿に触れることは、遅しさを、しなやかさを感じるとともにエールを送っているページでもある。

教員の実践報告は、各々の授業風景や学校での

特色ある取組がよく分かり、現場での苦勞と共に、全てはこれからの未来を担う若者のために多くの方々が力を注いでいることに、胸を熱くする。

がんばる東京の産業界のページでは、様々な会社の事業内容を知ることが出来、何よりも身近な場所にあり興味・関心をもって読んでいる。

情報量の多いこの会報誌は、会員のひとつの研修の場であり、未来へのパスポートのような役割を担っている。読者側は好き勝手の思いで読んでいるが、編集される方々は、おそらく大変な仕事であろうと頭の下がる思いで一杯である。

3 中学校技術・家庭分野から

学習指導要領が全面実施され、4年目を迎えた。技術・家庭科の目標は「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。」ことにある。その目標から各学校においては、限られた時間数の中で創意工夫をしながら、教材研究・授業研究等、日々生徒のために教員はしっかり研鑽を積んでいる。

中学生を対象としたものづくり教育フェアも生徒の学びを拡げている。創造アイデアロボットコンテスト、木工チャレンジコンテスト「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」「あなたのためのお弁当コンクール」「あなたのお弁当コンクール」等、様々なコンクールがある。お弁当コンクールにおいては、食べてもらう人に思いを馳せ、献立作成から調理に至るまで生徒がチームとなって技を競い合う。部活動で汗を流す兄のためにボリュームのあるお弁当を作りたい、最近疲れている母のために疲れを癒すお弁当を食べてもらいたい等、願いを込めてお弁当

を作ることは、単なる調理技術の習得だけではない。実技審査においては、限られた時間の中でチームとして協力し、ひとつのことをやり遂げることや、お弁当を作りながら人を思う優しい気持ちを育成する等、生徒の持っている力を縦にも横にも伸ばしていく。このようなことから、持続可能な社会の構築においても、本教科の学習の果たす役割は大きい。

4 作文コンクールを振り返って

東京都産業教育振興会では中学生、高校生、専門学校生を対象として毎年、作文コンクールを実施している。内容としては、技術・家庭分野の学習を通して学んだことや職場体験の思い出、将来の夢や希望、家族のこと等、多岐にわたっている。また、作文だけでなく、表紙も生徒自身の作品である。個性豊かな表紙の作品は、毎年力作ぞろいでレベルの高さを物語っている。表紙は、1名しか採用されないため、採用されなくても落胆せず僅差であったことで、次への頑張りにつなげてほしい。第25号の作品集では、「技術だけでなくコミュニケーションも身に付けていきたい。」「苦にならずにこの社会で生き抜く方法は無い。幸せは苦の後に存在するから。」とある。このように作品集からは、中学生、高校生、専門学校生の日常生活の中で、感じたこと、考えたことをさわやかに、そして力強く自らの思いを述べ、着実に未来への一歩を踏み出していると感じる。そしてそこには、明るい未来がみえている。

最近、我が子への愛情がもてない、子育てにストレスを感じている等、社会的な問題になっていることがある。作品集の中にも保育所や幼稚園、子ども園等で実習体験をした作文がある。初めて接する幼児にどのように接してよいのか戸惑いながらも、愛情を感じ愛おしい思いを抱きながら最終日を迎える。このような体験の積み重ねが若いうちから大切であり、次の世代への育成につながっていると確信している。



5 おわりに

今、私の通勤バッグには、特別支援学校高等部の家庭科部の活動で作った組紐のストラップが付いている。とても精巧に出来ている上、美しさを放ち、まさに生徒の魂が込められている作品であると感じる毎日である。

ものづくりは人づくり、人づくりは国づくりと言われている。資源のない我が国においては、人こそ最大に誇れるものである。東日本大震災時に、海外メディアが驚いたのは、あのような事態であっても、人々が整然と並び、列を乱すことなく物資を受け取る姿、互いに分け合い協力し合う姿を見て感嘆したとあった。これこそが、我々の誇るべき教育の成果ではないかと思う。

昭和39年の東京オリンピック・パラリンピックにおいて、小さな町工場で作られた聖火台は世界の人々を魅了した。この他にも都内の町工場で作られている機械の部品が世界へ羽ばたいていることは、とても誇らしい気持ちになる。

2020年のオリンピック・パラリンピックに向け、開催場所である東京の児童・生徒にとって、歴史の瞬間に立ち会えることは、喜ばしいことである。

近年、国際学力調査の結果に一喜一憂し、その類の書籍が飛ぶように売れている。しかし、その教育の大切な根幹は、ものづくりに関わる者に託されていると強く感じている。時代や世界がどのように変化しても、先人の方々が積み上げてきた産業教育の歴史の重みを感じながら、さらなる充実を図っていきたい。

これからも東京都産業教育振興会の発展を願ってやみません。



職業教育の歩みと展望

—専修学校の歴史と現状から—

公益社団法人東京都専修学校各種学校協会副会長

東京 YMCA 医療福祉専門学校長 八尾 勝

1 専修学校の歴史と課程と分野

専修学校はその起源を各種学校としている。各種学校は、1879（明治12）年の教育令で「学校ハ小学校中学校大学校師範学校専門学校其他各種ノ学校トス（※ここでの専門学校は現在の制度とは別のもの）」と規定されたのが最初であり、小中学校等の学校種とその起源を一つとする大変歴史のある制度である。その後時代の移り変わりとともに各種学校を規定する規則が厳格になるなどしてきているが、1975（昭和50）年の学校教育法の改定によって各種学校群の中から生まれてきたのが専修学校である。

専修学校は一つの学校種のくくりであるが、大きく3つの課程に分かれている。「高等課程」「一般課程」と「専門課程」である。日常的に「専門学校」と呼んでいるのはこの中の専門課程の事を指す。高等課程は中学卒業の生徒の進学先として、また一般課程は社会人の学び直しなどの場としてそれぞれ極めて重要な位置を占めてはいるがこの後の文章では専修学校の専門課程を「専門学校」と呼び、そのように表現して行くこととする。

専門学校の教育内容は次の8分野に分けられている。

第1分野「工業・農業関係」分野

第2分野「衛生関係（栄養・調理・製菓等）」分野

第3分野「医療関係」分野

第4分野「衛生関係（美容・理容等）」分野

第5分野「教育・社会福祉関係」分野

第6分野「服飾・家政関係」分野

第7分野「商業実務関係」分野

第8分野「文化・教養関係」分野

それぞれに含まれる学科は時代とともに変化してきているが、これらの職業分野の中で、業界と

の連携をしながら人材の輩出を行なっている。

2 専門学校を取り巻く最近の状況

専門学校は学校教育法124条で規定する教育施設であり、都道府県知事が認可・監督する。法で規定する教育内容は「職業もしくは実際生活に必要な能力を育成し、または教養の向上を図ることを目的とする」となっている。その規定からすると全ての専門学校が就職のみを目的とはしていない事が分かる。

と言う事も意識の片隅に置きつつ最近の状況をレビューする。

☆1995（平成7）年にドメスティックディプロマとして専門士の称号を付与する事になった。

☆2003（平成15）年に専修学校制度が公布された昭和50年7月11日を記念してその日（7月11日）を職業教育の日に制定した。

☆2005（平成17）年に4年制の専門学校卒業者に対して大学院入学資格を付与し、同時に高度専門士の称号を専門士と同様のスキームで付与する事になった。

☆2006（平成18）年、全国専修学校各種学校総連合会の総会で「専門学校の一条校化を目指す」ことが採択された。

☆同年、教育基本法が60年ぶりに改正され教育目標の一つに「職業及び生活との関連重視」が盛り込まれた。

☆2008（平成20）年、文部科学大臣により中央教育審議会に対して「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」諮問された。

☆前記諮問を受けて2011（平成23）年に中央教育審議会に「キャリア教育・職業教育特別部会」が設置された。

☆ 2012（平成 24）年に中央教育審議会が「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の答申をまとめその中で「職業実践的な教育に特化した枠組みについて」触れられた。

☆ 2014（平成 26）年に専門学校における職業実践専門課程を文部科学大臣が認定して行く制度が始まった。

☆ 2015（平成 27）年、中央教育審議会の中に実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化を検討する特別部会が設置された。

これらの流れを概観すると、専門学校はもともと都道府県知事の認可する教育施設（学校教育法の第一条で定める学校ではない）であり、そこでは入学者は自分の職業生活を成り立たせる目的を持って、あるいは自分の生活に役立つ学びをしたり教養を高めるための極めて個人に焦点の当たった教育制度である。個人が自らの生活のために職業教育を受けて職を得る、あるいは生活の質を上げるために個人的に学びを深めるための教育施設なのであるからそこには公で支えてゆくべき根拠がなく、従って国による公的補助がないこととなるのである。しかしながら、専門学校が極めて多くの職業人を輩出して、多くの産業では専門学校の卒業生を抜きには考えられないほどの比重がかかっていると言う現実がある。また我が国の人口動態や若者の減少や職業意識の変化、そして産業をめぐる状況の変化の中で職業教育（キャリア教育とも呼ばれる）は小中学校の段階から系統的に取り組まれるべきものであり、高等教育段階になってもなおその重要性は高まるものであると言う流れになってきている。そう言う時代の変化につれてそれまでは「個人の就業にある程度貢献する等」と考えられてきた専門学校を教育施設から学校へと変容させ、わが国の教育体系にしっかりと組み込んでゆく必要性が高まってきた状況が読み取れる。

3 数字で見る専門学校（2014 年度白書抜粋）

＜学校数＞

| | |
|-----|-------------|
| 幼稚園 | 12,905 園（校） |
| 小学校 | 20,852 校 |

| | |
|-----------------|-------------------|
| 中学校 | 10,557 校 |
| 高等学校 | 4,963 校 |
| 専修各種学校 | 4,482 校 |
| 大学短大 | 1,133 校 |
| ＜高等教育の学校数と在籍数＞ | |
| 専門学校 | 2,814 校 588,888 人 |
| 大学 | 781 校 2,552,022 人 |
| 短大 | 352 校 131,341 人 |
| ＜専門学校から大学に編入学＞ | |
| | 1,556 人 |
| ＜大学卒業から専門学校に入学＞ | |
| | 19,127 人 |

※平成 26 年度専修学校教育白書

公益社団法人東京都専修学校各種学校協会
および公益財団法人東京都私学財団発行

4 専門学校のこれからと産業界

専門学校は現段階では「通常の専門学校」と「職業実践専門課程認定の専門学校（学科）」の二つの在り方が併存している。修業年限も 2 年制から 3 年制、4 年制までが混在している。

職業教育のもう一つの形である「専門職大学院」は一部の分野で当初の想定通りの結果を出していないところもあるものの、職業教育の重要な柱として存在感を増して行く可能性を持っている制度である。

ここに中央教育審議会の議論を受けて、職業教育をもっばらとする新しい学校種が創設されようとしている。

わが国の経済が長期にわたって停滞している事に対して、労働力の強化や労働人口の補充だけでなく、実践力が高く、将来の伸びしろにつながる基礎力のしっかりした人材を多く供給して行く事は喫緊の課題であり急務となっている。

我が国で最も重要な産業拠点である東京都において、産業界と職業教育界が緊密に連携して行く事が今後の我が国の方向（運命）を定めると言っても言い過ぎではないと思うが如何だろうか。

東京都産業教育振興会の働きに敬意を表すると共にさらなる躍進に期待するものである。



新たな技術者教育の流れを確立するために

公立大学法人首都大学東京
東京都立産業技術高等専門学校長 田原 正夫

1 新高専の誕生

昭和37年4月、産業界の期待をになって東京都に2つの高専が誕生しました。その1つが荒川区に設立された東京都立航空工業高等専門学校、もう1つが品川区に設立された東京都立工業高等専門学校です。当時の日本の産業界の高度成長を現場で支える中堅技術者を育成することが期待されていました。卒業生はその期待に応えて、その後の日本の高度成長をささえる大きな原動力となりました。

平成18年4月、東京都はこの2つの高専を発展的に統合し、新たに東京都立産業技術高等専門学校を開校しました。更に平成20年には設置者が東京都教育委員会から公立大学法人首都大学東京へ移管され、新高専は総合大学と専門職大学院大学を擁する公立大学法人傘下の高専となりました。このことによって同一法人内の他の大学、大学院とともに、東京都の高等教育施策を総合的に担ってゆく高等教育機関としての責務と環境ができたといえます。このとき本校に与えられた使命は「首都東京の産業振興と課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成」であり、東京都の産業振興に寄与することにより、日本ひいては世界のものづくりに貢献する技術者の育成を目指すという使命が明確になりました。

新高専は旧高専の資産を引き継いだために、品川、荒川両キャンパスを合わせて総校地面積85,000 m²、常勤教職員約180名、専攻科を含めて学生数約1,700名の大規模な高専が誕生したことになります。新入生は入学時にキャンパスのみを選択し、1年間のもので基礎教育をもとに、

年度末に8コースの中から進級コースを選択します。品川キャンパスには主として基礎工学系4コース、荒川キャンパスには応用工学系4コースが設置され、学生は、1年次の所属キャンパスにかかわらず、8コースの中から自分の進学コースを希望と成績により選択できます。特に荒川キャンパスにはロボット工学コースや航空宇宙工学コース、医療福祉工学コースといった全国の高専では見られない特色ある工学コースが設置されていることは本校の特徴の一つであります。2年次以降は各工学コースのカリキュラムに従ってそれぞれの専門領域の理論とものづくり技術を習得させ、創造的な実践的技術者として育成してゆきます。

2 国際化について

本校では高専の国際化について、平成20年から積極的に踏み出しました。今年まで進めた具体的な施策は以下のとおりです。

- ①英語教育へのネイティブ教員の登用
- ②英語教育へのTOEIC等の活用
- ③GCPや海外インターンシップ等の実施

グローバルコミュニケーションプログラム (GCP)

- * 大学・高専連携会議の事業として、大学院・首都大学・高専学生の混成チーム(計20名)がシンガポールで都市に関する4テーマの現地調査研究を行います。
- * 半年間の国内研修と9/3~9/10のシンガポール現地調査を行い、現地のニアンプオリテクニックにおいて成果発表を行います。
- * 高専祭において、最終成果発表を開催いたします。



都庁での出発式



シンガポール現地調査

高等教育は本来有すべき国際性や国際的な通用性が求められてきていますが、今後、技術者教育についても、その国際的な通用性が今まで以上に求められると考えられます。こうした、高等教育の大きな流れの中で、法人の国際化戦略と連動しながら、高専としての国際化を積極的に進めることが本校の将来にとって重要であると考えています。

3 教育改革の推進について

本校では産業界や東京都、研究分野で活躍する方々で構成する運営協力者会議において、本校の教育や研究、社会貢献の在り方について助言をいただけてきました。これらの提言を踏まえて、本校の教育目標を達成するために新たな教育方法を取り入れる努力を始めました。特に高学年において課題解決型の授業（PBL）やエンジニアデザイン教育を取り入れ、その方法の改善や評価に取り組んできています。こうした方法により従来の教育方法では得られなかったチーム力や課題の設定から評価までを学生自身が行うことができる力を付与してゆきたいと思えます。

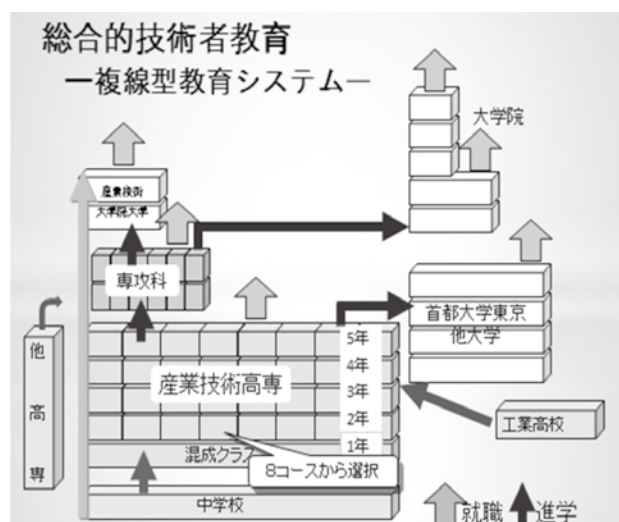
4 ものづくり教育の普及について

本校は平成 19 年に東京都教育委員会と品川区教育委員会の間に締結された「ものづくり教育推進事業に関する基本協定書」をもとに、地元品川区の小中一貫校である八潮学園と実施協定を結び、初等教育段階から児童生徒の知的好奇心を刺激しながら、論理的な思考と技術に関する関心をもたせる試みを始めました。実際の授業にも高専教員がかかわって共同で教えてゆくなかで、発達段階に応じたものづくり教育を体系化しカリキュラムを作成しました。こうして開発されたカリキュラムは、現在高専 OB を中心とした「理科・技術教育サポーター」の事業に引き継がれ、ものづくりのすそ野の拡大に大きく貢献しています。

5 東京から新たな複線型教育システムの創出を

前述のように本校は平成 20 年に公立大学法人首都大学東京に移管され、新たなスタートを切りました。このことは本校の将来にとって極めて重要な意味を持つことになりました。

同じ法人内に総合大学である首都大学東京と産業技術大学院大学があることから、これらの教育機関と連携することにより、今までの教育体系の主流である「中学→高校→大学（学部、大学院）→産業界」というルートのほかに、工業高校から高専への編入学や高専専攻科から大学院へ進学ルートなどにより、産業界へ多様なレベルの人材を輩出することが可能になりました。特に、専門職大学院である産業技術大学院大学とは、今後、高度専門職につながるルートとして職業実践的な分野で連携してゆきます。



科学技術立国を目指す我国は今後 10 年間に、10 万人の技術者が不足するといわれています。また、東京都においても、東京都産業科学技術振興指針において、色々な階層の技術者を質、量ともに輩出してゆく体制を整えることが急務であると指摘しています。産業技術高専は、他の同じ法人内の大学や大学院と連携し、こうした産業界のニーズに積極的に応えとともに、国際的な通用性を持つ技術者を育てていくことが使命であると考えています。



産業教育とキャリア教育

東京家政大学短期大学部学長 川合 貞子

1 はじめに

10年前発行の50周年記念号に寄稿された片岡輝本学元学長は、ピーク時を迎えた高等教育において、高度な専門性を持つ就労者の養成に関して、短期大学は、大学と高等専門学校の挟撃を受けて極めて苦しい立場にあることを指摘されました。

その上で、生き残りを賭けた様々な試行錯誤の中から、新しい産業教育の可能性が芽生えてくるであろうこと、そして、それは産業界と教育界の協働が必須の条件であろうと言及されました。

2 10年間の短期大学の規模の推移

まず、平成18年度から27年度の10年間の大学・短期大学・高等専門学校の規模の変化を学校基本調査でみますと、短期大学の、特に学生数の減少率が大きいことがわかります。

< 10年間の学校数・学生数比較 >

| | 大学 | 短期大学 | 高等専門学校 |
|------------|------------------|-----------------|---------------|
| 18年度 | 744 2,859,212 | 468 202,254 | 64 59,380 |
| 27年度 | 779 2,860,210 | 346 132,681 | 57 57,611 |
| 増減 (校) | 35 998 | -122 -69,573 | -7 -1,769 |
| 増減率 (%) | 4.7 0.0 | -26.1 -34.4 | -10.9 -3.0 |

(上段：学校数、下段：学生数)

苦戦している短期大学にあっても、学生数の減少率が低い、就職率が高く進学率が低い学科系統としては、保健、家政(食物)、教育系統が挙げられます。短期大学に期待される即戦力の養成に力を注ぎ、実績を上げていることが評価されてい

ると推測されます。

3 教育環境の変化

この10年間での、教育環境における大きな変化として挙げられるのは中央教育審議会答申(平成23年1月)ではないでしょうか。この答申は、社会的・職業的自立や生涯にわたりキャリア発達を促す必要性を指摘しました。

キャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義づけました。また、職業教育については、再評価を促しつつ「一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育」と定義づけましたが、これは産業教育振興法における産業教育と近い概念と捉えることが可能ではないかと思えます。

4 インターンシップの類型

職業に直結する専門的な資格取得を目指す学科は、従来職業教育(≒産業教育)を行ってきましたが、この答申によれば、さらにキャリア教育が必要ということになります。そして、その主要な取組としてインターンシップが挙げられています。インターンシップとは「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」ですが、最近は多様化しており、「産学連携によるインターンシップのあり方に関する調査」では以下の5つに類型化されています。

①仕事理解型：1～2週間程度の職場や業務体験を行う

- ②採用直結型：採用活動の一環としてミスマッチを防ぐために行う
- ③業務補助型：若者を活用した業務の推進で1か月以上の長期にわたり通常業務を行う
- ④課題協働型：地域の企業などの現場で特定の課題の調査・企画提案などを行う
- ⑤事業参画型：若者を活用した新規事業や変革プロジェクトの推進を1か月以上の長期にわたり行う

5 本学でのインターンシップの取組と効果

本学は、「自主自律」を建学の精神として「女性の専門性を高める教育」を実践し、平成28年度には創設135年を迎えます。本学が産業界等と協働したインターンシップを2つご紹介したいと思います。

まずは、バーチャルカンパニーを組織して、新宿高島屋で開催される「大学は美味しい！！」フェアに出展する課題協働型インターンシップです。このフェアは、教育機関と企業が連携して開発した商品を販売することがコンセプトです。最初に学生を6チームに分けて市場調査・商品開発コンペを行い、協力企業担当者にプレゼンテーションと試食会を行って、開発する商品と商品開発担当チームを決定します。コンペでもれたチームは、販売促進部、広報部、総務部に分かれて、フェア当日の販売は全員が担当します。

もう一つは、保育所等と連携し幼児を対象の体験型食育活動「おさかな教室」を行う課題協働型インターンシップです。学生は魚に関する知識を深めた後、ふさわしい魚を選び、レシピを考案します。当日は、子ども達と一緒に魚の手開きやつみれづくりなどを行いますが、火を使う調理の時間は、イベント班が子ども達とゲームなどをします。

これらのインターンシップの活動は、対象者を想いながらアイテムを開発し、その方々の手に届くまでのプロセスを体験すると共に、携わる人の

気持ちを共有します。活動は、学科・専攻、目的、価値観などが異なる学生で編成されるチームで行いますし、社会人とも協働しますので、互いにコミュニケーションを図り、力を合わせなければ成功できないことも体験的に学びます。さらに、様々な役割を通して、専門性を生かす道は必ずしも一つではないことを理解しますので、学びへの意識が高まり、将来への視野が広がります。

参加学生の事後アンケートによれば、自ら発信する、他者の意見を傾聴する、柔軟に対応する、そして主体的に行動する力の育成に大きな効果があることが認められました。



（「大学は美味しい！！」フェア）

6 職業のあり方が変わる時代の到来

キャシー・デビッドソン氏（ニューヨーク市立大学大学院センター教授）の予測によれば、「2011年にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」とされています。我が国においても、世の中の流れは大人が予想するよりもはるかに早く、将来は職業のあり方も様変わりする可能性が高いことには変わりありません。

短期大学はこの10年間、「幅広い職業人養成」を目指し、高い実務・実技能力などの即戦力の養成に注力してきました。今後は産業教育の充実と共に、生涯にわたって主体的にキャリア発達を促すキャリア教育の実施が、生き残りの鍵を握っている、と言えるのではないのでしょうか。

東京都産業教育振興会のこの10年の歩み

事務局

1 本会の設立

昭和29年(1954年)の産業教育70周年にあたり、東京都においては、中央における記念式典、行事に呼応して、都知事(安井誠一郎氏)を中心に、都内各教育団体及び東京商工会議所会頭(藤山愛一郎氏)をはじめ、各経済団体、産業界を一丸とした70年記念会が結成され、記念式典をはじめ、各種の記念行事が盛大に催された。これを契機に産業教育振興の気運が大いに盛り上がり、同記念大会において、今後恒久的、組織的に振興事業を進めるために、東京都産業教育振興会を設立することが満場一致で決定された。次いで昭和30年(1955年)1月に第1回設立準備会が開かれ、その後数回の準備会を経て、昭和30年(1955年)5月26日の設立総会で東京都産業教育振興会が誕生した。

2 歴代会長

本会設立以来の歴代会長を以下に示す。

- 第1代 (株)小松製作所社長
河合 良成 昭和30～31年(2年)
- 第2代 三菱製鋼(株)会長
李家 幸 昭和32～33年(2年)
- 第3代 大塚鉄鋼(株)社長
大塚 肇 昭和34～37年(4年)
- 第4代 東京ガス(株)社長
本田 弘敏 昭和38～46年(9年)
- 第5代 月島機械(株)社長
黒板 駿策 昭和47～平成元年(17年)
- 第6代 (株)ニチエン化工取締役社長
郷 宗親 平成元年～17年(17年)
- 第7代 (株)東京都民銀行代表取締役会長
西澤 宏繁 平成18～(10年目)

※肩書は就任当時

上記のように有為な会長に恵まれ、どなたも高邁な見識と、産業教育に深い愛情をもって本会を指導して下さった。

3 この10年の歩み

本会は60年にわたり、社会経済情勢など産業教育を取り巻く状況が変化中、紆余曲折を経ながら、各時代の関係者の協力により、本都の産業教育振興に微力を尽くしてきた。本会設立後の50年間の経過については、平成18年(2006年)1月25日発行の「東京の産業教育第43号50周年記念特別号」で詳しく述べられている。ここでは、その後の平成18年度(2006年度)から平成27年度(2015年度)までの10年間の歩みを中心に振り返る。

(1) 会員数

この10年間の会員数の変化を表1に示す。会員数は減少傾向にあるが、特に経済状況の厳しさにより産業界会員数が大きく減少した。

表1 会員数の変化

| 年度 | 産業界会員 | 学校会員 | 個人会員 | 総数 |
|-----|-------|------|------|-----|
| H18 | 76 | 542 | 1 | 619 |
| H19 | 74 | 536 | 4 | 614 |
| H20 | 70 | 537 | 6 | 613 |
| H21 | 64 | 528 | 5 | 597 |
| H22 | 63 | 526 | 5 | 594 |
| H23 | 54 | 502 | 7 | 563 |
| H24 | 58 | 521 | 7 | 586 |
| H25 | 52 | 517 | 9 | 578 |
| H26 | 46 | 516 | 16 | 578 |
| H27 | 46 | 516 | 16 | 578 |

(2) 講演会

産業教育の啓発事業として、各分野で活躍・研究している方を講師に迎え、毎年1回、総会時に講演会を行った。

(3) 振興奨励事業

① 教育功労者表彰

ア 中学校技術・家庭科教育功労者表彰

地道に技術・家庭科教育に献身している教員に対し、これに報いるため、昭和57年度より技術・家庭科教育功労者選定基準を定め表彰している。この10年間に79名が表彰された。

イ 専修学校・短期大学産業教育功労者表彰

専修学校・短期大学の教職員に対する表彰規程を平成17年9月に設けた。この10年間に7名が表彰された。

ウ 御下賜金記念産業教育功労者表彰

公益財団法人産業教育振興中央会の表彰規程により選定された本会関係功労者の表彰状伝達式を開き、表彰状の伝達と本会からの記念品の贈呈を行っている。この10年間に176名が表彰された。

② 研究団体に関する助成

農、工、商、家庭、定通、総合学科の各専門教育関係研究会及び、中学校技術・家庭科研究会の7団体に対し、その事業の資料作成費等研究活動の一部を申請に基づき助成している。

③ 産業教育に関する作文の募集

都内の本会会員である中学校、中等教育学校、専門高校、専修学校、高等専門学校、短期大学の生徒・学生を対象に産業教育、技術・家庭科教育に関する作文を募集し、入選者に賞状、副賞を授与し、選外者全員に記念品を贈呈している。また、入選作品は作文集「明日に生きる」に掲載し、生徒・学生の自覚と学習意欲の高揚に資している。この10年間の応募数と入選数は以下のとおりである。

| | 応募数 | 入選数 |
|------------|-------|-----|
| 中学校・中等教育学校 | 1,539 | 261 |
| 高等学校 | 980 | 180 |
| 専修学校 | 179 | 36 |
| 計 | 2,698 | 477 |

④ 優良卒業生の選奨

公益財団法人産業教育振興中央会で行っている選奨とともに、本会においても、会員の多数を占める中学校・中等教育学校をはじめ、高校、高専、短大並びに専修学校の生徒・学生を対象に、優良卒業生に対して本会会長の表彰状をそれぞれの学校長を通して授与している。この10年間の授与数は以下のとおりである。

| 東京都産業教育振興会 | | | | | 中央会 | 総数 |
|------------|-------|------|-------|--------|----------|--------|
| 中学校・中等教育学校 | 高等学校 | 専修学校 | 高専・短大 | 小計 | 高等学校及び高専 | |
| 8,394 | 2,274 | 411 | 156 | 11,235 | 1,198 | 12,433 |

⑤ 後援事業

産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援名義の使用を承認している。この10年間で68団体71事業(延べ数)に後援名義の使用を承認した。

(4) 産学交流事業

① 見学・研修会

平成10年度から年末の試験期間等を利用して見学と講話による見学・研修会を実施してきたが、平成21年度をもって終了した。

② 産学懇談会

企業会員や学校教職員、その他関係機関の参加を得て、就職や職業教育の課題等について年1回産学懇談会を開いた。その内容は会報や会誌に掲載して参考に供している。

(5) 会誌、会報の発行

① 会誌「東京の産業教育」は年1回発行してきた。この10年間で第44号から第53号までを発行した。

② 会報「東京の産業と教育」は年2～3回のペースで発行してきた。この10年間で第127号から第149号までを発行した。

(6) ホームページの更新

平成19年12月に本会のホームページを開設し、月1回更新して、本会の事業紹介、会員との情報連絡、産業界、教育界や関係教育行政等の情報を提供している。

(7) 永年功労者感謝状

昭和63年に永年企業規程(10年間継続)を設け、毎年規程に達した企業に対し感謝状を贈っている。この10年間に企業16社に感謝状を贈った。

4 おわりに

今日、グローバル化の急速な進展や産業構造の変化等に伴い、産業界が求める人材は多様化・高度化している。また、少子高齢化が進行する中で、東京都においても地域産業を支える技術の継承や専門的職業人の確保が懸案となっている。

時代に即した産業教育は常に重要であるとの認識のもと、これからの本会活動をさらに充実・発展させていくことが重要である。

東京の産業界



産業教育への期待

信川化学工業株式会社 代表取締役社長 信川 仁道

1 はじめに

このたび東京都産業教育振興会が創立60周年を迎えられました。本会は、その設立趣旨であります、「産業界、教育界、行政の三者が一体となり、相互に理解を深め、協力し合って有為な職業人の育成を図る」ために、永年にわたり活動を展開され、数多くの成果を上げられております。ここに、改めてお喜び申し上げるとともに、歴代の会長をはじめとする役員の皆様方のご尽力に対しまして、私からも御礼申し上げます。

さて、産業教育の重要性については、ここで改めて申し上げる必要はないと思います。戦後の焦土と化した我が国は、驚異的な復興を遂げ、昭和43年には、世界第2位の経済大国へと成長いたしました。この成長の原動力は、一つには、先端技術と新素材の応用による優れた製品の開発とそれを実現した工業技術、そして、それを支えた工業教育の成果であり、もう一つは、礎としての国民一人一人の勤勉さと努力、そして、それを支えた国民皆教育、なかでも産業教育の成果であったと言っても過言ではありません。

2 産業教育と工業教育について

今工業教育と産業教育という言葉を用いましたが、広く産業教育と言いますと、当然そこには工業教育も含まれております。ただ本稿のなかでは、例えば、電気工学や機械工学、言い換えますと、知識や学力、記憶力といった数値的に能力を把握可能な分野を工業教育とし、「思いやり」、「協調性」、「勤勉性」といったような目に見えない、数値的に把握できない力を、狭

い意味での産業教育としてご説明したいと思えます。少し言い換えますと、工業教育が学力など数値的な指標が有るとする「有」であるとするならば、狭い意味での産業教育は、「勤勉性」などの数値的な指標がない「無」であるとも言ってもいいかと思えます。

ここで工業教育について申し上げれば、私自身もそこから受けた恩恵には計り知れないものがあります。私は、電気工学・機械工学・土木工学・化学・探鉱学・冶金学・電気冶金学・地質学など数多くの工学分野と複合技術についての履修を行いました。例えば、以前私は「ノブカット」と命名した製品の開発を行いました。その金型を開発する際には、電気冶金学を応用し、電気鋳造法を採用するなど、事業を展開していくなかでは、様々な分野の知識が役立ってきたわけでありました。

その一方、何か一つのことを考え、モノを生み出していこうという場合に、こうした「有」の部分だけを追いかけていってはできません。そこには何か「無」の部分の考え方を取り入れていかななくてはなりません。言い換えますと、「無」の部分が「有」の部分を「支える」ことで、製品・技術の開発が可能になるのです。

本稿では、この「無」の部分について、今後の産業教育に期待することをお話したいと思えます。

3 産業教育に期待すること

先ほど、「思いやり」、「協調性」といった数値的に把握のできない「無」の力と申し上げましたが、難しく考える必要はなく、人間が生きていくための能力全般と捉えていけばいいとご

理解ください。ただ、この人間が生きていくための能力全般というものが、非常に幅が広く、限られた紙幅のなかですべてを語ることはできませんので、本稿では、私が日ごろから模範として活用している古典を用いて、この「無」の部分をご説明したいと思います。少し難しい漢文ですが、老子の第67章に、次の一節があります。

【原文】

慈故能勇。今舍慈且勇。死矣。夫慈。
以戦則勝。以守則固。天將救之。以慈衛之。

【読み】

慈、故に能く勇なり。今、慈を捨てて且に勇
ならんとすれば、死せん。

夫れ慈は、以て戦えば則ち勝ち、以て守れば
則ち固し。天 將に之を救わんとし、慈を以
て之を衛る。

(福永光司著「老子」朝日文庫より抜粋)

人間には慈愛の精神が大切であり、慈しみの心をもつから真の勇ましさを持つということがあります。慈しみの心を捨てて、勇ましい人物になろうとしても、命をおとすだけであり、慈愛の精神をもって戦えば、戦いに勝ち、それをもって守れば守りが固く、天も彼を救おうとし、慈しみをもって守護してくれるということが書かれております。

少し具体的な話として申しますと、自分の研究や製品開発が軌道に乗らないようなときには、先輩や年配の方々、友人などに助言を仰ぐことで何とか完成させることができることがあります。また交渉中の相手からの好意的約束事には全幅の信頼を寄せ、万一不履行になっても、その相手を許せるだけの自分側のゆとりをもつことで、むしろ次のステップへの力となることを示しております。

私自身の経験からも、「ノブカット」の開発で、金型の実用化やプラスチックに行く微細加工のカットのデザインなどでは非常に多くの方から有益な助言をいただきました。多くの方と交流を重ね、計り知れないほどの有用な知恵をいただくことが、製品開発に結び付いたと断言できるのです。

今後の産業教育でも、こうした「有」と「無」の役割を再認識していき、目に見えない「無」の部分こそが実は技術を助けているという観点で教育のあり方を考えていただきたいと思います。

4 教え方の4段階

それと、産業教育への期待ということで、もう1点申し上げたいと思います。教育では、「教える」ということが非常に大切ですが、中には相手が覚えても覚えなくても構わないという人がおります。しかし、特に企業の場合には、仕事を覚えてくれなければ生産性が減少してしまうわけで、「相手が覚えていないのは教えていないのと同じことだ」(上野陽一編 新版能率ハンドブック)と考えていただきたいと思います。この「教え方の4段階」を記して、本稿を終わりたいと思いますので、ぜひ実践していただきたいと思います。

第一段 習う準備をさせる

- i 気楽にさせる。
- ii なんの作業をやるか話す。
- iii 作業について知っている程度を確かめる。
- iv 作業を覚えたい気持ちにさせる。
- v 正しい位置につかせる。

第二段 作業を説明する

- i おもなステップを1つずつ言ってきかせ、やって見せ、書いてみせる。
- ii 急所を強調する。
- iii はっきりと抜かりなく、根気よく。
- iv 理解する能力以上に強くない。

第三段 遣らせてみる

- i 遣らせてみて、間違いを直す。
- ii 遣らせながら作業を説明させる。
- iii もう一度遣らせながら急所を言わせる。
- iv 分かったと分からせるまで確かめる。

第四段 教えた後を見る

- i 仕事に就かせる。
- ii 分からぬ時に、聞く人を決めておく。
- iii 時々調べる。
- iv 質問するように仕向ける。
- v 段々指導を減らしていく。



成長し続ける企業へ

株式会社鈴木塗装工務店 代表取締役 鈴木 英之

1 当社の概要

当社は塗装の専門工事業として、昭和9年(1934年)に鉄道省より「塗装工事指定請負人」の認可を受け、日本の橋梁塗装発祥の地(静岡県清水区由比町)で創業し、以来塗装の専門企業として82年になります。

一口に塗装と言っても鋼構造物塗装(橋梁・鉄塔等)、建築塗装(ビル・マンション等)、金属塗装(自動車等)等多岐にわたる内容でそれぞれ特徴があります。

創業当時は、鋼構造物塗装(鉄道橋)工事が中心でしたが、紆余曲折を経て、現在では、建築塗装・金属塗装の分野でも取引先を拡大しております。その一方でお客様のニーズも多様化していますので、市場の変化に敏感になる事及び、変化に追随できる専門知識と技術をそなえることが重要と考えております。

2 経営理念

当社は、「社員一人ひとりが、常に研鑽に励み、人のつながりを大切にして、お客さまからの要望に応え、いつも満足を与え、信頼される会社として社会に貢献する」を経営理念として、C・S・E・Sの向上を目標に努力しております。

また、社是を「連繫」として目標達成のためには「情報の共有化」が最重要だと位置付けております。そして、何事にも社員一丸となって取り組むことが社風となっております。

3 企業体質の改善

これからの競争を勝ち抜くためには、他者依存の体質から自主独立型への脱却が必要と考え

体質改善の一步として人事考課制度の見直し、中(長)期経営計画策定を行いました。

人事考課制度では、部下の育成に無関心、不熱心だと思わざるを得ない管理職が見受けられたこともあり、人材育成のあり方を再考し次のように取り組んでいます。

《人事考課制度の見直し》

＜人事考課の目的＞

- ① 人材育成、社員の能力開発を計画的に行う事。
- ② 一人一人の改善課題、成長課題を明確にする事。
- ③ 部下と上司のコミュニケーションの向上を図る事。
- ④ 昇給や賞与の決定を公正に行う事。
- ⑤ 昇格や昇進の決定を公正に行う事。
- ⑥ 管理者の部下指導力向上を図る事。

＜人事評価の原則＞

- ① 定められた期間内での評価。
- ② 日常の職務に限定して評価を行う。
- ③ 顕在化した事実に基づいて評価を行う。
- ④ 目標として掲げた項目に対しては達成度によって評価を行う。
- ⑤ 評価結果をフィードバックし今後の育成に活用する。

管理者が社員の育成に「人事評価制度」を活用することを企業体質改善の一步として取り組んでいます。

《中(長)期経営計画策定》

次に、中(長)期経営計画ですが、当社は昭和9年の創業以来、先人達や現社員の奮闘努力により、今年で82年目を迎えることが出来ました。社員を育て、人を大切にする企業風土を

守り、塗装工事並びに付帯工事を通じて社会に貢献し、未来永劫に社業を繁栄、継続していくことが、私たちの使命だと考えております。

一方、社業を取り巻く事業環境は、時代と共に絶えず変化しております、環境変化に柔軟に対応できる企業体質を作り上げ、社員一同が夢と希望を持てる会社にしていくことが重要です。

そのためには、会社をバランスよく成長、発展させていかなければなりません。

中（長）期経営計画の立案では12年後のビジョンを実現するために3年ごとに区切り具体的な「数値目標」と「企業イメージ」を描きそれをステークホルダーにオープンにして、その実現に向け全社員一丸となって邁進するものとなっています。策定に当たっては次期リーダー候補も含め全拠点代表を集め、プロジェクトチームを編成し取り組みました。プロセスの一部は以下の通りです。

<SWOT分析による現状分析>

- ① 当社の強み・弱み・機会・脅威について明確に分析を行った。
- ② 強みを維持・拡大するための方策、弱みを改善する方策、機会を確実にものにする方策、脅威に対抗する方策の計画を立てPDCAを実行する。

<塗装工事需要の把握と当社の市場地位の推定>

- ① 日本塗装工業会集計データ等の分析。
- ② 地域別シェアを把握。
- ③ 塗装業全体に占める当社のシェアを把握。
- ④ 業績を伸ばしている同業他社の分析。
- ⑤ 今後増加していく分野予測

<数値目標及びスローガン設定>

- ① 3年後売上55億、12年後売上100億。
- ② 「目指せプロ集団」
- ③ 「一致団結 t o 1 0 0 」

<キックオフ宣言>

トップによる中（長）期計画の「キックオフ宣言」を行い、社内にポスター貼付、社員へ携帯用カードを配布しスタートしました。

4 人材の育成

次世代を担う若年層への教育は、各職場でOJT中心に行っておりますが、OJT以外に以下に紹介する事も行っております。

《階層別教育》

良きライバルとして相乗効果を生み出すと共に、ステップアップするための教育を実施している。

《他社見学》

社員に当社との違いを肌で感じてもらい良いことを取り入れる習慣を身につけてもらうために実施している。

《技能競技会への参加》

毎年実施される某メーカー主催の国際技能競技会に参加させ技術の向上を目指すともに、参加者に対して同僚がサポートする相互扶助の一面も勘案して実施している。

《海外研修》

国内には実感できない体験をしてもらうため認定NPO法人主催の「カンボジア・スタディツアー」に参加し、地雷除去現場視察、地雷除去後の土地に住む住民への自立支援活動を体験しながら社会貢献の必要性を学ばせている。

5 青年へのメッセージ

生活していくために仕事をしなければならないのですが、辛いことも沢山あります。その辛いことを乗り越えるために創意工夫や、失敗を恐れずチャレンジすることによって人としての成長があります。失敗を恐れず、希望をもって社会に羽ばたいて下さい。

情報スクエア



平成27年度高校生夕張キャンプ第I期に参加して

東京都立工芸高等学校長 鳥屋尾 史郎

1 はじめに

高校生夕張キャンプは「東京都の高校生を対象として、広く夕張市訪問を呼びかけ、夕張市の自然、歴史、文化、施設、産業等を直接体験するなどの、未来への洞察力、発想力、行動力を培うことのできる催事を開催し、青少年の健全育成の一助とする」ことを目的としている。過去3年間の成果を踏まえながら「日常の学習成果を生かした夕張市への提案」を行うことは、都立専門高校の学習活動の中にしっかりと定着し、6月20日に13校16チームが参加して開催された今年度の選抜大会においても、積極的に前向きなプレゼンを数多く見ることができた。

広報・PR部門、食品部門、研究・開発部門の3部門の中でも特に生徒たちの応募が多かったのは広報・PR部門であった。「ふるさと納税」や「人の交流」を軸にしながら行事等で夕張のPRを進めるといったシナリオが多く、おそらく都立高校生にとっても考えやすい題材であり、将来実現できたら高いPR効果が期待できそうなプレゼンも含まれていた。

審査の結果として、都立八丈高等学校、都立工芸高等学校(2)、都立六郷工科高等学校、都立第三商業高等学校、都立忍岡高等学校の5校6チームが選抜され、7月21日から7月24日まで3泊4日で夕張市を訪問した。私はI期の団長として22名の生徒、6名の引率教員、5名の事務局員とともに夕張市を訪問し全行程を無事に終了することができた。

2 高校生夕張キャンプ第1期の概要

(1) 高校生夕張キャンプ第I期の行程について

7月21日(火)

羽田空港→新千歳空港→夕張市役所(開会セレモニー)→JA夕張市(メロン栽培の講義)→宿泊先(ひまわり=元夕張北高校)

7月22日(水)

宿泊先→メロン農家体験学習→現地調査視察→宿泊先

7月23日(木)

宿泊先→夕張ツムラ工場見学(漢方についての講義及び漢方演習)→JA夕張市(メロン選果見学)→夕張高校(生徒交流会)→宿泊先

7月24日(金)

宿泊先→石炭博物館→宿舎にて閉会式→新千歳空港→羽田空港

(2) 高校生夕張キャンプの具体的な様子

夕張市に到着後、真っ先に訪問した夕張市役所では、市庁舎玄関に黄色いハンカチをもった大勢の市職員の方に出迎えていただいた。夕張は映画「幸せの黄色いハンカチ」の舞台でもある。



開会セレモニー後の集合写真

開会セレモニーにおいて鈴木直道市長からは「人口減少はオリンピックの翌年から急激に進み、夕張の問題は日本全体の問題」であることや、「疑問に思ったことは東京に持って帰るの

ではなく、ぜひ聞いて欲しい」というお話があった。

訪問1日目から2日目にかけて、JA夕張市や農家の方々からメロン栽培についての御苦勞を聞かせていただいた。夕張メロンがどうやって開発されたのか、おいしさや香りを維持し、病気にならないようにするための工夫、品質を見分ける方法等、具体的なお話をうかがった。耐火金庫に種が保管されている話、共撰と私撰がある話など、夕張メロンのブランドをいかに大事にしているか、農家の方々の熱く強い思いが伝わってきた。

2日目の午後に行った実地踏査では、現地の



農業体験

様々な仕事に携わっている方達から直接生徒たちはお話をうかがうことができた。特に今回はこれまで3回行われた夕張キャンプより長い時間現地調査を行い、生徒たちは充実した現地での時間を過ごすことができた。

3日目午前中に訪問した夕張ツムラでは夕張ツムラの方々の地域を活性化させていきたいという思いを聞き、また一方で、産業を定着させ雇用を創出することの難しさも学ぶことができた。

3日目午後には夕張高校1学年生徒との交流を行った。エゾジカを題材とした「エコロジーを視点とした討論」を行うとともに、エゾジカを食材とした調理実習を行う交流を通して、高校生同士がそれぞれ考えていること、感じていることを伝え合うことができた。

3 まとめ

こうした現地での体験を通して、生徒たちは

東京で考えた様々な提案が、実際に夕張で成果を上げることができるかどうか、現実の壁と直面する場合も少なくなかったように思う。計画していたことを確実に実行することができて達成感を得ることができたグループ、今回の訪問が1回で終わるのではなく今後の交流につながっていく確信をもつことができたグループもあったが、一方で計画が本当に実効力を伴うものか、夕張市に住む人たちにとって役立つ提案になっているのか、現地調査により見直しを迫られるグループもあったのは事実である。

生徒たちからは、ミーティング等で様々な意見が出され、中には鋭く社会の矛盾や『大人の都合』を指摘するものも含むものもあった。さらに現地での体験や調査の中で、冷静かつ確かな分析を發揮している様子うかがわれたことから、高校生夕張キャンプのような実体験を伴う社会参加こそが、これからの社会を担う若者の責任と自覚を育てると感じられた。持続して成長する社会、豊かで人々が幸せに暮らすことができる社会をつくり上げていくには、若者の社会参加と積極的で前向きな意見は不可欠であり、参加した生徒たちは自分たちこそがこれからの社会に必要とされていることを強く感じ、自分たちのできることは何か、深く考える経験をもつことができた。

都立高校生のために、こうした体験の場を御提供くださり、成長のチャンスをくださった夕張市の皆様に心よりお礼申し上げるとともに、6月20日の選抜大会に参加したものの実際に夕張市に行けなかった大勢の生徒も含めて、高校生夕張キャンプ事業に参加した生徒たち全員の今後の活躍を期待したい。



夕張高校での高校生交流



平成27年度 教員海外産業教育事情研修に参加して

東京都立第一商業高等学校長 戸田 勝昭
東京都立農業高等学校主幹教諭 渡邊 幸盛

1 はじめに

平成27年11月8日から11月14日までの7日間、平成27年度「教員海外産業教育事情研修」が訪問先のドイツ・ハンブルクにおいて実施された。

この研修は全国の専門教育を主とする学科を置く高等学校の教員が海外の専門教育に関する学校や教育関係施設等での研修及び研修国の文化や社会生活に触れることにより、産業教育の充実・振興、国際交流等に寄与することを目的としたもので、全国から参集した18名により構成された。

2 研修日程概要

[11月8日(日) 結団式(成田)]

成田→(コペンハーゲン乗り継ぎ)→ハンブルク

[11月9日(月) *全体研修]

(午前) ハンブルク市教育庁学校局訪問

(午後) ハンブルク学校局職業教育科訪問

[11月10日(火) *各学科別グループ研修]

A：農業・水産グループ：

(午前) 農業職業学校訪問

(午後) 実習農場見学

B：工業グループ：ハンブルグ市内

(午前) 鉄鋼・機械専科職業学校訪問

(午後) 実習先企業訪問：Still-Gabelstapler

C：商業・家庭グループ：ハンブルク市内

(午前) ロジスティック・交通専科職業学校訪問

(午後) 実習先倉庫訪問：TCI会社

[11月11日(水)]

(午前) *各学科別グループ研修

A：農業・水産グループ：エルムスホルン市

・ハライコソーセージ会社訪問

B：工業グループ：ハンブルク市内

・エアバス会社訪問

C：商業・家庭グループ：ノーダシュテット市

・商業科・栄養学科職業ギムナジウム訪問

(午後) *全体研修

・ハンブルク商工会議所訪問

[11月12日(木)]

(午前) *グループ研修：ハンブルク市内

A：農業・水産グループ

・ハンブルク魚情報センター訪問

B・C：工業・商業・家庭グループ

・シュタットマイルシュレー訪問

(午後) 資料整理等、自主研修

[11月14日(土) 解団式(成田)]

3 主な各学科別グループ研修(一部紹介)

(農業・水産グループ)

(1) シュレスビック・ホルスタイン州

バード・ゼーゲベルクにある農業職業学校

① 教育制度及び学校の概要・生徒状況

農業・水産グループは、タクシーに乗り、ハイウェイ(高速道路)を北東へ1時間半走り、シュレスビック・ホルスタイン州の学校へ向かった。

学校の建物は1952年に建設された赤煉瓦の建物で北欧と同じ様式のものである。冬は非常に寒いので、ボイラーが完備されており、室内は暖かく半袖でも過ごせる環境である。

学校の概要であるが、生徒数は250名。生徒の年齢は、20歳～21歳で、すでにstattシュレーを卒業し、「ゲゼレ」の資格を取得した生徒である。日本における大学の農学部であり、将来、就農を目指す目的意識の高い生徒である。

学科は2年間学ぶ「農耕科」と1年間学ぶ「農業科」の2学科を設置している。入学式は9月で7～8月に試験を実施し、進級及び卒業が決まる。

② 授業見学

授業は24名の少人数授業で展開されていた。特徴的なのは、会議室のように生徒同士お互いに向かい合い、議論しやすい座席配置になっている。

今回の授業のテーマは「肥料と施肥」である。生徒はすでにスタットシューレでデュアルシステムにより、3年間の実習を経験し、「ゲゼレ」を取得している生徒達である。したがって、授業はデュスカッション形式で展開され、それぞれの経験に基づく考えをお互いにつけ合う内容であった。具体的には「菜種にはどんなK（カリウム）が必要か?」「異なる土壌にどのようにK（カリウム）を施肥するのか?」「同じ肥料で小麦や菜種など作物の種類によって生育は異なるのか?」等授業の主体が生徒の発言で展開していき、生徒の農業に関する知識の高さや経験の深さを感じた。



授業風景

(商業・家庭グループ)

(2) 運輸・ロジスティック・交通専科専門学校

① 教育制度及び学校の概要・生徒状況

ロジスティック（運輸）、鉄道サービス、DHL（郵便）の3つのコースを有し、将来を担う人材を育成する伝統ある職業学校である。生徒数は約1,700人。クラスの中には、バチュラ(学士)の資格取得を目指すクラスもあり、1年に1クラス(12～20人)で編成される。このバチュラの

資格取得を目指す生徒たちは4年間のうち3年間の研修と1年間の通信教育を受け、この間、企業側が約2万ユーロを支払い生徒の育成に当たる。実力のある生徒に関しては、その後、企業に残れるよう配慮される場合もある。

② 授業見学

生徒たちは、常に積極的であり、意欲的に発言する場面には驚いた。生徒全員が必ず1回以上は、挙手し、発言する機会を待ちわびている。積極的に授業に参加する姿勢は挙手だけでなく、教師の質問に分からない生徒を他の生徒が補い、理解し合うといった理想的な場面はとても爽快であった。



授業風景

③ 教師に求められる義務研修

教師の研修は、生徒に対してより実践的かつ専門的な知識を提供するために、年間45時間の研修が義務づけられている。義務研修は、長期休業中を利用すること。教育は、生徒のみならず教師側の日々の努力が、不可欠であることを改めて学んだ。教師側の「日々学ぶ精神」なくして子どもたちの未来はないことを再認識させられた。

4 おわりに

全国の8学科（農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉）の専門高等学校の先生方を代表した形での海外産業教育事情研修であった。大変有意義であり、かつ大変多くのことを学ぶことができた。この経験を活かし、東京都の産業教育がさらに充実・発展するよう努力していきたい。



平成 27 年度専門高校教員産業実地研修 (流通・情報関連企業) に参加して

東京都立忍岡高等学校主任教諭 石井 知美
東京都立忍岡高等学校主任教諭 古賀 富美

1 はじめに

平成 27 年度専門高校教員産業実地研修が 7 月 27 日(月)～7 月 31 日(金)の 5 日間、(公財)産業教育振興中央会主催で実施された。全国から 28 名が参加し、流通・情報班(15 名)、新技術・環境班(13 名)に分かれ、研修を行った。ここでは、流通・情報関連企業 2 社について報告する。

2 日程及び研修先

| 日程 | 研修先 |
|-------------|--|
| 7 月 27 日(月) | 開講式、オリエンテーション |
| 7 月 28 日(火) | (株)ロジスティクス・ネットワーク キッコーマン(株) 野田工場 |
| 7 月 29 日(水) | 損害保険ジャパン日本興亜(株) (株)日本取引所グループ 東京証券取引所 |
| 7 月 30 日(木) | 東京荏原青果(株) 東京都中央卸売市場大田市場 (株)廣濟堂 埼玉事業所 |
| 7 月 31 日(金) | (株)ニュー・オータニ、閉講式 |

3 研修報告

(1) キッコーマン株式会社 野田工場

キッコーマン創業の地である野田工場が立地する千葉県野田市は、しょうゆづくりに適した気候と水運に恵まれ、江戸時代から「しょうゆのまち」として栄え、しょうゆの主要産地として今日に至っている。

野田工場は 350kl のタンク 50 本をはじめ、全部で 600 本のタンクを擁し、キッコーマン食品国内生産量の約 6 割に当たる年間約 12 万 kl のしょうゆを生産している主力工場である(写真

1)。この工場では、食品の安全性を製造の各工程ごとにコントロールする HACCP 手法が組み込まれた国際規格 ISO22000 の認証を取得し、さらにキッコーマン食品独自の商品安全システム「キッコーマン食品品質管理体系(KQCS)」に沿って生産活動が管理され、安全な商品づくりの検証をしている。



(写真 1) キッコーマン(株)野田工場

和食に欠かすことのできないしょうゆは、大豆、小麦、塩の 3 つの原料に水と麹菌(国菌)を加えたもので、長い熟成期間の間に食べ物の基本 5 味(甘味・酸味・塩味・苦味・うま味)すべてをバランスよく揃え、香り成分は 300 種類にも及ぶ、こくと深い味わいのある調味料となる。微生物による発酵・熟成は限られた条件の中でしか作用しないものであり、腐敗と隣り合わせの化学変化である。野田工場では、<原料処理-製麹-発酵・熟成-圧搾-火入れ-充填>といった一連のしょうゆづくりの工程を、微生物が働きやすい環境をコンピュータで合理的・衛生的に細部にわたって管理し、効率よく醸造を進めている。最新型の大型圧搾機を使って、もろみを圧搾するためのナイロン製の汙布(幅 3m、長さ 2,800m; スカイツリー 4 基分)

が自動で蛇腹状に折りたたまれ、工場の天井近くまでそびえている様は圧巻であった。

一方、宮内庁に納めるしょうゆの専用醸造所（御用蔵）では、「もろみ」を自然の気候の中で杉桶で1年をかけて発酵・熟成させる、昔ながらの製法で醸造をしている。門外不出の「キッコマン菌」を仕込んで6か月経つと、もろみを熟成中の仕込み桶の中で酵母が活発に働き、発酵して直径2m、深さ1.7mの桶の表面のあちこちからプクプクと音を立てて気泡が次々に湧き上がってくる。「しょうゆづくり体験」でしょうゆの原料に触れ、もろみの色と香り、温度変化の観察をしたことと合わせて、微生物の働きがしょうゆづくりの成否に大きく関わるということが体感できた。

また、しょうゆの製造工程で発生するしょうゆ粕、しょうゆ油といった廃棄物や副産物は、家畜の飼料や社員の名刺等の紙、工場内の燃料としてすべて再利用するシステムが確立しており、環境保全におけるサステナビリティの具体例を知ることができた。

「キッコマンしょうゆ」は1957年に北米進出し、現在では世界100カ国以上で販売され、海外に7つの生産拠点をもつ「グローバルな調味料」という側面を持つ。しょうゆを中心に世界各地の食文化と融合し、地球社会にとって存在意義のある企業をめざしている。

(2) 損保ジャパン日本興亜株式会社

損保ジャパン日本興亜株式会社は、2014年9月に(株)損保ジャパンと日本興亜損害保険(株)が合併してできた損害保険会社である。

損害保険は、人々の暮らしや産業の抱える不確実性に対して、「安心を提供」する金融商品である。現代の損害保険ビジネスの原型は、紀元前の地中海交易の発展のなかで誕生したとされ、14世紀にはイタリアの商人たちによって「海上保険制度」が生み出された。多種多様なリスクを保険に転化すべきものなのか、リスクの洗い出しから保険の設計が始まり、適正な保

険料でリスクの許容ができるのかを数学的に予測し、常に検証しながら運営している。最適なリスクヘッジの方法を提案できる力が保険のプロとして求められる。また、「危険の発生確率」と「補償額」を予測する最新の科学は、緻密なデータ分析に基づく新しい市場の開拓（農業生産情報の提供、ヘルスケア事業など）にも応用・展開されている。わが国では自動車関連の保険が損害保険料の約6割を占めるが、グローバル化が進む今日ではリスクも多様化し、拡大している。国内の大手損害保険会社は、欧米をはじめ、ブラジル、中国、ベトナムなどの新興国でも事業を推進し、収益を拡大させているようだ。

この20年で、損保ジャパン日本興亜グループの経営理念は、持続可能な社会の実現に貢献する「企業の社会的責任」を果たすため、経済のみから「経済」、「社会」、「環境」の3つに評価軸が変化した。防災人形劇、森林整備活動などの事業活動を通じた社会的課題解決への様々な取り組みは、国内外の各種機関から授賞され、非常に高い評価を得ている。CSRにより、事故の多い風力発電事業者向け火災保険に「事故再発防止費用特約」をつけるなど、新たな市場を獲得するチャンスも生まれているという。本社最上階にある東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館では、東京都心の眺望を眼下に安野光雅「旅の風景」展、ゴッホの「ひまわり」を観賞し、社会領域におけるCSRの一端を体験することができた。新宿区内の文化施設との、共同企画事業を模索中とのことである。

4 終わりに

産業界の現場で企業活動の実際的な活動状況を体験研修する、貴重な経験となった。産業が多様化し、グローバルに成長・発展している今日、専門教育の場で、この経験をもとに産業界に求められる高校生の資質の育成に努め、専門教育の改善充実に資する取り組みを日々実践していきたい。



第13回創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長

中央区立銀座中学校長 加藤 譲司

創造ものづくりフェア in TOKYO は、東京都内の中学校に通う生徒が、技術・家庭科の学習で身につけた、ものづくりの技や知識を競い合い、ものづくりの意義を理解するとともに、互いの創造性を伸ばす場として開催している。その概要は、以下のとおりである。

- 1 **主催** 東京都中学校技術・家庭科研究会
- 2 **後援** 東京都教育委員会
東京都産業教育振興会
東京都中学校長会
- 3 **日時** 平成27年11月14日(土)
平成27年11月21日(土) 食部門
- 4 **場所** 中央区立銀座中学校
女子栄養大学(食部門)
- 5 **対象者** 東京都内中学校に通学する中学生
- 6 **内容**
 - (1) 全国中学生創造アイデアロボットコンテスト東京地区予選(基礎部門・活用部門・応用部門)
 - (2) 「木工チャレンジコンテスト」東京予選
 - (3) 「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」東京地区予選
 - (4) 「あなたのためのおべんとうコンクール」東京地区予選
 - (5) 生徒作品コンクール東京地区予選
 - (6) 東京都中学校ロボットコンテスト(二足歩行ロボット格闘部門)
- 7 **開催へ向けて**

創造ものづくりフェア in TOKYO も13回を数え常連校が定着すると同時に新たな参加校もあり、裾野の広がりを感じる。毎年ながら会場

校の校長先生をはじめ先生方には多大なるご理解とご支援をいただいていた開催である。ここ5年間お世話になっている東京都立工芸高等学校の体育館工事のため、今年度は中央区立銀座中学校を主開催会場として実施された。銀座中学校会場は全国フェアの経験もあり、その実績と経験を生かし会場への機材搬入等準備が順調に進めることができた。また作品展の事前搬入や当日の会場準備にも会場校との事前打ち合わせを重ね、開催へ向けての準備がスムーズに進められた。今年度も会場日程調整の結果、食部門と日程を分けての開催となった。

生徒作品コンクールは、各地区で選ばれた作



生徒作品展

品が会場校へ送られてきている。当日持参分も含めて各地区相当分の作品は完成度の高い作品が多く見られ、会場を多いに賑わせていた。

なお大会運営は、東京都中学校技術・家庭科研究会事業部を中心に銀座中学校会場40名、女子栄養大学会場で20名の体制で進められた。

8 開催結果

今年の参加者は、見学の保護者を含めると両会場併せて600名を超えた。その内訳と各部門の内容は次のとおりである。

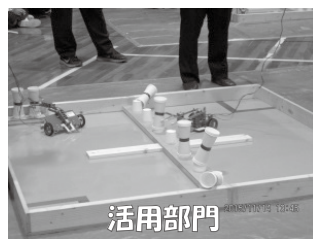


調理風景(女子栄養大)

<関東甲信越大会に向けての予選大会>

○「創造アイデアロボットコンテスト」の基礎

部門：中学校技術・家庭科の授業においてカム・リンク機構を利用した歩行型ロボット（キットを改良した



ロボットでも参加できる)を題材として学習を履修した作品部門である。授業での取り組みを想定して、モータ2個3Vまで使用したロボットで、制限時間内に与えられた課題を解決する対戦型の競技である。テーマは「はじめてのおつかい」、16チームの生徒達が参加した。活用部門：中学校技術・家庭科で学んだ知識や技能を組み合わせて製作された生徒作品の部門である。モータは4個3Vまで使用でき、制限時間内に自陣エリアにあるアイテム(紙コップ7個)をコート中央にあるスポット(突起)に差し込む競技である。22チームが参加した。応用部門：教科で学んだ知識や技能を最大限に発揮して製作されるロボットの部門で、競技内容は今までの応用部門を生かしたルールとなった。センサなどを利用したロボットによる1対1の対戦型競技で、制限時間内に中央に設置された9本のロープを引き合う。モータは6個6Vまで使用可能である。20チームが参加した。

○当日示された設計図により、決められた大工



道具や木工機械を正しく使用し、寸法通り正確に作品をつくる「木工チャレンジコンテスト」には各地区から選ばれた11名が参加した。

○「生徒作品コンクール」には、各地区で選ばれた技術分野と家庭分野で、授業内外部門の合計100作品以上と、今年度も力作・大作が数多く出品された。

○「あなたのためのおべんとうコンクール」は、レポートと写真の応募作品73チームの審査を

経て、当日の本大会は20チーム60人が参加した。

○「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール東京地区予選」では事前選考の3校6作品の参加であった。

＜東京都ロボットコンテスト＞

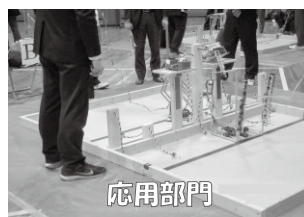
◇東京都独自として実施したロボットコンテストは、モータ2個を使った格闘型のロボットで、生徒



の関心の最も高い競技である。この競技は900mm×900mmのリングで2足歩行ロボット同士が相撲をとる競技である。93チームが参加した。

9 成果と課題

ものづくりフェア in TOKYO 全体としては、参加生徒もここ数年一定数おり、中学生の技術・家庭科に対する関心・意欲を喚起し、関係諸機関の認識も深められていると捉えている。参加生徒数は全体として昨年度と同程度であるが、部門によっては大幅な参加増があり各校現学習指導要領下での指導計画・実践も定着してきたものと考察できる。今後授業内容をさらに工夫改善して、ものづくりの楽しさや魅力をいかに実感させるかが課題である。来年度のものづくりフェアに向けて、さらに魅力的な事業となるよう授業時数を踏まえたルールや運営方法等を改善することにより、興味・関心・意欲を一層高め参加者を増やしていきたい。開催会場の中央区立銀座中学校、女子栄養大学のご理解、そして東京都教育委員会、東京都産業教育振興会、東京都中学校長会から表彰状をいただいたことは、フェアの盛り上がりと充実に結びついており感謝申し上げます。



第25回 全国産業教育フェア三重大会

—さんフェア三重^{にーまるいちGO!}2015—
「常若の地から響け！ 挑戦・交流・進化の想い」

第25回全国産業教育フェア三重大会（さんフェアみえ^{にーまるいちGO!}2015）は10月31日から11月1日まで、三重県営サンアリーナをメイン会場に、三重交通Gスポーツの杜伊勢（三重県営総合競技場）体育館、三重県立相可高等学校、鳥羽港をサブ会場として開催された。

今回の大会は「産業界等との連携のもと、地域や日本の未来を担い、グローバルに活躍する職業人の育成を目指す産業教育の一層の振興を図るとともに、専門高校等の特色ある教育活動の成果と魅力を広く発表する」ことを趣旨とし、基本方針を（1）生徒の挑戦する意欲を喚起【Motivation】、（2）学校・地域・産業界が相互に交流【Interaction】、（3）次代に向けた産業教育の発展・進化【Evolution】として行われた。

三重県営サンアリーナにおいて作品展示が行われ、東京都からも5校の高等学校が参加した。会場は中心にシンボルオブジェが設置され、その周囲に「挑戦」、「交流」、「進化」のテーマごとに三つのゾーンに展示ブースが配置された。「挑戦」のゾーンには都立大島高校が大島高校オリジナル製品（島とうラー油、大島高校産椿油）を、「交流」ゾーンには都立葛飾商業高校が葛飾しあわせなまちプロジェ



シンボルオブジェ



作品展会場

クトを、都立三宅高校が三高茶（さんこうちゃ）を、都立八丈高校がパッションフルーツドリンクを、「進化」ゾーンには都立荒川商業高校が模擬株式会社レガロ工房ポスター作品を展示参加した。

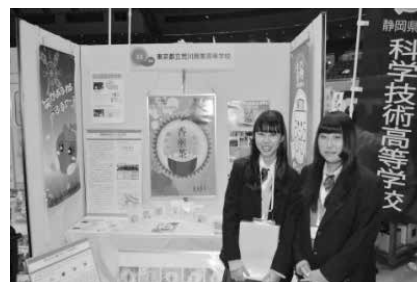
三重県営サンアリーナのエントランスホールでの企業・大学・専門学校等の展示では東京工科大学／日本工学院専門学校が学校紹介を行った。このほか、サンアリーナでは全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト、さんフェアみえ白熱トークが、各サブ会場では全国高等学校ロボット競技大会、全国高校生クッキングコンテスト、水産高校実習船一般公開（大型実習船船内公開、小型実習船体験乗船）などが催された。



開会式



葛飾商業高校



荒川商業高校

第57回 全国産業教育振興大会（三重大会）

期 日 平成27年10月31日（土）
 会 場 伊勢シティホテル
 主 催 全国産業教育振興会連絡協議会
 公益財団法人 産業教育振興中央会

次 第

- 1 開会のことば
 全国産業教育振興会連絡協議会
 常務理事 富岡 逸郎
- 2 国歌斉唱
- 3 挨拶
 全国産業教育振興会連絡協議会
 副会長 杉江 和男
 三重県産業教育振興会
 理事長 齋藤 俊彰
- 4 来賓挨拶
 文部科学省初等中等教育局
 主任視学官 水田 功
 三重県教育委員会
 教育長 山口 千代己
- 5 来賓及び出席者紹介
- 6 講演
 演題：人に必要とされる会社をつくる
 ～絶望から再生と成長～
 講師：松浦 信男
 （万協製薬株式会社 代表取締役社長）
- 7 大会決議文協議・採択
 全国産業教育振興会連絡協議会
 理事長 西澤 宏繁
 三重県産業教育振興会 理事 鳥井 誠司
- 8 次期開催県挨拶
 石川県産業教育振興会 会長 吉田 國男
- 9 閉会の言葉
 三重県産業教育振興会 理事 徳田 嘉美



開会のことば



講演



大会決議文協議・採択

【講演要旨】

万協製薬は1960年に兵庫県神戸市長田区にて創業した。創業35年目の1995年1月17日、阪神大震災によって本社、工場は全壊した。翌年の1996年11月に三重県多気郡多気町に移転した。55年の歴史を持つスキンケア商品専門の企画・開発・製造を行うメーカーである。

三重県立相可高校生産経済科の生徒が設立したNPO法人「植える美ing」と共同で商品開発プロジェクト「まごコスメプロジェクト」を立ち上げ、「まごころ」ブランドの乳液、クリーム、ハンドジェルの商品開発、販売を行い、売上げの一部を園芸福祉活動に還元した。

決 議

農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉の専門学科及び総合学科を設置する高等学校（以下「専門高校」）は、職業に関する実践的な教育を行うことにより、専門的な知識・技術・技能を身に付けた職業人を育成・輩出し、我が国の産業経済、医療・福祉、地域社会の発展に大きな役割を果たしている。

今日、グローバル化や情報化の進展などにより世界全体が大きく変化している中、我が国にあっては、急速な少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少や過疎化の進行など、多くの課題を抱え、また、将来を見通すことも困難な状況となっている。これらを克服し、我が国が将来にわたって発展し豊かな社会を築いていくためには、若い人達の力が必要であることは言うまでもない。専門高校で学ぶ生徒は、確固とした勤労観・職業観を持ち、将来のスペシャリスト（専門的職業人）となることを目指しており、これからの我が国の発展には欠かせない重要な人材である。

全国産業教育振興会連絡協議会では、全国の専門高校の生徒達による「第25回全国産業教育フェア三重大会」にあわせ、産業界と教育界の強い連携の下、「第57回全国産業教育振興大会」を開催し、我が国が力強く成長・発展し、豊かな社会を築くため、専門高校のより一層の充実・発展に全力を傾け、次の事項の実現に向けて取り組むことを決議する。

- 一、実践的な職業教育を推進するうえで不可欠な、産業技術等の高度化に対応した教育用施設・設備の整備への支援。
- 一、教職員定数の改善、専門教育担当教員の養成・採用の拡充、社会人実務経験者の任用、特別免許状の積極的活用、研修機会の確保など、専門高校における教育実施体制の充実。
- 一、特色ある教育活動や、生徒達が取り組む資格取得等のための検定試験、各種発表会や競技会などへの支援。
- 一、就職における採用枠の拡大、地元企業等への就職機会の確保、女子採用の促進など、専門高校生徒の就職活動への支援。
- 一、各種資格や検定等の取得、各種コンクールや職業体験等の活動実績を反映した多様な入学者選抜など、専門高校の特色を踏まえた大学等入学者選抜の実施と拡充。専攻科修了生（2年課程以上）の大学編入学の着実な実施と推進。
- 一、中学校や高等学校等における社会的・職業的自立に向けた職業体験活動やインターンシップ等の体験活動を取り入れたキャリア教育の一層の推進と支援。専門高校に就学する生徒の保護者の経済的負担軽減を図る就学支援等の充実。専門高校への理解・啓発を図る「全国産業教育フェア」等への支援と充実。生徒の個性や目的意識を尊重した中学校における進路指導の推進。

以上決議する。

平成27年10月31日

第57回全国産業教育振興大会（三重大会）

報 告

平成 27 年度 総会・講演会 報告

平成 27 年度総会・講演会を 6 月 26 日（金）午後 2 時から、全商会館 3 階中会議室において開催しました。

来賓として公益財団法人産業教育振興中央会専務理事の富岡 逸郎様、東京都公立高等学校長協会会長の小山 利一様（都立青山高等学校長）、東京都中学校長会会長の榎本 智司様（新宿区立新宿中学校長）をお迎えし、出席者は 47 名でした。

開会にあたり、西澤 宏繁会長、常任理事の早川 剛生都立学校教育部長から挨拶がありました。

続いて、来賓の富岡 逸郎様、小山 利一様、榎本 智司様からご挨拶を頂きました。

西澤 宏繁会長を議長として議事に入り、事務局から次の 9 件の議案を提案いたしました。

- ・報告事項 (1) 平成 27 年度 会長、副会長の選任について
- ・報告事項 (2) 平成 27 年度教育庁内の東京都産業教育振興会役員について
- ・第 1 号議案 会則の改正（案）
- ・第 2 号議案① 平成 26 年度事業報告（案）
- ・第 2 号議案② 平成 26 年度決算書（案）
- ・第 2 号議案③ 平成 26 年度監査報告
- ・第 3 号議案 平成 27 年度東京都産業教育振興会役員（案）
- ・第 4 号議案① 平成 27 年度事業計画（案）
- ・第 4 号議案② 平成 27 年度予算書（案）

審議の結果、各議案とも原案通り承認されました。総会資料は会員企業、学校等に配布済みです。

本年度の役員を紹介いたします。

会 長 西澤 宏繁（留任）

副 会 長 金子 昌男（留任）

同 小林 治彦（留任）

同 高石 公一（新任）

（東京都立葛飾商業高等学校長）

理 事 長 中井 敬三（新任）

常任理事 早川 剛生（留任）

同 山本 謙治（留任）



挨拶する西澤宏繁会長

総会終了後、講演会を開催いたしました。講師は株式会社開倫塾取締役社長の林 明夫氏で、演題は「これからの社会で求められる能力とは一企業が産業教育に期待すること」でした。49 名の参加者があり、熱心に講演に聞き入っていました。（講演要旨は 52 ページに掲載）



講演する林明夫氏



講演会・講演要旨

「これからの社会で求められる能力とは —企業が産業教育に期待すること—」

講師 林 明夫 氏
株式会社開倫塾取締役社長

どうもこんにちは。本日は、経済同友会からの出張授業講師として私をお呼びいただき心から感謝を申し上げます。こんな名誉なことはありません。

私は、栃木県、群馬県、茨城県の北関東3県で、開倫塾という小・中・高生対象の学習塾を60校舎経営しています。塾生はピーク時で約7,000名、教職員400名の規模です。

1 本日の講演の目的

本日は、これからの社会を見据えて、これからの社会で求められる能力とは何か、企業や社会が産業教育に期待することは何か、さらには、これからの学校教育のあり方について、ご参加の先生方と一緒に考えさせていただければと思います。

2 好きな言葉

はじめに、自己紹介を兼ねて、好きな言葉を紹介させていただきます。

「小学生は新聞を毎日読もう」

この言葉は、足利市立山辺小学4年生のクラス担任、岡典子先生からお教えました。学校の先生がお教え下さったことはやらなければと、その日から、新聞を毎日読むようになりました。

「ブルドッグ魂」(食いついたら離すな)

山辺中学3年生のクラス担任の岡田忠治先生から教えて頂いた言葉です。一度やり始めたら、執念をもってやり通す精神が身に付きました。

「練習で泣いて試合で笑え」

この言葉は、中学の柔道部長の椎名弘先生から教えて頂きました。おかげさまで、栃木県大会団体戦で優勝するなど、素晴らしい成果を出させていただきました。

「一所懸命」(一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組もう)

この言葉は高校のマラソン大会の合言葉でした。

「法学徒は常に最悪の場合を予想して行動すること」

この言葉は、慶應義塾大学法学部法律学科2年生の法思想史のゼミで峯村光朗先生から教わりました。「企業は原則倒産」、「会社の寿命は30年」と言われます。開倫塾は、創業36年目を迎えますが、まだ、倒産という企業にとり最悪の事態に至っていないのは、この教えのおかげです。

「注意一秒、けが一生」

この言葉は、大学3・4年生の時に、被害者学の権威で、刑事政策のゼミの宮沢浩一先生から教えて頂きました。宮沢先生には、数多の刑務所、少年院などの矯正施設に視察にお連れ頂きました。

「よき友、フェアプレイ、練習は不可能を可能にする」(スポーツで得られる3つの宝)

この言葉は元慶應義塾塾長の小泉信三先生からお教えました。この言葉が大好きです。

「離見の見」(舞台上踊る自分の姿を、舞台から離れた客席の自分が見る、客観的に自分を見詰め直しなさい)

この世阿弥の言葉は、企業活動や社会活動をするにあたっては、各々組織の社会的使命を常に自覚した上で、自分の行動を客観的に振り返



り、省察することが大切だと教えてくれます。
「持続する志」（一度立てた志は持ち続ける）
ノーベル賞作家、大江健三郎先生の言葉です。
「目には遠いが心は近い」

これはインドのことわざです。志を同じくする人、同じ学校、同じクラスで勉強した人は、一生の友です。そういう友人とは、距離は遠く離れていても、心は近いところにある。心の中で、お互いに励まし合いましょうという意味かも知れません。

「教育ある人とは学び続ける人」

これは、経営学の大家、ドラッカー先生の言葉です。現代は知識社会です。知識社会で最も大切なことは一生学び続けることです。学校で学び基礎力を身に付け、その上に、変化の激しい現代社会に対応できるだけの力を身に付ける。すべての職業人、プロフェッショナルは、学校を卒業後も、学び続けなければならないということです。

「歴史における個人の役割」

岩波文庫に、ロシアの革命家、プレハーノフが書いた「歴史における個人の役割」という小さな本があります。家庭から始まって、学校、地域社会、国家、国際社会などありとあらゆる組織には、独自の歴史があります。一つ一つの組織は、一人一人の働きで歴史ができあがりません。自分が属する組織の社会的使命を深く自覚し、どのような小さいことでもいいから、与えられた責任を果たす。組織にとり、その組織の「歴史における個人の役割」を自覚した人ほど大切な人はありません。

これらが私の好きな言葉です。学校の先生はじめ多くの方々から教えていただいた、これらの言葉を支えに、生きてきました。

3 これからの社会とはどのような社会であるか、そこで求められる能力は何か

次に、これからの社会とはどのような社会であるか、そこで求められる能力は何かということをご一緒に考えましょう。

(1) 知識基盤社会

これからの社会は、知識が基盤になった社会（Knowledge Based Society）です。「知識基盤社会」で求められる能力は、「知識、情報、技術を相互作用的に用いる能力」です。

ここでいう「知識」とは、具体的には、小学校、中学校、高校など初等・中等教育機関、大学、短期大学、専門学校、専修学校、大学院など高等教育機関で学ぶ、体系的知識がその内容です。その「知識」と、マスコミやミニコミ、インターネットなどから得られる「情報」と、各自の専門領域の深い「技術」を、「相互作用的に、うまく組み合わせながら「用いる能力」、これが「知識基盤社会」で求められる能力です。

(2) グローバル社会

これからの社会は「グローバル社会」です。外国の方がどんどん来たり、こちらから行ったりもしなければいけない時代ですので、「多様な集団で交流する能力」が求められています。

私の地元である栃木県足利市出身の衆議院議員に茂木敏充氏がいます。茂木氏が経済産業大臣のときに、日本の成長戦略として、5年間で1万社の日本企業の海外展開を支援する政策を出しました。おそらく、この1万社のうち8,000社以上は、医療、介護、福祉を含めたサービス産業です。今まで、製造業は大変な思いをして、海外展開をしてきました。製造業の貴重な経験を踏まえ、日本のサービス産業は海外展開していきます。

これからは、製造業、IT産業はもちろん、医療、福祉、介護を含むすべてのサービス産業分野も海外との関係は切っても切れません。ぜひ産業教育の具体的内容として、グローバル社会に不可欠な「多様な集団で交流する能力」を身に付ける教育をしていただきたく希望いたします。

「多様な集団」、つまり、国籍、民族、宗教、言語、行動様式、生活習慣、最終的には価値観が全く違った集団の中で、トラブルを起こすことなく、うまくやる、交流するにはどうしたらよいか。「関係は本質に先立つか」という命題がありますが、先立つと思います。自分の思考を一時停止し、エポケーの状態を作ったうえで、相手があるがままに認め尊重する。小さな、一つ一つの関係を大切に築きながらコミュニケーションし、トラブルを避ける。ただし、おじけづくことなく、大切なことは伝える。自分とは、本質的には異なっている、関係を大切にし、困難を乗り越える能力、これが「多様な集団で交流する能力」です。意思疎通で一番役に立つの

が、コミュニケーションの手段としての英語です。グローバル社会では、英語によるコミュニケーションが欠かせません。英語の教科書の内容はすべて役立ちます。教科書のスミからスミまで口をついて出るまで音読練習させてから、卒業させてください。教科書内容が正確に書ける、書き取り練習も欠かせません。

(3) 課題山積社会

現代社会は、家庭、地域、企業、公共部門、自治体、日本、国際社会、地球などありとあらゆる場所で、今までにないような課題が、文字通り、山のように積み重なって存在する「課題山積社会」です。各々の「課題の発見」、「原因の推定」、「応急処置」、「システム変更」など、課題解決のための一連の作業をやり抜くには、高い志と、「自律的に行動する能力」が求められています。

4 これからの社会で求められる能力の前提となる能力

(1) 「学習の仕方」を身に付けていること

以上の能力の前提になる能力は何か。「学習の学習」、つまり「学習の仕方を身に付けていること」と、「読書により思慮深さを身に付けていること」の2つです。

この「知識、情報、技術を相互作用的に用いる能力」、「集団で交流する能力」、「自律的に活動する能力」の3つの能力は、OECDのPISA調査の根底になる学力観である「キー・コンピテンシーズ」です。

PISAの内容として、OECDが研究をした成果がPISAの根底となる学力観である「キー・コンピテンシーズ」です。この3つの「キー・コンピテンシーズ」の前提となる能力が、「学習の学習(学び方を学ぶ)の能力」です。学び方が身に付いていないと学力は身に付きません。学び方を学んでいる人ほど力があります。

開倫塾の塾生に、一番困っていることは何かと質問をしますと、勉強の仕方がわからなくて困っているが一番多い答えでした。

勉強の仕方を質問されるたびにお答えしていたのですが、あまりにも同じ質問が多いので、学習を「理解」、「定着」、「応用」の3つの段階に分け、各々の段階にふさわしい学習の方法を取りまとめてみました。これが私の考えた「学

習の3段階理論」です。

- ・学習の第1段階の「理解」とは、「うんなるほどとよく分る、納得、腑に落ちること」です。
- ・学習の第2段階の「定着」とは、一度理解した内容をできるだけ正確に「身に付けること」です。
- ・学習の第3段階の「応用」とは「テストでよい点数が取れること」、「社会で役に立てること」です。

「理解」に欠かせないのは辞書の活用です。開倫塾の約5,000名の塾生調査の結果、学力を上げるのは、辞書を使いこなしている塾生であることがわかりました。そこで、各教科を勉強していてわからない言葉があったら「気持ち悪い」と思い、辞書を引くよう指導しています。

辞書を引いて意味を調べたら、その意味をノートに書き写す。書き写したノートは、授業前や、授業中、自学自習の時間に1ページから読む。書き取り練習もする。これを実行すると、言葉の力、語彙力が確実に増します。1日に10語で、1年365日で3,650語、3年で1万語、語彙が増えます。そうすると、全ての教科の教科書に書いてあることが大体わかる、「理解」できるようになります。辞書を用いる力を少しずつ身に付けることが「文章を読み解く力」つまり「読解力」の前提です。「辞書」は引いて、引いて、引きまくり、言葉の数、語彙力を自分の力で増強する。辞書の活用が「読解力」を身に付ける第一歩です。

「ノートが取れ、活用できる」ことが、理解では大切です。

「授業中にノートが取れるのは極めて高い能力」です。たとえば、私は、日本語の授業はいくらでもノートが取れます。これは日本語でノートを取る能力が極めて高いからです。英語の授業のノートは少ししか、フランス語やドイツ語、中国語やスペイン語の授業のノートは全く取れません。これは、英語でノートを取る能力は少しあるが、仏独中西語でノートを取る能力が私には全くないためです。

学年が上がれば上がるほど、各教科の内容は難易度が高まり、授業中にすべて理解することや、授業内容をその場ですべて身に付けることは困難になります。そこで、授業中に必要なことはノートに取り、授業後、ノート整理をし、

ノートは何回も読み返し、さらに深い授業の「理解」と「定着」に努める。授業の「理解」にノートを取ることは不可欠です。

「授業中にノートを取る能力」を身に付けることは、仕事でも役立ちます。「仕事はメモで身に付ける」ものです。仕事ができる人ほどメモを取ります。メモが取れないと仕事に支障をきたします。お客様と面談の約束をしても、時間や場所のメモが取れなかったら大変です。大事なことを打ち合わせしても、その内容のメモが取れなくては打ち合わせになりません。仕事には教科書はありません。仕事の上で、大切なことは、全部メモをし、後でそのメモを読み返し、深く「理解」すると同時にそれを身に付ける。一日の最後に、その日の仕事をメモを見ながら振り返る。メモを整理し、必要なことは付け加え、自分独自のノートを作り上げる。英語でノートはノートブックと言います。一冊の本のような「マイ・ノートブック」を作り、スミからスミまで、繰り返し、繰り返し読み返し、仕事の「理解」を深め、身に付ける、「定着」させると、職業能力が高まります。ですから、授業中に、大切なことはノートを取る能力を、学校時代に身に付けさせていだきたくお願いいたします。

授業の内容を「理解」するために「予習」は欠かせません。教科書や教材を、授業の前に自分の力で一行、一行よく読み、「理解」する。意味の分からない語句があったら辞書や用語集、参考書で調べる。調べた内容はノートに書き写し、その理解に努める。計算や問題はノートに解く。このような丁寧なプロセスを踏んで予習をしていくと、よく「理解」できたところと、よく「理解」できないところが、少しずつはっきりしてきます。

「予習は何のために行うのか」を突き詰めて考えると、「予習とは何がわからないかをはっきりさせて授業に臨むために行うもの」という考えに至ります。予習をして、何がわからないかをはっきりさせるということは、問題意識、興味・関心・意欲が極めて高いことを意味します。このような目的で授業の予習を行えば、授業での「理解」は極めて高いといえます。予習は何のためにするのか、予習の「意味」もぜひ教えてください。

ちなみに、仕事の上でも、よくわからない、不確かなところをはっきりさせて、打ち合わせや会議などに臨むことは大切です。

「理解」が深まる授業の受け方とは何か。手を机のうえに置き、先生の日や口元を見つめ授業を受けると、理解が深まります。折角先生が万全の準備をなさって授業に臨んでも、欠席、遅刻、早退、居眠り、スマホ、私語などしていると、授業における「理解」の妨げになります。

「理解」した内容を身に付けるには、すらすらよく読めるようになるまで声を出して繰り返し読ませる「音読練習」と書き順を含め正確に楷書で書けるまで「書き取り練習」を繰り返すことが有効です。

簡単な計算や問題はパッパと答えが出るまで「計算・問題練習」も有効です。この3つの練習を「定着のための3大練習」といいます。「定着のための3大練習は、不可能を可能にする」、学力の大幅アップを約束します。

「応用」とは「試験でよい点をとること」と、「社会で役立てること」です。学校でも、社会に出てからも、受けなければならない試験はたくさんあります。試験の受け方、よい点数の取り方を身に付けておくのは大切です。もちろん「理解」と「定着」だけでも良い点数はとれますが、過去に出題された問題、「過去問」を解き、一度解いた過去問とその解答・解説を学校の教科書のように、丁寧に「理解」し「定着」させると、どんな試験でも「よい点数」がとれます。

教材と同様に、入試や定期試験、検定試験など様々な試験の作問を担当する先生方は、文字通り、一所懸命、命がけて問題をつくっています。自分の命を削りながら、真剣につくっている先生も数多おられます。教材として用いても素晴らしい問題が多いので、一度解いた問題は、教科書同様、大切に、大切に学び直すことを教えていただきたく思います。

(2)「読書による思慮深さ」を身に付けること

読書により得られる能力は何か。本格的な読書の絶対量が多ければ多いほど、文章を読み解く力、「読解力」が身に付きます。同時に、読書により思慮深さが身に付きます。教科書で紹介している本や、図書館の本を、ゆっくり、丁寧に、腰を据えて読む。気に入った語句や文章は、たとえ一語、短い文章であっても「書き抜

き読書ノート」に書き抜き、折に触れ読み直す。これも能力です。

(3) 「新聞を読み、自分で考える力、批判的思考 (Critical thinking) 能力」を身に付けていること

仕事の基本は、顧客価値の創造です。お客様のお役に立って初めてお客様を得ることができます。お客様のお役に立つとは何か。提供する商品やサービスがお客様の問題や課題の解決に貢献することです。同じような問題や課題を持つお客様が社会にたくさんいれば、お客様の問題解決、課題解決は、社会の問題解決、課題解決に貢献します。

仕事とは、お客様のお役に立つこと、お客様のお役に立つことで、社会のお役に立つことです。社会の変化が激しいため、何がお客様や社会の問題・課題であるかを知らないと、それらを解決する製品やサービスの提供はかないません。世の中の動きを知るために役に立つのが、新聞を一面から舐めるよう毎日読むことです。新聞を読み「自分で考える力」と、「批判的思考力」を身に付け、顧客や社会の問題解決、課題解決に直結する製品やサービスを提供することが大切です。

全ての教科でNIE、新聞を教育への取り組みと、気になる記事は「スクラップブック」に保存し何回も読み返すこともご指導ください。

5 企業や社会が学校教育、職業教育に期待すること

(1) 自分のよさや潜在能力を自分の力で見出し、自分の力で伸ばすこと

自分のよさや、潜在能力を見出し、伸ばすためには、家族のよさ、友人のよさ、クラスのよさ、東京のよさ、日本のよさ、アジアのよさを、一つでも多く見出すことが大切です。他人のよいところを見出すことができれば、自分のよさ、潜在能力は必ず自分の力で見出すことができます。

(2) 自覚を持って学ぶこと

教育の成果を決定する要因とは何か。本人の自覚と、教師の力量です。ただし、自覚するようにと言われても、すぐにできるものではありません。教師が行うべきは、自覚を促すことです。自覚を促すことができることも教師の力量

に入ります。

(3) 自分から進んで積極的に学ぶこと

学力とは、「主体的に学ぶ力」です。この意味での学力こそが、イノベーションの担い手である企業家に求められる能力です。

(4) 課題を自らの手で発見をして、自らの手で解決する

「主体的に学ぶ」能力を身に付けて、初めて、課題発見、課題解決が可能となります。

(5) 今まで行ってきたこと、現在行っていること、それから、これから行おうとすることの「価値」、「意味」を自分の力で考えること

今まで行ってきたこと、現在行っていること、これから行おうとしていることの「価値」や「意味」を自分の力で考える力を養ってほしい。何のために、ここにいるのか、何のためにこの科目を勉強しているのか、今なぜこの職業教育を受けているのか、これから行く修学旅行にはどんな意味があるのか、体育祭・文化祭はどのような大切さがあるのかなど、身近なところから、その「価値」や「意味」を自分の力で考える。そういう習慣を学校教育の中で身に付けさせていただきたい。一つ一つの行動について、その価値を考え、意味づけをして、その上で、「自己決定」。自分でやること、やらないことを自分で決める。

「意味づけ」、「自己決定」をし、自分のルール、「秩序」に従い行動をする。「価値」、「意味」、「秩序」など、基本的な考えに基づいて、行動できるような教育をお願いいたします。

職場の上司が「あなたの潜在能力はこれです」と言うことは難しいですが、自分で見つけた潜在能力を、伸ばす手伝いは職場でもできます。ですから、職場でも潜在能力を自分で見つけ、それを仕事場で発揮してもらいたい。

自分から進んで、仕事に関するいろいろな知識や情報、専門的な技術を主体的に学ぶ力を身に付けている社員が多ければ多いほど、企業は、成長、発展、永続します。

仕事に関する問題や課題を自らの手で発見して、自らの手で解決する。グループやプロジェクトチームで発見し、解決する。そして、働いている会社や組織、担当している仕事の「価値」、「意味」、さらには、「社会的使命」、「ミッション」を考え、自覚する。意味づけをして、行うべき

こと、行わないことを決定する。ルールに従って秩序立った行動を心掛ければ、素晴らしいプロフェッショナル、プロフェッショナル集団となります。このような「自律的に行動する能力」が、企業や社会で最も求められる能力です。

コリンズが「ビジョナリー・カンパニー」という永続する企業の条件とは何かについての本を出し、大評判となっています。永続する企業の絶対条件は何か。「自律的な人材」が、「自律的な考え」を持って、「自律的に行動」する、このような企業こそが、永続する企業の絶対条件であるということ、4巻にわたって書いています。

(6) 5 Sを身に付けること

職業教育、産業教育で、ぜひやっていただきたいのは「5 S」です。「5 S」の「整理」とは、「不要なものを捨てる」こと。「清掃」とは「常にきれいにする」こと。「整頓」とは、「すぐに取り出せるようにする」こと。「清潔」とは、「それらを保つ」こと。「躰」とは、「自分から進んでやる」ことです。

足利商工会議所には「足利5 S学校」があります。足利市役所や小、中、高校でも「5 S」が盛んです。「5 S活動」のメッカのような街が足利市です。「足利5 S学校」で検索していただきますと、ホームページがありますので、ご興味ある方は参考にいただければと思います。

(7) 別の意味での「躰」を身に付けること

別な意味での「躰」、これも大事だと思います。それは、「美しい立ち居振る舞い」と、「敬語表現を含む言葉遣い」です。「美しい立ち居振る舞い」には服装も入ります。服装は大切です。

(8) 職業人として社会に出てからの勉強の仕方を身に付けること

社会に出てからが勉強です。社会に出てからが本当の勉強です。もちろん学校の勉強はとても貴重な尊いものです。学校での勉強にプラスして、社会へ出てからの勉強が大事です。社会に出てから学ばなければならないことが山ほどありますので、できれば学校の勉強は学校で完結、できるだけ、身に付けた上で卒業してもらいたい。

一番学校にお願いしたいのは、パソコンです。学校で勉強したことになってはいても、エクセ

ルやワードが身に付いていない人がたくさんいます。パソコンの授業で教えたことが身に付いているかを検証、確認いただいてから卒業させていただきたい。身に付いていない人は、卒業の年の3月31日まで責任を持って教えていただきたく思います。

(9) 社会に出てから「したほうがいいこと」と「してはいけないこと」を身に付けること

一番大切な教科は、「保健」、健康教育です。せっかく学校や家庭ですばらしい教育を受けても、死んだり、病気になったりしたら大変なのです。健康のためにやっていいこと、よくないこと、こんなことをすると病気になるよということを、厳しく指導していただきたい。どうしても、生涯にわたって健やかに生きることができるかを、食育も含め、お教えいただければありがたいと思います。

それから、法教育、規範教育です。世の中にはいろいろなルールがあり、ルールの中で自由自在に活動することの大切さを、教えていただきたい。

来年から18歳以上が有権者となります。そこで、主権者、有権者としての教育、主権者教育をやっていただければ有難いです。

(10) 社会に出る前の最後の教育機関としての自覚をもって、最終学年の最終日までのご指導を

英語とパソコンだけは、卒業の年の3月31日まで教えてもらいたい。パソコンの教科書に載っていることはちゃんと身に付いているかどうか、また、英語の教科書に出ていることがすらすら口をついて言え、正確に書けるかどうか。英語とパソコンができないと話にならないので、ぜひこれだけは責任をもってご指導いただければと思います。

6 学校教育の在り方についての提言

(1) OECDや、政府、文部科学省で議論している教育改革の内容を十分に活用し、あるべき学校教育を目指していただきたいと思います。

職業教育、産業教育の分野で、文部科学省や、教育再生会議の議論とベクトルが合うものだけでも、先行実施していただければ、日本のためにも、生徒のためになります。よろしく願います。

(2)日本の文教政策の大半は、OECDの調査、研究の成果を踏まえて行われています。そこで、OECDの調査・研究成果と文科省の教育改革の議論の推移をお調べいただき、ご自分の学校で一番ふさわしいと思われるプログラムを、先行して積極的に取り組んでいただければと思います。

(3)公益社団法人経済同友会では、教育改革、人材育成、企業経営などについて、たくさん提言しています。ホームページを見ていただいて、ぜひお読みいただければと思います。経済同友会の会員である経営者を、交通費も含め無料で学校に派遣する「出張授業」も、積極的にご利用下さい。

(4)政府の教育再生会議や文部科学省が行っている「教育改革」は、今やっていることの延長上の「インプルーブメント(改善)」ではなくて、もしかしたら「イノベーション(刷新)」つまり、今までと全く違うことをやろうとしています。

(5)このような教育改革の時期こそ、皆様の学校でも、「自己責任」、「自助努力」、「自分の未来は自分で切り開く」、「あきらめたらおしまい」の精神で、失敗を恐れることなく「教育のイノベーション」にご挑戦をいただきたく思います。

シュンペーターがイノベーションを提唱しました。企業家精神で、この教育改革を先行実施すれば多くの挑戦ができます。文部科学省からのペーパーを読めば、専門学校、高等学校として挑戦できることが山ほどあることがお分かりになります。

これからは、高等専門学校は工業だけに限られません。サービス産業や農業などの産業分野でも、高等専門学校の可能性は極めて高いといえます。専門学校の可能性として、高等専門学校をお考え頂ければ、プロフェッショナル養成として、ありがたい限りです。

また、専門学校では、高校卒業生以外にも、数多くの短期大学卒業生、大学卒業生、さらには大学院修了生が学んでいます。そうであるなら、専門学校は専門職大学院を目指していただければありがたいと思います。

このように、専門学校を高等専門学校か専門職大学院という形で、学校法人の内容を変えて

もらいたい。専門学校で学ぶ人のためにも、また、地域の発展のため是非お取り組みいただきたく思います。特に、就業者数の7~8割を占めるサービス産業の分野ではこの要請が強いと考えます。

(6)イノベーションを目指す際には、ベストプラクティスのベンチマーキングをぜひ戦略的に行ってもらいたいと思います。最も優れた実践例(ベストプラクティス)を素直な心で学ぶこと(ベンチマーキング)を積み重ねた上で、独自性のある取り組みをし、発信し続けていただきたい。

(7)学校の先生、管理職の方こそ、誰に遠慮することなく、生涯にわたって勉強し続けてもらいたい。できれば専門領域を深め、経営能力を高めるために、修士課程、博士課程で学んでいただきたい。

(8)外国人の留学生や、先生、管理職、事務職員の積極的な受け入れもしていただきたい。これから先、日本人だけで学校は成り立つのかということ、私は危ないと思います。ですから、生徒、先生、事務職員、経営幹部の3分の1以上は外国の方に来ていただいて、学校を運営する。これが、これからの産業教育の在り方です。(9)知識基盤社会で大切なのは生涯にわたって学び続けることです。高校、大学、専門学校、高等専門学校、大学院などに出たり、入ったりを繰り返しながら、学び続けること。卒業させたらそれでおしまいではなくて、必要なことは、出入りを繰り返し、学び続ける。外国、特に欧米では、複数の学部、複数の大学院修了者が驚くほどたくさんいます。

(10)皆様の学校で特色ある行事や、取り組み、調査や、研究をなさるときには、マスコミや、ミニコミにニュース・リリースや取材のご案内をお送りして、取材をしてもらったらよいと思います。学校の取り組みを広報という形でPRすることをお勧めいたします。広報担当をお決めになり、できれば、1か月に1回は地元の新聞社やCATV、ラジオ局などを定期的に訪問。人間関係を築くことが広報の第一歩です。取材を受ける際には、記者の皆様に、真実を、できるだけわかりやすく、丁寧親切に説明、理解をいただくことが大切です。

学校であっても、顧客とは誰か、これを明確

に定義することです。開倫塾は、地元密着の学習塾として、顧客を塾生、保護者、地域社会と定義しています。ぜひ皆様の学校でも自分たちの顧客を定義なさることをお勧めいたします。顧客にコミュニティも入れていただければ有難く思います。

仕事とは何か。「事業領域」や「企業ドメイン」をはっきりさせれば、仕事が明確になります。

国際競争力のある学校づくりも欠かせません。皆様の競争相手は誰かといえば、インドなどで盛んな「ロー・コスト・プライベート・スクール（低価格私立学校）」だと思います。インドには、1カ月の月謝が500円くらいの、ロー・コスト、安い価格の、プライベート・スクール、私立学校があります。この学校の特色は、全ての教科を英語で教えているということです。インドの方はもう知っています、英語ができなければ貧困から脱却できないことを。コンピューターができなければ貧困からの脱却はできない。こう考え親たちは一生懸命働いて子供たちを学校に通わせる。子供たちは、親の願いを理解し、期待に応えようと、貧困から脱却するために、英語とコンピューターを一生懸命勉強し、大学院修士課程、博士課程を目指します。文系大学進学希望者も高校3年生まで数学を学び続けます。微分積分までほぼ全員が勉強するのが、インドの高校の特色です。微積まで学んだうえで、コンピューターを学びますから、どんどん身に付きます。高校時代に寝る時間以外は勉強の生活を送った人がインドの専門学校で学びますから、職業教育も素晴らしいと思います。本当に熱心です。多くの学生が眠る時間以外勉強しています。皆様にはインドの職業教育を、ぜひ、勉強していただきたいと思います。

7 最後に

先生方こそ「励まし合う仲間づくり」を心掛け、孤立しないでいただきたい。経済同友会の提言に対してご意見があれば、事務局あてにお出しいただければ、経済同友会の事務局や担当委員会で検討させていただきます。

生徒には、読むべき本や、訪ねるべき場所があったらどんどん紹介していただければと思います。こんな本を読んだらいいよということを、校長先生初め先生方が理由を添えて教えれば、

生徒の何人かは必ず読みます。同時に、学校図書館は大事ですので、ぜひ充実させていただきたい。図書館で、1学期に1回以上は、全教科の授業をしてもらいたい。教科ごとの図書館の利用の仕方を身に付けさせ、卒業までに図書館で勉強する習慣を身に付ける。公立の図書館や大学の図書館でも勉強する習慣を身に付けてもらいたい。学校図書館を含め、全ての図書館は365日、朝6時から夜12時まで開館し、図書館で学ぶ機会を提供していただきたい。

社会教育施設の活用も大切です。東京都は本当によだれが垂れそうな施設がたくさんあります。ぜひ、親しみ、活用していただきたい。

一つの生き方として、人生を35の倍数で考え、3分割する。知識基盤社会では、35歳過ぎまでは勉強です。70歳過ぎまで仕事。105歳過ぎまで、自由自在に生きていく。各々の段階で、どのような生き方をしたらよいかを考えると楽しいと思います。自分はこれしかないでもいいですが、これもやるし、これもやるし、これもやると、柱になるものを3つぐらいつくってやっていると、少し大変ですが、3本柱の素晴らしい生き方ができます。

最後に、私の近所にお住まいであった、書家の相田みつを先生からお教えいただいた「一生勉強、一生青春」という言葉を、ご紹介させていただきます。私の話を締めさせてさせていただきます。

ご清聴、ありがとうございました。(拍手)



平成27年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰

平成27年度公益財団法人産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」及び本会実施の「中学校技術・家庭科教育功労者」「専修学校産業教育功労者」に対する表彰式を平成27年11月17日に都庁第二本庁舎31階特別会議室25で挙行了いたしました。

表彰式では、本会西澤宏繁会長から功労者に表彰状と記念品が手渡されました。会長の祝辞に続いて、東京都教育委員会を代表して早川剛生教育庁都立学校教育部長から祝辞がありました。続いて公益財団法人産業教育振興中央会専務理事富岡逸郎様、東京都公立高等学校長協会会長小山利一様、東京都中学校長会副会長松丸晴美様の3名の御来賓の方々から御祝辞をいただきました。祝辞を受け、受賞者を代表して東京都立蔵前工業高等学校加藤秀次校長から謝辞が述べられました。

表彰式の出席者は、「御下賜金記念産業教育功労者」24名中12名、「中学校技術・家庭科教育功労者」9名中8名、「専修学校産業教育功労者」2名の計22名でした。

受賞者は次の方々です（順不同・敬称略）

I 御下賜金記念産業教育功労者（24名）

| | | |
|----------------|-------|------|
| 東京都立園芸高等学校 | 主幹教諭 | 高橋和彦 |
| 東京都立工芸高等学校 | 主任教諭 | 鈴木頼彦 |
| 東京都立工芸高等学校 | 教諭 | 足立透 |
| 東京都立蔵前工業高等学校 | 校長 | 加藤秀次 |
| 東京都立荒川工業高等学校 | 主任教諭 | 岩本正美 |
| 東京都立荒川工業高等学校 | 主任教諭 | 小山繁 |
| 東京都立足立工業高等学校 | 主任教諭 | 高橋圭助 |
| 東京都立足立工業高等学校 | 教諭 | 片岡正弘 |
| 東京都立科学技術高等学校 | 実習助手 | 金子東市 |
| 東京都立科学技術高等学校 | 非常勤講師 | 芳賀友彦 |
| 東京都立葛西工業高等学校 | 主幹教諭 | 日向茂 |
| 東京都立第一商業高等学校 | 主幹教諭 | 高村俊一 |
| 東京都立荒川商業高等学校 | 校長 | 長船孝明 |
| 東京都立荒川商業高等学校 | 主幹教諭 | 高見節夫 |
| 東京都立葛飾商業高等学校 | 主任教諭 | 工藤輝雄 |
| 東京都立江東商業高等学校 | 主任教諭 | 篠田勝之 |
| 東京都立第三商業高等学校 | 主幹教諭 | 成田弘光 |
| 東京都立大島高等学校 | 校長 | 大塚健一 |
| 東京都立三宅高等学校 | 教諭 | 森誠 |
| 東京都立八丈高等学校 | 主任教諭 | 田中秀子 |
| 愛国高等学校 | 教諭 | 原子彰彦 |
| 愛国高等学校 | 実習助手 | 増田博子 |
| 東京都立産業技術高等専門学校 | 教授 | 井上徹 |
| 東京都立産業技術高等専門学校 | 教授 | 杉江道男 |

II 中学校技術・家庭科教育功労者（9名）

| | | |
|-----------|------|------|
| 中央区立銀座中学校 | 校長 | 加藤讓司 |
| 台東区立柏葉中学校 | 主幹教諭 | 荒井清治 |

江東区立深川第三中学校
 大田区立大森第八中学校
 世田谷区立玉川中学校
 中野区立北中野中学校
 北区立神谷中学校
 足立区立青井中学校
 小平市立小平第十五小学校

主任教諭 岡田 和代
 主任教諭 内山 尚子
 副校長 古谷野 悦夫
 校長 関 年隆
 校長 島津 睦雄
 校長 池田 敦彦
 校長 熊井 久乃

III 専修学校産業教育功労者（2名）

国際理容美容専門学校
 中央工学校

美容科教員 小川 美代子
 教員 浜野 和孝



平成 27 年度 東京都産業教育振興会後援事業

下記の団体に対し後援を行い、状況は以下の通りであった。

| | 対 象 事 業 | 開催期間 | 実 施 場 所 | 参加者数 |
|---|--|--------------------------------------|---|----------|
| 1 | 平成 27 年度日本工業教育経営研究会・日本工業技術教育学会「第 25 回工業教育全国研修大会（東京大会）」 | 7 月 11 日～7 月 12 日 | 拓殖大学文京キャンパス | 116 人 |
| 2 | 平成 27 年度東日本高等学校土木教育研究会関東地区総会並びに研究協議会 | 6 月 5 日 | 日本工学院専門学校蒲田キャンパス | 60 人 |
| 3 | 平成 27 年度全国高等学校土木教育研究会総会並びに研究協議会全国（東京）大会 | 8 月 20 日～8 月 21 日 | 東京工科大学・日本工学院専門学校 | 350 人 |
| 4 | 第 31 回葛飾区産業フェア | ① 10 月 16 日～18 日 ② 10 月 23 日～25 日 | ①テクノプラザかつしか、城東地域中小企業振興センター ②テクノプラザかつしか | 80,000 人 |
| 5 | 平成 27 年度第 22 回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会 | 11 月 21 日 | 東京都立工芸高等学校 | 約 300 人 |
| 6 | 第 13 回創造ものづくりフェア in TOKYO | 11 月 14 日、21 日 | 中央区立銀座中学校 女子栄養大学駒込キャンパス | 680 人 |
| 7 | 第 3 回東京都立総合学科高等学校教育活動成果発表会 | 12 月 19 日 | 東京都立晴海総合高等学校講堂 | 334 人 |
| 8 | 第 16 回全国中学生創造ものづくり教育フェア | 1 月 23 日～24 日 | 武蔵野総合体育館 女子栄養大学 | 9,000 人 |

平成27年度 第10回 産学懇談会

平成27年度11月6日(金) 13:00～18:00
東京都六郷工科高等学校

次 第

- 1 開会
(1) 主催者挨拶 会長 西澤 宏繁
(2) 日程説明 事務局長 有馬 育子
- 2 授業参観、校内施設見学
- 3 懇談会
(1) 会場校より
(2) 参加者自己紹介
(3) 懇談・意見交換
- 4 謝辞 副会長 金子 昌男
- 5 事務連絡・その他
- 6 閉会



産学懇談会は専門高校等の会員校の教育に関する理解を深め、東京における産学連携の発展に寄与することを目的として、平成18年度から開催され今回で10回目を迎えた。

今年度は東京都立六郷工科高等学校を会場に東京都で初のデュアルシステム科を授業見学し、学校側から説明を受けることにより、デュアルシステムに対する理解を深め、本会としての産学連携の可能性を探った。本会の役員、企画推進委員、企業・学校会員等23名の参加を得た。

開会での挨拶の後、デュアルシステム科1年生の授業見学を行った。見学した授業は学校設定科目「学働」という企業訓練先が決まるまで生徒のサポートを行うことを目的とする科目で、マナー講演、履歴書・協定書の作成、企業見学、事後発表（プレゼンテーション）等を授業内容とする。この日は地元の企業経営者を講師に招いて、社会で必要な最低限のマナー（挨拶・感謝・反省・報告・連絡・相談）についての講義を授業見学した。真剣な眼差しで集中して講師の話を聞く生徒の授業態度や講師に質問する生徒の立派な発言態度に、我々参観者は改めて工業高校生に感心させられる思いであった。

休憩時間に参観者は思い思い生徒に話し掛けて交流した。生徒は皆、一人一人立派な名刺入れを持っており、企業見学先の担当者の名刺数枚を、私たちに見せてくれた。どこの会社の実習に行きたいかを尋ねると、「僕は将来自動車関係の仕事をしたので、自動車整備の会社で実習したい。」とか、「見学に行った先の雰囲気が良かったので、その会社に行ってみたい。でも、先輩がそこで実習しているので、今年には行けなかもしれない。」などと楽しそうに話してくれた。生徒は企業実習をとっても楽しみに期待しているように感じられた。



学校の施設見学を行った後、懇談会を行った。まず、学校側からデュアルシステムについての概略説明がなされた。デュアルシステム科は1学年での企業見学と2社5日間のインターンシップ、2・3学年での前後期各々1カ月間、合計4カ月間の長期就業訓練を特徴とする。協力企業は開校当初は79社しかなかったが、現在では240社以上に拡大した。

学校としては①見学等による企業理解、②遅刻や欠席をしないことから、夜更かしをしないなど家庭と連携した規則正しい生活習慣の確立、③規則、約束、マナーを守ることを含めたレポート指導をとおした教科指導、に力を入れている。また、企業実習後の成果報告会でのプレゼンテーション指導にも注力している。その結果、開校当初からの課題となっていた中途退学率を大幅に減少させることができ、現在では入学した生徒は殆んど全員が卒業するとのこと。卒業後の就職についても、現在は70%以上の生徒が就業訓練先の企業に就職して、即戦力として活躍している。

会場校の佐々木校長からは、教師が生徒と同じように企業研修を体験することによって、教師として生徒に必要な支援の内容を理解することができ、生徒の目線に立った指導が可能になったことで、教師自身の成長とともに教育の質を向上させることができたとの報告があった。教師は企業研修をとおして①自らの企業体験の少なさや体力不足などの自分自身への気づき、②生徒理解や教師自身の専門技術不足などデュアルシステム科教員としての必須能力不足、③実行力・決断力や計画力など実践場面での意思決定の経験不足、④気遣いを含めたコミュニケーション力の欠如、などを実感して自己啓発に活かしているという。



参加者からはしっかりした授業態度で講師の話聞き、立派に質問する生徒を賞賛する意見や感想が多く出された。また、気さくに参加者と話す生徒を評価する意見も多く出された。また、生徒と同様に、教師にも企業体験をさせ、生徒が就業訓練で受ける気持ちを理解することで生徒指導を改善し、生徒の定着率を向上させたことに共感する意見も多く出された。

今回、会場を提供してくださった東京都立六郷工科高等学校の佐々木哲校長、桐野勝利副校長をはじめ、多くの教職員の皆様に深く感謝申し上げます。



平成27年度 第26回東京都産業教育振興会作文コンクール

(1) 入選者一覧

今年度の「作文コンクール」の応募者数は中学校の部では18校82名、高等学校・専修学校の部では高等学校が15校93名、専修学校が5校21名で、総数では38校196名でした。

応募作文は各部の選考委員による第一次選考によって中学の部では17作品(21%)に、高等学校・専修学校の部では高等学校が22作品(24%)、専修学校が7作品(33%)に絞られました。

10月下旬に行われた第二次選考によって、中学校の部は13作品(最優秀賞1、優秀賞2、佳作10)、高等学校・専修学校の部では高等学校が14作品(最優秀賞1、優秀賞3、佳作10)、専修学校が3作品(優秀賞1、佳作2)、合計では30作品の入選者が決定しました。応募者数に対する入選者の割合は中学校が16%、高等学校が15%、専修学校が14%で全体としては15%の入選率でした。

入選者は以下の通りです。

中学校の部

| | | | | | | |
|------|----------------|-------------|----|---|----|----|
| 最優秀賞 | 生き方を考える | 大田区立大森第一中学校 | 2年 | 男 | 澤 | 和輝 |
| 優秀賞 | 四つの力 | 大田区立大森第六中学校 | 2年 | | 佐藤 | 真智 |
| 優秀賞 | 職場体験が教えてくれたこと | 足立区立第六中学校 | 3年 | | 鍋木 | 愛美 |
| 佳作 | 夢 | 愛国中学校 | 3年 | | 浅井 | 彩華 |
| 佳作 | 働くことの喜びと達成感 | 中央区晴海中学校 | 3年 | | 遠藤 | 佑香 |
| 佳作 | 全ては相手を考えて | 墨田区立両国中学校 | 2年 | | 西本 | 朱里 |
| 佳作 | 何かを想う気持ち | 中野区立第七中学校 | 3年 | | 大橋 | 由依 |
| 佳作 | 栽培の楽しさとその技術 | 中野区立第七中学校 | 3年 | | 宮崎 | 大悟 |
| 佳作 | 校外講座で理科と技術を学んで | 北区立稲付中学校 | 3年 | | 高谷 | 直希 |
| 佳作 | 物作りが夢に | 練馬区立開進第四中学校 | 3年 | | 安部 | 葉南 |
| 佳作 | 職場体験から学んだこと | 足立区立第六中学校 | 3年 | | 高橋 | 美咲 |
| 佳作 | ものづくりを通じて作る未来 | 足立区立第六中学校 | 3年 | | 辻村 | 茉緒 |
| 佳作 | 作物を作り育てるということ | 葛飾区立堀切中学校 | 3年 | | 木村 | 真夕 |

高等学校の部

| | | | | | |
|------|-----------------|--------------|----|-----|-----|
| 最優秀賞 | あの看護師さんのような看護師に | 愛国高等学校 | 3年 | 鯨井 | 未来 |
| 優秀賞 | 大きくなれた私 | 東京都立農芸高等学校 | 3年 | 鈴木 | 晶葉 |
| 優秀賞 | 畜産を学んで | 東京都立瑞穂農芸高等学校 | 2年 | 五十嵐 | 香月 |
| 優秀賞 | 人工授精師を目指して | 東京都立瑞穂農芸高等学校 | 3年 | 佐野 | ゆづき |
| 佳作 | 笑顔がくれる力 | 愛国高等学校 | 3年 | 石川 | 沙亜羅 |
| 佳作 | 会計コースでできた夢 | 愛国高等学校 | 3年 | 成澤 | 悠衣 |
| 佳作 | 夢を叶えたら | 愛国高等学校 | 3年 | 松下 | 桃子 |
| 佳作 | 私の進路 | 日本工業大学駒場高等学校 | 1年 | 高橋 | ななこ |
| 佳作 | 農業! | 東京都立農業高等学校 | 2年 | 伊藤 | 香菜海 |
| 佳作 | 馬との出会い | 東京都立農芸高等学校 | 2年 | 大澤 | 萌 |
| 佳作 | 命の尊さ | 東京都立瑞穂農芸高等学校 | 4年 | 有村 | 今日子 |
| 佳作 | 専門教科の学習で学び得たこと | 東京都立瑞穂農芸高等学校 | 2年 | 小林 | 芙由 |
| 佳作 | 将来の夢 | 東京都立忍岡高等学校 | 3年 | 坂本 | 理香 |
| 佳作 | 私の将来の夢 | 国際理容美容専門学校 | 2年 | 早坂 | 実莉 |

専修学校の部

| | | | | | |
|-----|---------------|------------------|----|----|-----|
| 優秀賞 | 将来の夢 | 東京エアトラベル・ホテル専門学校 | 2年 | 保科 | 希帆 |
| 佳作 | 決まっていた進路 | 青山製図専門学校 | 1年 | 甲斐 | あす香 |
| 佳作 | ボランティア活動で得たもの | 東京エアトラベル・ホテル専門学校 | 2年 | 緒方 | 春佳 |

(2) 最優秀作文

中学校の部 最優秀賞

生き方を考える

大田区立大森第一中学校 2年 男 澤 和 輝

自分のことは好きだ。そんな僕が、一つだけ直したいことを挙げるとすると、「人の言葉や行動に流されてしまうこと」だ。友だちが辞めたからという理由で、部活も辞めてしまった。将来のことを考えたとき、このままでいいのかと、つくづく思う。

第二学年の総合的な学習の時間は、『生き方について考えよう』というテーマで学習をしている。「なぜ、人は働くのだろうか」という小テーマでは、一人暮らしをするのに必要なお金や家族への職業観インタビューを通して、働く目的について考えた。「自己理解」という小テーマでは、自分の特性や職業に対する適性について考えた。こういった授業内容が増えたことで、友だちと志望校について話すことが多くなった。志望理由を聞くと、お兄ちゃんが通っているから、近くだから、親が勧めるからと答える仲間が多く、僕もその一人だ。今考えれば、将来の生き方さえも、人の言葉に流されていたのだと思う。

そんな中、総合の授業で、「職場体験」の取り組みが始まった。職場の希望調査は、体験してみたい産業を書くものだった。僕は、児童館や保育園を第一希望にした。それを見た友だちからは、意外だと驚かれた。このとき、周囲から見られている自分と、自分が思っている自分は全く違うのかなと思った。「自己理解」の授業の中で、友だちも「自分ってこんな風に見られているんだぁ」と言っていた。いつも一緒に行動している友だちでも、知らない一面がたくさんあるのかなと思った。

体験場所が発表された。児童館に行くことが決まったときは嬉しかった。班長にも立候補して、頑張ってみようと思った。なぜこの職業を選んだかという、「一番身近な職業だから」というのが大きい。つい最近まで、児童館で遊んでいたし、休みの日は一日児童館にいても少なくなかった。児童館に行けば、必ず友だちがいた。困ったときは、スタッフの人が優しく助けてくれることもあった。僕にとっての、第二の学校みたいな存在が児童館だった。そんな、よく知っている場所で体験してみたいと思ったのは、自然な流れだったように思う。

職場体験当日。職場の方々に挨拶をし、最初の仕事に取り組んだ。「赤ちゃんタイム」という、生後間もない小さな子たちと遊んだり、その保護者と会話したりするというものだった。保護者の方たちは、僕の名前の由来や母親のことをどう思っているかなど、これまであまり考えたことのないことを聞いてきた。受け答えに苦労したけれど、なんだか楽しい気持ちになった。誰かに必要とされることは、すごく気持ちのいいことだなぁと改めて思った。

「赤ちゃんタイム」は一時間だった。児童がやってくるのは三時ごろ。それまでの時間は休憩かと思っていたが、違った。児童への配付物を作ったり、工作の準備をやったり、遊びに来ていたときには想像もしていなかった仕事だった。作る量の多さに投げ出したい気持ちになった。やすりでプラスチックの板を削っているときは、水ぶくれの痛さに悩まされた。スタッフの方がこんな苦労をしていたとは知りもしなかった。

三時になり、子どもたちが遊びに来た。僕たちの存在に困惑していた子どもたちも、作ったものを渡すと、笑顔で受け取ってくれた。しかし、僕が苦勞して作ったものを平気で投げ捨ててしまっている子たちを見て、怒りを乗り越えて、あきれてしまった。みんなのために作ったのに……。そのとき、ふと去年の技術の授業を思い出した。自分たちが作った本棚を研磨紙で磨く僕たちに、技術の先生がこんな話をしてくれた。「研磨の作業は地味だけど、ここで気持ちを込めるんだよ。いい作品になれて気持ちで磨いてあげたものは、やっぱり長く使いたくなるよね。」と。児童館での工作は「みんなのために作ったのに……」というのはウソではない。でも「みんなのことを思って主体的に作った」わけではない。だから、「大切に使いたい」と思わせることができなかつたのかなと後悔した。技術の授業で学んだことは、働くって何だろうの答えの一つかなと思う。そのことを思い出してから、児童への接し方を変えてみようと思った。「こっち来て」、「ブロックで遊ぼう」と、同時に声を掛けてきたとき、「後で行くから待っていてね。」と言っても、納得してくれない。そこで、同じ言葉でも視線を合わせて、気持ちを込めて言うようにした。不満そうな顔はするが、静かに待っていてくれるようになった。

帰りの会では紙芝居を読むことになっていた。このときは国語の授業で落語を発表したときのことを思い出した。登場人物になりきって語るためにはどうするか、いろいろと工夫をした。その経験が役に立った。一生懸命に読む僕の方を見つめる子どもたちの視線はすごく恥ずかしくもあり、嬉しくもあった。

三日間の職場体験はあっという間だったが、大切なことを学んだ。それは、主体的に行動するかどうか、仕事への達成感や結果を大きく左右するということだ。そして、主体的に行動するためには、これまでに学習してきた知識が土台になる。苦手だからと何となく取り組んでいる教科でも、社会に出たときに役に立つ場面は多いように思う。身近な施設であった児童館は、人の言葉や行動を参考にし選んだ、自分が本当にやりたい職業だった。そしてスタッフや訪れた保護者の方々のおかげで主体的に働くことができた。これからも、そんな生き方をしていきたい。

僕は今、もう一度部活を始めた。今度は自分の意思で決めた。職場体験を通して、自分の生き方を見つめることができたような気がする。

高等学校の部 最優秀賞

あの看護師さんのような看護師に

愛国高等学校 3年 鯨井 未来

「ママの心の中には忘れられない看護師さんがいるんだ。未来にもそんな看護師さんになって欲しい。」

看護師になりたいと将来の夢を語った私に母が言った言葉です。母の忘れられない看護師さんとは、兄が通院していた病院の小児科の看護師さんのことです。

兄が病気を患っていることが判明したと同時に、私が母のおなかに宿っていることも判明しました。兄の病気は遺伝性の疾患だった為、また同じ病気の子供が生まれたら……と家族全員に反対されたそうです。子供は生みたい、でも生まれてくる子供が病気を患っていたら育てていけないのだろうか、家族全員が反対している中で生むことはできるのだろうかと不安でいっぱいだったそうです。

兄の主治医に相談した時に側にいたのがその看護師さんでした。その時は黙って話を聞いてくださり、後日病院で会う度に励ましの言葉をかけてくださいました。ある時、一冊の本をプレゼントして下さったそうです。それは障害のある子供を育てている芸能人の本でした。その本の最後のページには「生まれくる子はお兄ちゃんやお母さんのことを助けてくれるはず。だから何があっても頑張るって。」と手書きのメッセージがあったそうです。その看護師さんの言葉があったから出産を決意することができたと母は言っていました。その話を聞き、私もその看護師さんのようになりたいと強く思いました。

高校の衛生看護科に進学した私は現在三年生となり、臨地実習が始まりました。実習では実際に患者様を受け持たせて頂きました。学校で習った知識や技術を活用し、患者様の容態に合わせた個別性のある看護を提供しなければなりません。学校で学んだことを実践にどれ程活かされるだろうかという期待と不安が入り混じった気持ちを胸に実習に臨みました。私が受け持たせて頂いたA様は、手術を終えた直後の患者様でした。手術後は創傷の痛みが強く、歩くことさえままなりません。だからといってベットに臥床したままの状態だと、筋力低下をはじめ様々な合併症を招いてしまいます。私は術後の観察項目や援助の際の注意点などを調べ、いかに患者様に安全・安楽なケアを提供できるかを考えました。

実習が始まり数日経ったときの事です。患者様の元へ訪室し、情報収集も兼ねてA様とお話をしていました。情報収集といっても尋問のようなものではなく、会話の中からご家庭での生活などを知るといえるものです。その会話の中でA様は次のようにおっしゃっていました。

「手術の傷の痛みが治ることは頭では分かっているのに、どうしても不安になってしまって駄目ねえ……。」

その言葉を聞いて、私は母の話を思い出しました。温かい言葉で母を支えた看護師さん。その話を聞き、患者様の心に寄り添うような、頼りがいのある看護師になりたいと思った私。今の私はどうでしょう。身体的な問題についてばかり考え、A様の抱く不安など精神的なことについては二の次となっていました。看護の対象は「疾患」ではなく「患者様」です。失敗を避けて物事をうまく進めようとしていた私は、本質を見失っていました。それからは清潔や排泄の援助に加え、A様の不安が無くなるようにとどのような経過で回復していくのかを説明し、A様が順調に回復していることを伝えました。また、少しでも安心できるようにとA様の手を握りながら不安や悩みを傾聴するよう努めました。そしてA様が退院する前日、

「学生さんの温かい手と、温かい言葉と、温かい対応で不安が和らいだの。ありがとう。」とおっしゃっていました。その言葉を聞いて、私はA様の心のケアもすることができたという達成感と、憧れの看護師さんに少し近づけたことへの喜びを感じました。

看護師には知識と技術が必要不可欠です。疾患や症状、検査、治療、それぞれにどのような看護が必要かを知っていなければなりません。その知識や技術で、患者様の身体だけでなく心のケアもすることが看護師には求められます。身体的な看護については勉強すればするほど身につくと思います。しかし、精神的な看護についてはいかに患者様の立場で考えることができるか、患者様の気持ちを理解できるかが重要になると思います。これから沢山のことを学び、経験を積んで心の豊かさを育んでいきたいです。そして将来、母の心の中の看護師さんのようにいつまでも「この看護師さんに出会えて良かった。」と思って頂ける看護師になりたいと思います。

(3) 応募校一覧・応募数の推移・テーマ別応募数等

< 中学校の部 >

| 番号 | 区・市名 | 学校名 | 応募人数 | 入選者数 |
|-----|------|---------|------|------|
| 1 | 中央区 | 晴海中学校 | 4 | 1 |
| 2 | 文京区 | 音羽中学校 | 7 | |
| 3 | 墨田区 | 両国中学校 | 10 | 1 |
| 4 | 大田区 | 大森第一中学校 | 1 | 1 |
| 5 | | 大森第六中学校 | 9 | 1 |
| 6 | 世田谷区 | 松沢中学校 | 7 | |
| 7 | 中野区 | 第七中学校 | 6 | 2 |
| 8 | 北区 | 稲付中学校 | 1 | 1 |
| 9 | 荒川区 | 第七中学校 | 3 | |
| 10 | 練馬区 | 開進第四中学校 | 1 | 1 |
| 11 | 足立区 | 第五中学校 | 1 | |
| 12 | | 第六中学校 | 6 | 3 |
| 13 | 葛飾区 | 亀有中学校 | 2 | |
| 14 | | 堀切中学校 | 10 | 1 |
| 15 | | 一之台中学校 | 6 | |
| 16 | | 葛美中学校 | 2 | |
| 17 | 調布市 | 第四中学校 | 2 | |
| 18 | 私立 | 愛国中学校 | 4 | 1 |
| 合 計 | | | 82 | 13 |

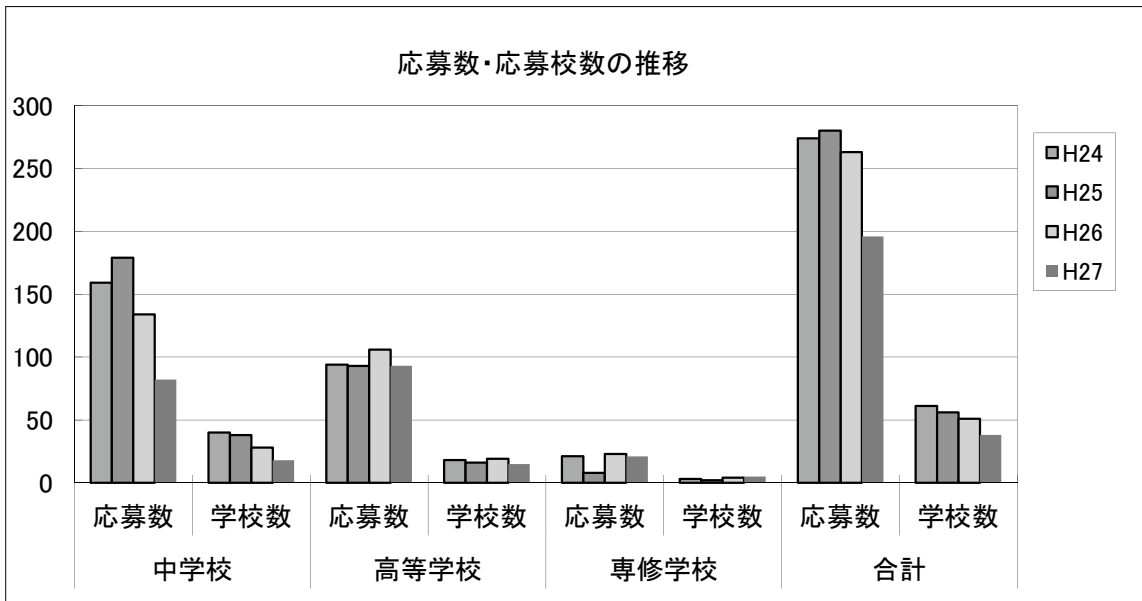
< 高等学校・専修学校の部 >

| 番号 | 学校名 | 応募人数 | 入選者数 |
|-----|---------------|------|------|
| 1 | 東京都立農芸高等学校 | 2 | 2 |
| 2 | 東京都立農業高等学校 | 10 | 1 |
| 3 | 東京都立瑞穂農芸高等学校 | 8 | 4 |
| 4 | 東京都立農産高等学校 | 10 | |
| 5 | 東京都立大島高等学校 | 3 | |
| 6 | 東京都立田無工業高等学校 | 2 | |
| 7 | 東京都立小金井工業高等学校 | 2 | |
| 8 | 東京都立赤羽商業高等学校 | 10 | |
| 9 | 東京都立忍岡高等学校 | 10 | 1 |
| 10 | 東京都立晴海総合高等学校 | 1 | |
| 11 | 愛国高等学校 | 10 | 4 |
| 12 | 岩倉高等学校 | 5 | |
| 13 | 蒲田女子高等学校 | 4 | |
| 14 | 日本工業大学駒場高等学校 | 6 | 1 |
| 15 | 国際理容美容専門学校 | 10 | 1 |
| 小 計 | | 93 | 14 |

| | | | |
|-----|------------------|-----|----|
| 1 | 青山製図専門学校 | 9 | 1 |
| 2 | 中央工学校 | 2 | |
| 3 | 二葉栄養専門学校 | 1 | |
| 4 | 東京エアトラベル・ホテル専門学校 | 8 | 2 |
| 5 | マリールイズ美容専門学校 | 1 | |
| 小 計 | | 21 | 3 |
| 総 計 | | 114 | 17 |

(まとめ)

| 区 分 | 応募校数 | 応募人数 | 入選数 |
|---------|------|------|-----|
| 中 学 校 | 18 | 82 | 13 |
| 高 等 学 校 | 15 | 93 | 14 |
| 専 修 学 校 | 5 | 21 | 3 |
| 総 計 | 38 | 196 | 30 |



| | 中学校 | | 高等学校 | | 専修学校 | | 合計 | |
|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|
| | 応募数 | 学校数 | 応募数 | 学校数 | 応募数 | 学校数 | 応募数 | 学校数 |
| H24 | 159 | 40 | 94 | 18 | 21 | 3 | 274 | 61 |
| H25 | 179 | 38 | 93 | 16 | 8 | 2 | 280 | 56 |
| H26 | 134 | 28 | 106 | 19 | 23 | 4 | 263 | 51 |
| H27 | 82 | 18 | 93 | 15 | 21 | 5 | 196 | 38 |

応募数の変化 (前年度から見た変化)

| 校種 | 平成24年度 (2012) | | 平成25年度 (2013) | | 平成26年度 (2014) | | 平成27年度 (2015) | | 平均 応募数 |
|------|---------------|------|---------------|------|---------------|-------|---------------|-------|-----------|
| | 応募数 | 増減 | 応募数 | 増減 | 応募数 | 増減 | 応募数 | 増減 | |
| 中学校 | 155⇒159 | 3%増 | 159⇒179 | 13%増 | 179⇒134 | 25%減 | 134⇒82 | 39%減 | 139 |
| 高校 | 97⇒94 | 3%減 | 94⇒93 | 1%減 | 93⇒106 | 14%増 | 106⇒93 | 12%減 | 97 |
| 専修学校 | 18⇒21 | 14%増 | 21⇒8 | 62%減 | 8⇒23 | 183%増 | 23⇒21 | 8.7%減 | 18 |
| 総数 | 270⇒274 | 1%増 | 274⇒280 | 2%増 | 280⇒263 | 6%減 | 263⇒196 | 25%減 | 253 |

作文コンクール 入選数の集計

| 校種 | 平成24年度 (2012) | | | 平成25年度 (2013) | | | 平成26年度 (2014) | | | 平成27年度 (2015) | | | 平均% |
|------|---------------|-----|----|---------------|-----|----|---------------|-----|----|---------------|-----|----|-----|
| | 応募数 | 入選数 | % | 応募数 | 入選数 | % | 応募数 | 入選数 | % | 応募数 | 入選数 | % | |
| 中学校 | 159 | 23 | 14 | 179 | 26 | 15 | 134 | 19 | 14 | 82 | 13 | 16 | 15 |
| 高校 | 94 | 15 | 16 | 93 | 14 | 15 | 106 | 16 | 15 | 93 | 14 | 15 | 15 |
| 専修学校 | 21 | 3 | 14 | 8 | 2 | 25 | 23 | 5 | 22 | 21 | 3 | 14 | 19 |
| 総数 | 274 | 41 | 15 | 280 | 42 | 15 | 263 | 40 | 15 | 196 | 30 | 15 | 15 |
| 参考 | 選考要領は15%程度 | | | 選考要領は15%程度 | | | 選考要領は15%程度 | | | 選考要領は15%程度 | | | — |

作文のテーマ別応募数一覧

今年度は募集要項において、従来の2種類の「作文の内容」から一つを選択する方法を改めて、次のように「作文の内容」を一つに統合した。そして「作文の内容」に関するテーマを選択する方法に変更した。

【作文の内容】

次に示す学習を通して体験したことを踏まえて、そこから得た人生観・職業観、自己の将来に対する考え方・心構え等について述べたもの。

- ・中学校における技術・家庭科の学習
- ・高等学校、専修学校、高等専門学校又は短期大学における専門教科の学習
- ・勤労に関わる体験的な学習

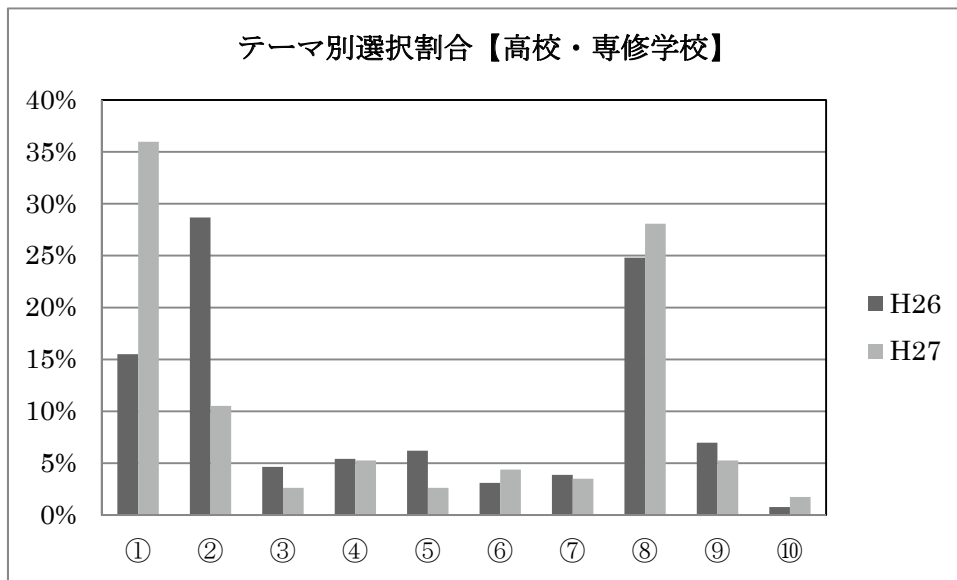
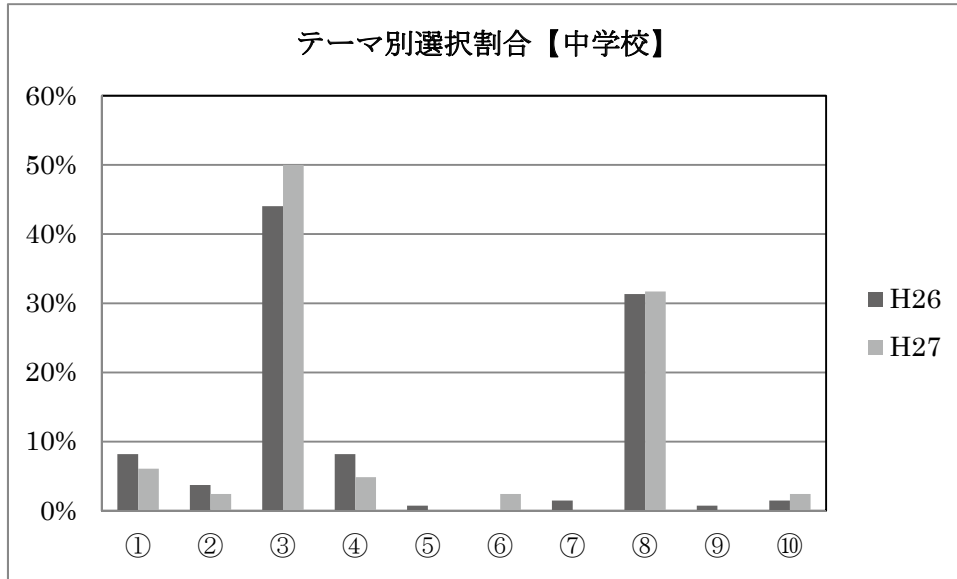
【テーマ】

作文の内容について、次のテーマ番号（①～⑩）から関係するものを選択して応募票の欄に記入する。

- ①授業等を通して学び得たこと
- ②インターンシップ（就業体験）や現場実習等によって学び得たこと
- ③職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと
- ④つくることの喜び、ものづくりの喜び
- ⑤働くことの喜び
- ⑥学習に対する心構え
- ⑦私の生きがい
- ⑧私の進路、将来の夢
- ⑨私の職業観
- ⑩その他

テーマ別選択数とその割合

| テーマ 番号 | 中学校の部 | | | | 高等学校・専修学校の部 | | | |
|-----------|-------|------|-------|------|-------------|------|-------|------|
| | H 2 6 | | H 2 7 | | H 2 6 | | H 2 7 | |
| | 選択数 | 割合 | 選択数 | 割合 | 選択数 | 割合 | 選択数 | 割合 |
| ① | 11 | 8% | 5 | 6% | 20 | 16% | 41 | 36% |
| ② | 5 | 4% | 2 | 2% | 37 | 29% | 12 | 11% |
| ③ | 59 | 44% | 41 | 50% | 6 | 5% | 3 | 3% |
| ④ | 11 | 8% | 4 | 5% | 7 | 5% | 6 | 5% |
| ⑤ | 1 | 1% | 0 | 0% | 8 | 6% | 3 | 3% |
| ⑥ | 0 | 0% | 2 | 2% | 4 | 3% | 5 | 4% |
| ⑦ | 2 | 1% | 0 | 0% | 5 | 4% | 4 | 4% |
| ⑧ | 42 | 31% | 26 | 32% | 32 | 25% | 32 | 28% |
| ⑨ | 1 | 1% | 0 | 0% | 9 | 7% | 6 | 5% |
| ⑩ | 2 | 1% | 2 | 2% | 1 | 1% | 2 | 2% |
| 合計 | 132 | 100% | 82 | 100% | 129 | 100% | 114 | 100% |



中学校の部ではテーマ別選択割合において、昨年度と同様に今年度も「③職場体験やボランティア活動によって学び得たこと」と「⑧私の進路、将来の夢」が全体の大半を占め、テーマ選択の傾向に変わりは見られなかった。

これに対して高等学校・専修学校の部では「⑧私の進路、将来の夢」を選択する生徒の割合には変化が見られないが、「①授業等を通して学び得たこと」と「②インターンシップ（就業体験）や現場実習等によって学び得たこと」を選択した割合が全く逆転した。

昨年度は中学校における「職場体験、ボランティア活動」、高等学校等における「インターンシップ（就業体験）」と体験活動としての類似性を示していたが、今年度は高等学校等では「授業」をテーマとして取り上げる生徒が多かった。

本会の概要

平成 27 年度 事業経過報告

(平成 28 年 2 月 19 日現在)

1 会計監査

4 月 16 日 (木) 午後 3 時から、都庁第二本庁舎 28 階 第三会議室を会場として
常任監事及び監事 2 名による各種帳簿類等の監査を実施 (本会事務局長立会い)

2 理事会

5 月 15 日 (金) 午後 2 時から、全商会館 4 階 401 会議室で開催

3 総会・講演会

6 月 26 日 (金) 午後 2 時から、全商会館 3 階 中会議室で開催

○ 講演 演題 「これからの社会で求められる能力とは—企業が産業教育に期待すること」
講師 株式会社開倫塾取締役社長 林 明夫 氏

※ 総会・講演会の報告は本誌に掲載しております。(本誌 p.51 ~ 59)

4 委員会

(1) 企画推進委員会 6 月 30 日 (火) 都庁第一本庁舎 40 階 40 階会議室で開催

(2) 中学校技術・家庭科教育功労者選考委員会

9 月 17 日 (木) 都庁第一本庁舎 40 階 40 階会議室で開催

(3) 作文選考委員会 6 月 18 日 (木) 全体会 都庁第一本庁舎 40 階 40 階会議室で開催

10 月 27 日 (火) 分科会 (中学校の部)

都庁第一本庁舎 40 階 40 階会議室で開催

10 月 29 日 (木) 分科会 (高等学校・専修学校の部)

都庁第一本庁舎 40 階 40 階会議室で開催

5 振興奨励事業

(1) 教育功労者表彰:御下賜金記念産業教育功労者 (24 名)、中学校技術・家庭科教育功労者 (9 名)、
専修学校産業教育功労者 (2 名) の表彰式を、11 月 17 日 (火) 午後 3 時から都庁第二本庁舎 31 階・
特別会議室 25 において挙行了。本会より表彰状の授与と記念品贈呈を行い、記念撮影をした。

(本誌 p.60 ~ 61)

(2) 研究団体助成:産業教育関係の教育団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、総合学科、
定時制・通信制、中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助
成した。

(3) 作文コンクール:中学生、高校生、高専生、専修学校生、短大生を対象として作文募集を行い、
応募総数は 196 点であった。その中から最優秀賞 2 名 (中学校 1 名、高校 1 名)、優秀賞 6 名 (中
学校 2 名、高校 3 名、専修学校 1 名)、佳作 22 名 (中学校 10 名、高校 10 名、専修学校 2 名) 計
30 名の入選者を選定した。

12 月 15 日 (火) 全商会館 2 階大会議室において「作文コンクール表彰式」を行い、入選者及び
「明日に生きる 第 26 号 —作文コンクール入選作品集—」の表紙デザイン作成者に賞状と賞品を
授与した。また、入選者以外の応募者全員に記念品を贈呈した。

- (4) 卒業生選奨：優良卒業生に対し、各学校の校長を通じ、本会会長及びに公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行った。

○東京都産業教育振興会会長表彰

| | | | | |
|-------|------|--------------|-----|----------|
| 中学校 | 840名 | 中等教育学校（前期課程） | 12名 | |
| 高等学校 | 219名 | 専修学校 | 60名 | |
| 高専・短大 | 14名 | | | 計 1,145名 |

○公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰

| | | | | |
|--------------|--|--|--|--------|
| 高等学校及び高等専門学校 | | | | 計 112名 |
|--------------|--|--|--|--------|

- (5) 後援事業：産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援名義の使用を承認している。本年度は 8 団体、8 事業に対して後援名義の使用を承認した。（本誌 p.61）

6 産学交流事業

産学懇談会を 11 月 6 日（金）（午後 1 時～5 時）に都立六郷工科高等学校を会場として行った。工業学科の授業、施設見学の後、教育内容や産学連携等について話し合い、有意義な懇談会であった。参加者は、会場校校長・教員および産業界・地元商工会議所・公立高校・公立中学校・専修学校の管理職等、教育庁指導部・高校教育課職員等 23 名であった。また、懇談会后、京急線雑色駅近くで自由参加（15 名）による教育懇親会を行った。（本誌 p.62～63）

7 情報連絡事業

- (1) 本年度は、会報「東京の産業と教育」を年 2 回発行、第 148 号を 7 月 31 日に、第 149 号を 12 月 10 日に発行し、全会員及び関係諸機関に配布した。
- (2) 会誌「東京の産業教育」第 53 号を 3 月上旬に発行し、全会員及び関係諸機関に配布する。
- (3) 生徒作文集「明日に生きる」第 26 号は入選作品 30 編を掲載して、3 月上旬に発行し、入選者及び全会員・関係諸機関に配布する。
- (4) 全国産業教育振興連絡会議・全国産業教育振興会連絡協議会役員総会が、5 月 21 日（木）に東京の工業教育会館で開催された。本会より会長、副会長、事務局長、学校代表委員が出席した。
- (5) 文部科学省・三重県教育委員会・公益財団法人産業教育振興中央会他ほか主催の、第 57 回全国産業教育振興大会・第 25 回全国産業教育フェア三重大会が、10 月 31 日（土）～11 月 1 日（日）、三重県伊勢市内の会場を中心に開催され、本会から会長と事務局員及び会員数名が参加した。（本誌 p.48～50）
- (6) 東京都産業教育振興会のホームページを月一回更新した。
- (7) 公益財団法人産業教育振興中央会が実施する「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」に本会から 20 作品の応募があった。また、同会主催の「教員海外産業教育事情研修派遣」、「専門高校教員産業実地研修」に本会から各 2 名が参加した。（本誌 p.42～45）

8 会員の増加運動の推進

企業会員 2、専修学校会員 1、個人会員 1、が新規に加入した。

平成26年度 決算

総収入額 ¥2,891,522
 総支出額 ¥2,491,213
 差引額 ¥400,309

[収入の部]

(単位:円)

| 科 目 | 予算額 | 決算額 | 差額 | 摘 要 |
|------|-----------|-----------|----------|---|
| 会 費 | 2,302,000 | 2,270,000 | △ 32,000 | 1 学校関係 1,480,000 |
| | | | | ① 国公立中学校 410 校 820,000 |
| | | | | ② 都立高校 全 53 校 318,000 定 31 校 93,000 |
| | | | | ③ 私立・国立高校 全 18 校 108,000 定 1 校 3,000 |
| | | | | ④ 高専・短大 3 校 18,000 |
| | | | | ⑤ 専修学校 19 校 20 口 120,000 |
| | | | | 2 産業界関係 790,000 |
| | | | | ① 企 業 47 社 75 口 750,000 |
| | | | | ② 個 人 16 名 20 口 40,000 |
| 利子収入 | 592 | 114 | △ 478 | 預金利息 |
| 雑収入 | 165,000 | 165,000 | 0 | 会誌広告料 |
| 繰越金 | 456,408 | 456,408 | 0 | 前年度繰越 |
| 合 計 | 2,924,000 | 2,891,522 | △ 32,478 | |

[支出の部]

(単位:円)

| 科 目 | 予算額 | 決算額 | 差額 | 摘 要 | |
|------------|------------|-----------|---------|--------------------|-----------------------|
| 事務費 | 410,000 | 350,797 | 59,203 | | |
| 項 目 | 需用費 | 80,000 | 62,560 | 17,440 | 総会資料印刷、消耗品費等、資料管理費 |
| | 役務費 | 300,000 | 288,237 | 11,763 | 配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費 |
| | 旅 費 | 30,000 | 0 | 30,000 | 全国産業教育フェア(宮城大会) |
| 会議費 | 100,000 | 50,060 | 49,940 | 理事会、総会、講演会、各種委員会 | |
| 事業費 | 2,318,000 | 2,025,356 | 292,644 | | |
| 項 目 | 振 興 奨励費 | 960,000 | 819,992 | 140,008 | ①教育功労者表彰 147,644 |
| | | | | | ②研究奨励助成 122,000 |
| | | | | | ③作文表彰等 368,656 |
| | | | | | ④永年会員表彰 6,810 |
| | | | | | ⑤表彰状印刷等 146,340 |
| | | | | | ⑥表彰状筆耕料 28,542 |
| 情 報 連絡費 | 1,348,000 | 1,205,364 | 142,636 | ①会報発行(2回分) 209,952 | |
| | | | | ②会誌52号発行 420,876 | |
| | | | | ③作文集25号発行 377,136 | |
| | | | | ④HP更新費 194,400 | |
| | | | | ⑤全産協参加費 3,000 | |
| | | | | ⑥中央会図書費 0 | |
| 産学交流費 | 10,000 | 0 | 10,000 | 産学懇談会 | |
| 分担金 | 65,000 | 65,000 | 0 | 全国産業教育振興会連絡協議会 | |
| 予備費 | 31,000 | 0 | 31,000 | 緊急対応 | |
| 合 計 | 2,924,000 | 2,491,213 | 432,787 | | |

(注)科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

平成27年度 予算

総収入額 ¥2,764,000

総支出額 ¥2,764,000

差引額 ¥0

[収入の部]

(単位：円)

| 科目 | 本年度 予算額(A) | 前年度 予算額(B) | 増△減 (A-B) | 摘 要 |
|------------------------------------|---------------|---------------|--------------|-------------------------|
| 会 費 | 2,198,000 | 2,302,000 | △ 104,000 | 1 学校関係 1,486,000 |
| | | | | ① 国公立中学校 410校 820,000 |
| | | | | ② 都立高校 全 53校 318,000 |
| | | | | 定 31校 93,000 |
| | | | | ③ 私立・国立高校 全 18校 108,000 |
| | | | | 通 1校 3,000 |
| | | | | ④ 高専・短大 3校 18,000 |
| | | | | ⑤ 専修学校 20校 21口 126,000 |
| | | | | 2 産業界関係 712,000 |
| | | | | ① 企業 44社 68口 680,000 |
| ② 個人 16名 16口 32,000 | | | | |
| 利子収入 691 592 99 預金利息等 | | | | |
| 雑収入 165,000 165,000 0 会誌広告料 | | | | |
| 繰越金 400,309 456,408 △ 56,099 前年度繰越 | | | | |
| 合 計 2,764,000 2,924,000 △ 160,000 | | | | |

[支出の部]

(単位：円)

| 科目 | 本年度 予算額(A) | 前年度 予算額(B) | 増△減 (A-B) | 摘 要 | |
|------------|---------------|---------------|--------------|--------------------|-----------------------|
| 事務費 | 380,000 | 410,000 | △ 30,000 | | |
| 項 目 | 需用費 | 70,000 | 80,000 | △ 10,000 | 総会資料印刷、消耗品費等、資料管理費 |
| | 役務費 | 300,000 | 300,000 | 0 | 配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費 |
| | 旅 費 | 10,000 | 30,000 | △ 20,000 | 全国産業教育フェア（三重大会） |
| 会議費 | 70,000 | 100,000 | △ 30,000 | 理事会、総会、講演会、各種委員会 | |
| 事業費 | 2,228,000 | 2,318,000 | △ 90,000 | | |
| 項 目 | 振 興 奨励費 | 930,000 | 960,000 | △ 30,000 | ①教育功労者表彰 170,000 |
| | | | | | ②研究奨励助成 130,000 |
| | | | | | ③作文表彰等 400,000 |
| | | | | | ④永年会員表彰 30,000 |
| | | | | | ⑤表彰状印刷 160,000 |
| | | | | | ⑥表彰状筆耕料 40,000 |
| 情 報 連絡費 | 1,288,000 | 1,348,000 | △ 60,000 | ①会報発行(2回分) 240,000 | |
| | | | | ②会誌53号発行 440,000 | |
| | | | | ③作文集26号発行 400,000 | |
| | | | | ④HP更新費 200,000 | |
| | | | | ⑤全産協参加費 6,000 | |
| | | | | ⑥中央会図書費 2,000 | |
| 産学 交流費 | 10,000 | 10,000 | 0 | 産学懇談会 | |
| 分担金 | 65,000 | 65,000 | 0 | 全国産業教育振興会連絡協議会 | |
| 予備費 | 21,000 | 31,000 | △ 10,000 | 緊急対応 | |
| 合 計 | 2,764,000 | 2,924,000 | △ 160,000 | | |

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

平成 27 年度 東京都産業教育振興会 役員 (敬称略・順不同)

☆印：新任

平成 27 年 10 月 1 日現在

| | | | |
|----|--------------|--|----------|
| 1 | 会 長 | 日本リスク・データ・バンク株式会社 顧問 (前・株式会社企業再生支援機構 代表取締役社長) | 西 澤 宏 繁 |
| 2 | 副 会 長 | 株式会社カナック企画 相談役 | 金 子 昌 男 |
| 3 | ” | 東京商工会議所理事・産業政策第二部長 | 小 林 治 彦 |
| 4 | ” | ☆ 東京都立葛飾商業高等学校長 | 高 石 公 一 |
| 5 | 理 事 長 | ☆ 東京都教育委員会教育長 | 中 井 敬 三 |
| 6 | 常任理事 | 東京都教育庁都立学校教育部長 | 早 川 剛 生 |
| 7 | ” | 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長 | 山 本 謙 治 |
| 8 | 理 事 | ☆ 公益社団法人経済同友会執行役 | 藤 卷 正 志 |
| 9 | ” | 東京経営者協会常務理事 | 平 井 康 行 |
| 10 | ” | 信川化学工業株式会社取締役社長 | 信 川 仁 道 |
| 11 | ” | 株式会社日刊工業新聞社代表取締役社長 | 井 水 治 博 |
| 12 | ” | 三和電気工業株式会社代表取締役社長 | 石 井 卓 爾 |
| 13 | ” | ☆ 墨田区教育委員会教育長 | 加 藤 裕 之 |
| 14 | ” | 江東区教育委員会教育長 | 岩 佐 哲 男 |
| 15 | ” | 武蔵野市教育委員会教育長 | 宮 崎 活 志 |
| 16 | ” | ☆ 江戸川区教育委員会学務課長 | 住 田 雅 一 |
| 17 | ” | ☆ 港区教育委員会学務課長 | 新 井 樹 夫 |
| 18 | ” | 東京誠心調理師専門学校長 | 廣 瀬 道 |
| 19 | ” | ☆ 学校法人小山学園理事長 | 山 本 匡 |
| 20 | ” | 岩倉高等学校長 | 浅 井 千 英 |
| 21 | ” | 安部学院高等学校長 | 安 部 元 彦 |
| 22 | ” | ☆ 東京都立農芸高等学校長 | 岡 本 利 隆 |
| 23 | ” | ☆ 東京都立六郷工科高等学校長 | 佐々木 哲 |
| 24 | ” | ☆ 東京都立葛飾商業高等学校長 (副会長兼任) | 高 石 公 一 |
| 25 | ” | ☆ 東京都立忍岡高等学校長 | 岡 島 まどか |
| 26 | ” | ☆ 東京都立晴海総合高等学校長 | 長 山 晃 一 |
| 27 | ” | 武蔵野市立第六中学校長 | 田 極 政一郎 |
| 28 | ” | 足立区立青井中学校長 | 池 田 敦 彦 |
| 29 | ” | ☆ 東京都教育庁指導部長 | 伊 東 哲 |
| 30 | ” | ☆ 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長 | 増 田 正 弘 |
| 31 | ” | ☆ 東京都教育庁指導部主任指導主事 (産業教育担当) | 富 川 麗 子 |
| 32 | ” | 東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長 | 白 井 万寿雄 |
| 33 | 理 事・ 事務局長 | 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理 (計画担当) | 有 馬 育 子 |
| 34 | 常任監事 | 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理 (管理係長) | 森 田 明 夫 |
| 35 | 監 事 | 有限会社飯吉製作所代表取締役 | 飯 吉 修一 呂 |
| 36 | ” | 中野区立北中野中学校長 | 関 年 隆 |

平成27年度 東京都産業教育振興会各委員会委員 (敬称略・順不同)

企画推進委員会

| | |
|------------------------|-------|
| 東京都立園芸高等学校長 | 徳田安伸 |
| 東京都立工芸高等学校長 | 鳥屋尾史郎 |
| 東京都立赤羽商業高等学校長 | 昼間一雄 |
| 東京都立足立西高等学校長 | 宮川隆史 |
| 東京都立世田谷総合高等学校長 | 林 努 |
| 東京実業高等学校長 | 知念義裕 |
| 京北学園白山高等学校副校長 | 杉原米和 |
| マリールイズ美容専門学校長 | 江原美規子 |
| 東京都立産業技術高等専門学校長 | 田原正夫 |
| 中央区立銀座中学校長 | 加藤讓司 |
| 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 | 西牧豊実 |
| 東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事 | 吉川泰弘 |

作文選考委員会

| | |
|--------------------------|-------|
| 東京都立農業高等学校長 (高校・専修の部委員長) | 金子勉 |
| 東京都立八王子桑志高等学校長 | 武田尚 |
| 東京都立江東商業高等学校長 | 高橋進 |
| 東京都立鷺宮高等学校長 | 石坂敦子 |
| 東京都立王子総合高等学校長 | 庄司一也 |
| 日本工業大学駒場高等学校教諭 | 竹内真 |
| 安部学院高等学校長 | 安部元彦 |
| 国際理容美容専門学校教頭 | 佐谷肇 |
| 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 | 金澤正美 |
| 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 | 大森晴彦 |
| 葛飾区立葛美中学校長 (中学校の部委員長) | 志村昌孝 |
| 中央区立日本橋中学校長 | 平松功治 |
| 小平市立小平第十五小学校長 | 熊井久乃 |
| 立川市立第七中学校長 | 大神田佳明 |
| 葛飾区立一之台中学校長 | 入山賢一 |
| 足立区立江南中学校長 | 宮下みどり |
| 中野区立第七中学校副校長 | 深井明美 |
| 新宿区立新宿養護中学校長 | 寺島京子 |
| 荒川区立赤土小学校副校長 | 出井玲子 |
| 板橋区立上板橋第三中学校長 | 坂詰悦子 |
| 東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事 | 吉川泰弘 |
| 東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事 | 馬場一平 |

東京都産業教育振興会会則

第1章 総 則

第1条 この会は、東京都産業教育振興会という事務所を東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課（東京都新宿区西新宿 2-8-1）内におく。

第2条 この会は、産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第3条 この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産業教育振興運動の推進に関すること。
- (2) 産業教育の調査研究に関すること。
- (3) 産業教育の普及理解に関すること。
- (4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研究会などの開催並びにこれらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。
- (5) 産業教育振興に関し関係機関への建議に関すること。
- (6) 関係行政機関の施策に協力すること。
- (7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。
- (8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。
- (9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

第2章 会 員

第4条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 団体会員 会社、工場、本都内における学校およびこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの。
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同したもの。
- (3) 名誉会員 産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの。

第3章 役員及び職員

第5条 この会に会長1名、副会長3名、理事25名以上35名以内及び監事3名をおく。

第6条 会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第7条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長及び東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある理事をもって充てる。
3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。
4. 理事は理事会を組織する。
5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

第8条 監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理係長）の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 監事のうち1名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理係長）の職にある監事をもって充てる。
3. 監事は会計を監査し、総会に報告する。

第 9 条 この会の役員任期は 1 年とする。ただし再任を妨げない。

第 10 条 この会に顧問・参与をおくことができる。

2. 顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第 11 条 この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2. 事務局の職員は理事長が任免する。

3. 事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4. 職員は有給とすることができる。

第 4 章 総 会

第 12 条 総会は年 1 回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2. 総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要な会務を審議する。

第 13 条 総会の決議は出席者の過半数によって定める。

第 5 章 部会分会

第 14 条 この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

第 6 章 会 計

第 15 条 この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第 16 条 会費は次の通りとする。

(1) 団体会員

ア 産業界会員 1 口 年額 1 万円

イ 学校会員

○高等学校全日制 1 口 年額 6 千円

○高等専門学校 同

○短期大学 同

○専修学校 同

○高等学校定時制・通信制 1 口 年額 3 千円

○中学校 1 口 年額 2 千円

(2) 個人会員 1 口 年額 2 千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第 17 条 本会の会計年度は毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

第 7 章 支 部

第 18 条 この会に支部をおくことができる。

第 8 章 会則の変更及び解散

第 19 条 この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

第 9 章 付 則

第 20 条 本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和 30 年 5 月 20 日制定

以下の総会で一部改正

昭和 46 年度、52 年度、58 年度、平成 18 年度、20 年度、22 年度、27 年度

産 業 界 会 員 名 簿

50 音順

| | 企業会員名 | 所在地 | 過去5年間の採用実績 (○印) | 企業の概要・特色 |
|----|-------------------|------|--|---|
| 1 | (株)秋月電子通商 | 世田谷区 | — | 電子部品（主としてコンピュータパーツ）、及び制御コンピュータ用応用機器製品の販売、電子工作用各種製品開発セット、製作、直接販売。世界各国の最新機器の日本への紹介。 |
| 2 | 浅地事務所 | 港区 | — | 経営相談、コンサルティング、社外役員の紹介及び仲介他 |
| 3 | (有)飯吉製作所 | 葛飾区 | — | 金属プレス加工業を昭和24年創業、昭和37年会社設立後、永年培った技術を活用し、アルミ押し出し型材のプレス加工金型の設計製作を始め、各種プレス金型分野に進出、傍ら自社ブランドのキャストを開発、製造販売を始め、現在に至る。 |
| 4 | (株)エイコー | 葛飾区 | (○) 高校卒 | 昭和35年にビルメンテナンス業を創業。平成13年、同業他社に先駆けて「ISO9001」を取得。現在、ビルメンテナンスのみに留まらず総合管理業として、躍進しております。 |
| 5 | エス・イー・シーエレベーター(株) | 台東区 | (○) 高校卒 (○) 専門学校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 | エレベーター・エスカレータの保守点検、新設・リニューアル工事 LED・サイネージ・太陽光事業等を行っております。 |
| 6 | (株)エヌ・アール | 千代田区 | — | 不動産の賃貸及び管理業 |
| 7 | (株)カナック企画 | 葛飾区 | (○) 高校卒 (○) 四大卒 (○) 大学院 | 当社は、カーオーディオやカーナビゲーションなどカーAV (Audio Visual) 機器の取付キットビジネスの最前線を常に開拓するリーディングメーカーです。ISO9001・14001を取得して品質を重視し、環境に配慮した商品の開発を行っております。 |
| 8 | 亀有信用金庫 | 葛飾区 | (○) 四大卒 | 信用金庫法に基づく金融業。葛飾区、足立区、三郷市、八潮市を中心に24店舗（1出張所を含む）を構え、お客様との信用・信頼を第一に地域のコミュニティバンクとして活躍しています。 |
| 9 | (株)川邑研究所 | 目黒区 | (○) 専修卒 (○) 四大卒 | 固体被膜潤滑剤の研究・開発・製造・販売 |
| 10 | (株)キクチ | 品川区 | (○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒 | ビルディングオートメーションシステムのメンテナンスサービス。設備管理サービス。電気計装工事。内装・補修工事。省エネソリューションビジネス。 |
| 11 | (株)キトウ | 千代田区 | (○) 四大卒 | 中学校技術・家庭科および美術科・工芸科用教材・教具および機械・工具の専門店。工作機械、工作台等のメンテナンスサービスも充実させています。 |
| 12 | 恵雅堂出版(株) | 新宿区 | (○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 | 卒業アルバム及び一般書籍の出版。 |
| 13 | (株)小葉印刷所 | 中央区 | — | 創業85年の印刷会社。学会誌、書籍の編集・印刷に強み。近年、エディトリアルデザインやWeb用のデータ作成業務に力を入れている。 |
| 14 | 国光施設工業(株) | 大田区 | (○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒 | 創立100周年を目指し、顧客の施設（電気・計装・空調・通信・太陽光発電）を計画段階から建設、メンテ及び施設の取壊しまで長期に渡り担当するエンジニアリング集団です。 |
| 15 | (株)コヤマ服装 | 府中市 | — | 学生服他、製造販売。 |
| 16 | 三和電気計器(株) | 千代田区 | (○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 | 1941年創業、従業員70名の現場用電子計測器の専門メーカーです。高品質のアナログテスタ、デジタルマルチメータ、クランプメータ、絶縁抵抗計などを製造し、日本国内はもとより世界74ヶ国以上に輸出し、SANWAブランド製品として高い信頼を得ています。 |
| 17 | 実教出版(株) | 千代田区 | (○) 四大卒 | 高等学校用教科書・補助教材類・専門図書等の出版・販売および不動産賃貸業を展開。情報・実業科目に強み。情報教育・情報処理検定試験等にも注力している。1941年創業、従業員150名。 |
| 18 | (株)昭和理化 | 豊島区 | (○) 高校卒 | 消防用設備（自動火災報知設備、消火設備、避難設備）、弱電設備（インターホン、ナースコール、テレビ共聴、放送、映像、監視用テレビカメラ、防犯）の施工、保守。多様化社会の昨今、需要多く多岐にわたる技術及び法対応に自信を持って対応致しております。 |
| 19 | (株)鈴木塗装工務店 | 足立区 | (○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 | 全国主要都市に支店・営業所を有し、ビル・マンション・工場等のリニューアル工事を多岐に亘り施工しております。また、安全・環境・美観対策に効果的な工法を積極的に取り入れた施工を行い、ISO9001:2008認証取得により品質管理を徹底しております。 |
| 20 | 青和信用組合 | 葛飾区 | (○) 四大卒 | 「限定地域主義」の方針のもと、葛飾区の八町、江戸川区の二町、足立区の五町に居住される皆様と、地域内で事業を営まれる中小企業、並びにそこに勤務される方々を対象に営業しております。 |
| 21 | 千住金属工業(株) | 足立区 | (○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒 | スマートフォンやコンピュータ等には欠かせない「はんだ」では世界のトップメーカーです。半導体メーカー世界最大手のインテル社より2014年度も最優良納入者として表彰（世界で11社）を受けました。海外拠点も26ヶ所あります。 |

| | 企業会員名 | 所在地 | 過去5年間の採用実績 (○印) | 企業の概要・特色 |
|----|-------------------------|------|-------------------------------------|--|
| 22 | 第一科学(株) | 文京区 | (○) 高校卒 | 高校、大学、官公庁（都内）への理科機器、コンピュータ、教育用機材の販売 |
| 23 | 太平観光(株) | 練馬区 | (○) 専修卒 (○) 四大卒 | 昭和38年創業。学校関係主体の旅行業者。資本金5,000万円、従業員24名（役員4、正社員14、パート6）。年商11億。学校関係70%、海外旅行10%、国内募集旅行10%、個人一般旅行10%。 |
| 24 | (株)竹尾 | 千代田区 | (○) 四大卒 (○) 大学院卒 | 1899年の創業以来、一般印刷用紙、特殊印刷用紙（ファインペーパー）の開発、販売を通して「情報の伝達」「環境の保護」「文化の向上」等の社会貢献に寄与しています。「ファインペーパーの竹尾」と全国に知れ渡り、約350銘柄、8,700種の紙を取り扱い、市場ニーズにあった製品の提供を続けています。 |
| 25 | (株)チバダイス | 葛飾区 | (○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒 | プラスチック歯車の金型や金属の歯車を製作。自社歯車の開発や、研究所ではトライボロジーの研究も行っています。売上げの3割は海外との取引です。 |
| 26 | (株)ツバサ・翼学院グループ | 葛飾区 | (○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒 | 学習障がい、不登校、非行歴のある子など約400名の塾生が在籍（青砥駅前校、高砂校、水元校、東水元）、当塾から都立高、私立中高、大学へと巣立っていきます。児童発達支援・放課後等デイサービスつばさクラブを併設して生活訓練や、社会との関わりに関する訓練も行っています。また全国初のNHK学園高等学校の連携教育相談センターとして高校卒業のサポートを行っています。「学校でさじをなげた子を何とかしてくれる機関」として文部科学省や各地域の教育委員会からの視察、著書やメディアからの取材も多数あります。 |
| 27 | 鉄道機器(株) | 中央区 | (○) 高校卒 (○) 四大卒 | 大正3年創業。昭和62年の国鉄民営化までは日本国有鉄道の指定工場として鉄道分岐器を専門に製作し、民営化後はJR各社をはじめ私鉄各社、各都市交通局等向け分岐器の設計・製作・販売を全国的に展開してきました。近時は特に低騒音化、低振動化、地震対策等、時代のニーズに対応した分岐器の開発・改良に注力しています。 |
| 28 | 東京ガス(株) | 港区 | (○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒 | 当社は、1885年の創立以来、130年の長きにわたり、首都圏を中心とした地域への都市ガス供給を通じて、お客様の豊かな暮らしや産業の発展を支えてまいりました。現在では、1,100万件を超えるお客さまに対し、都市ガスに加え、電力・熱供給などエネルギーまわりの付加価値を提供させていただいております。 |
| 29 | 東京商工会議所 | 千代田区 | (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒 | 東京商工会議所は東京23区内の会員（商工業者）で構成される民間の総合経済団体です。1878年に設立され、商工業の総合的な発達と社会一般の福祉の増進を目的に、経営支援活動、政策活動、地域振興活動の3つを柱として活動しています。 |
| 30 | 東京書籍(株) | 北区 | (○) 四大卒 (○) 大学院卒 | 1909（明治42）年の創業。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指す。小・中・高校教科書発行部数で業界首位。学習教材・指導用教材・学習参考書を発行。デジタル教科書などのデジタルコンテンツの開発・販売、教育総合ポータルサイト運営などのインターネットサービス、学力・体力テストなどの各種評価事業、一般書籍・辞典等の出版に加え、日本語検定関連業務も行っている。 |
| 31 | 東京スマイル農業協同組合 | 葛飾区 | (○) 高校卒 (○) 四大卒 | 東京スマイル農業協同組合（JA東京スマイル）は平成13年、江東三区にある足立農業協同組合、葛飾農業協同組合、江戸川区農業協同組合の3農協が合併し誕生しました。当組合は「地域社会への貢献」と「健全経営」を目指し、お客様のニーズに応えるべく、経営体制の構築を図っており、地域の農業を活性化させることを使命に、営農指導をはじめ、信用（金融）事業、共済（保険）事業、購買事業、販売事業（直売所）、宅地等供給事業、遺言信託事業、利用（葬儀）事業など、さまざまな事業を展開しています。 |
| 32 | 公益社団法人 東京都専修学校各種学校協会 | 渋谷区 | — | 東京都内の専修学校各種学校を代表する唯一の団体です。会員校の連携、協力のもと専修・各種学校教育の改善発展に貢献し、職業教育の振興普及を図ることを目的としています。1961年に設立され2012年に公益法人認定を受けました。会員校数は343校（2015年8月現在） |
| 33 | (株)東京都民銀行 | 港区 | (○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 | 昭和26年の創立以来、金融サービスを通じ、地元東京と中小企業の発展、個人の豊かなライフステージの実現のために、東京の頑張る人を応援している地方銀行です。お客様のニーズに合わせ、各種預金商品、融資商品の提供、近隣地銀の横浜銀行、千葉銀行やセブン銀行等と提携し、首都圏約9,000ヶ所のATMで平日日中に手数料無料でお引き出しできるネットワークの充実を図っています。給料日前に働いた範囲内で給料を受け取れるサービス「前給」（特許取得済）の取扱、ビジネスマッチングのための展示商談会の開催、中国でのビジネス支援をするコンサルティング会社としての上海現地法人「都民銀商務諮詢（上海）有限公司」の設立、M&A等のご相談等様々な金融ビジネス展開を行なっています。また、平成26年10月1日に八千代銀行と共同持株会社「東京TYフィナンシャルグループ」を設立し、経営統合いたしました。「思いを預かる。思いをつなぐ。」をスローガンに、皆さまの思いをお預かりし、たくさんの思いを大切に育み、お客さまの一番そばにいて頼られる金融機関を目指してまいります。 |

| | 企業会員名 | 所在地 | 過去5年間の採用実績 (○印) | 企業の概要・特色 |
|----|----------------|------|---|---|
| 34 | (有)東京プリンテック | 世田谷区 | — | “信頼を紙上に示す”をモットーに、お客様のご要望にきめ細かく対応することを心がけております。名刺・封筒・カタログ・冊子まで、便利な街の印刷屋さんを目指しています。 |
| 35 | (株)日刊工業新聞社 | 中央区 | (○) 四大卒 | 大正4年(1915年)に創刊。わが国唯一の総合産業専門誌の地歩を確立し、モノづくり(製造業関連)に軸足を置きながら、エネルギー、情報通信、運輸、医療、建設・不動産、生活、流通、サービス、金融、地域経済まで産業全般をカバーしています。創刊100周年を迎えた2015年、題字デザインを30年ぶりに変更し、紙面内容も大幅刷新。「モノづくり革新」「ロボット」「防災」「地域創生」の四つをキーワードに、価値あるニュースの発信に日々努めています。 |
| 36 | (株)日本化薬東京 | 足立区 | (○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒 | 当社はインクジェットプリンター用色素、繊維・紙パルプ用染料を製造しております。会社運営のキーワードとして(3つのCSQE)、即ち「コストダウン」「コンプライアンス」「コミュニティ」「セーフティー」「クオリティー」「エコロジー」を掲げ、高機能都市型工場を目指しております。 |
| 37 | 日本自動ドア(株) | 中野区 | (○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 | 日本自動ドアは、人々の暮らしの快適さと利便性の向上を目的とし、高品質の自動ドアエンジンと、迅速で信頼性の高いメンテナンスサービスを提供しています。 |
| 38 | 信川化学工業(株) | 葛飾区 | — | 超大型射出成形機を多数設備し、プラスチック製品を製造する。中型・大型・超大型のプラスチック射出成形品には、JA機器・建築・土木・工業品・自動車・家電・日用品雑貨等幅広い分野の製品がある。射出成形機2,700t、2,200t、1,600t×2、1,200t、850t×4、650t×2他計21台。クレーン20t、10t他。 |
| 39 | (株)箸勝本店 | 千代田区 | — | 明治43年創業の割箸専門店です。国内、海外へ業務用から家庭用、粗品用を含め300種類以上の特徴あるお箸を揃えております。昭和25年より宮内庁に白木のお箸を納め始め、今も園遊会など各種行事に納入しております。 |
| 40 | 日野自動車(株) | 日野市 | (○) 中学卒 | 「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を社会的使命として掲げ、企業活動と地球環境保全との調和を図るとともに、世界各地の経済発展に貢献すべく、安全かつ効率のよい輸送を担うトラック・バスの開発・製造・販売・サービスに努めております。 |
| 41 | ベストワールド(株) | 千代田区 | (○) 四大卒 | 海外視察・研修旅行をお世話して50年。各教職員派遣をはじめ、業界別視察旅行、中学生対象の英語研修・ホームステイ、企業の社員旅行等を多数主催しております。また、オーダーメイド旅行も承ります。 |
| 42 | (株)ムトーエンジニアリング | 世田谷区 | (○) 専修卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒 | 設計製図機器、光学式計測器の開発・製造・販売、リサイクルトナー販売、LED関連製品の製造・販売、オゾン関連商品の販売。CADソフト及びデバイス類の販売。 |
| 43 | 森山精機(株) | 文京区 | (○) 高校卒 (○) 四大卒 | 流体実験装置の製造販売並びに教育機器の販売を50年継続。 |
| 44 | 山崎教育システム(株) | 東村山市 | (○) 専修卒 (○) 四大卒 | 全国中学校、高等学校オリジナル実習教材、教育用ソフトウェア企画、開発、販売(全国代理店500社)。 |
| 45 | ヤマ産業(株) | 文京区 | (○) 高校卒 (○) 四大卒 | 教育備品を販売して50年。学校よりの信用を得て、安定している。 |
| 46 | (株)読売新聞社東京本社 | 千代田区 | (○) 四大卒 (○) 大学院卒 | 「読売新聞」は1874年(明治7年)11月の創刊。全国紙として成長し、1994年に発行1000万部を達成した。発行部数は世界一。2011年に「読売KODOMO新聞」、2014年に「読売中高生新聞」を創刊した。 |

個人会員

1. 堀居 英治 2. 齋藤 武捷 3. 倉持 俊義 4. 梶谷 正義 5. 末松 茂孝 6. 内川 武雄 7. 中村 浩
8. 小島 勤 9. 松井 章朗 10. 花野 耕一 11. 富岡 逸郎 12. 曾根 敏邦 13. 園田 秋雄 14. 森 健
15. 福島 正幸 16. 佐々木健一

学校会員名簿

50音順

| 学校名 | 所在地 | 課程 | 平成28年度募集 学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|--------------|------|----|--|---|
| 私立高校 | | | | |
| 1 爱国高等学校 | 江戸川区 | 全 | 普通科 (240) 商業科 (120) 家政科 (80) 衛生看護科 (40) 衛生看護専攻科 (40) | 昭和13年創立以来、「親切正直」の校訓の下で女子教育を行っている。平成22年春に新学生寮落成。普通科はA(一般教養)・B(進学)の2コースが、商業科は「会計」「情報処理」の2コースがあり、どちらも公認資格をできる限り取得させる。卒業時に、家政科は調理師資格を、衛生看護科は准看護師受験資格を、衛生看護専攻科(上級2年課程)は看護師受験資格を取得する。上級学校には、上記衛生看護専攻科の他に、大学(人間文化学部)・短期大学(家政科)・保育専門学校(幼児教育科)がある。 |
| 2 安部学院高等学校 | 北区 | 全 | 商業科 (200) | 1940年(昭和15年)に創立して以来、一貫して「商業科のみの女子高校」として歩み続け、昨年、満75年を迎えました。在校生には、「5つの挨拶」「資格取得」に力を入れて指導しています。2年次よりコース制になり、簿記1級の取得を目指す「会計コース」とパソコン等の実務的な授業を多く履修する「ビジネスコース」の2コースに分かれて授業を行っています。卒業後の進路は、就職希望者よりも進学希望者が多く占めています。 |
| 3 岩倉高等学校 | 台東区 | 全 | 普通科 (300) 運輸科 (150) | 我が国最初の鉄道学校として明治30年に創立。多くの卒業生が鉄道・運輸業界で活躍している。また、近年、就職のみならず大学進学希望者が増加していることに伴い、普通科にS特コースを設置するなど、進学教育にも注力している。平成26年度の入学生から「男女共学化」、「普通科・運輸科の2科システム」を実施し、学校の変革を進めている。平成21年4月に完成した新校舎など充実した環境の中で、特色ある教育内容や新コースの設置等、生徒の夢を具現化するカリキュラムで学力の向上に取り組んでいる。 |
| 4 大森学園高等学校 | 大田区 | 全 | 普通科 (240) 特進コース (40) 進学コース (80) 普通コース (120) 工業科 (120) 機械技術コース 電気技術コース 情報技術技術コース | 【創立】昭和14年大森地区の中小機械工場主により大森機械工業徒弟学校を創立。 【学校改革】創立70周年(平成21)にむけて「学校改革」始まる。平成16年、新校舎建築に着手。平成17年、学校名を「大森工業高校」から「大森学園高校」に変更。同時に普通科を新設し、第1期生をむかえる。平成19年校舎建築完了、普通科を共学化。平成21年4月、創立70周年記念式典を挙行了た。 |
| 5 科学技術学園高等学校 | 世田谷区 | 定通 | 普通科 (160) 普通科 (2,750) 電気科 (900) 機械科 (600) | 昭和39年に広域通信制工業高等学校として創立し、昭和50年普通科設置、昭和52年現行名に変更する。昭和53年昼間定時制課程を設置し、単位制総合高等学校として様々な生徒のニーズに対応できる教育環境を整えている。通信制課程では集団(企業・専修学校等)を対象とした技能連携コース(全国に28校)と個人を対象とした単位制コースを持ち、単位制コースには「週4日通学コース」、週に1~3日通う「登校コース」、インターネットで学習する「eラーニングコース」と生徒個々の学習環境に合わせたコースを設置している。昼間定時制課程(男子のみ募集)は、生徒が積極的に学習に取り組むよう、ICT機器を導入した参加型授業を実践している。また2~3年次には総合選択コース制、修学旅行をはじめとした学校行事にも大幅に選択制を取り入れ、生徒の多様化に対応している。 |
| 6 蒲田女子高等学校 | 大田区 | 全 | 普通科: 幼児教育・保育コース (120) キャリアデザインコース (130) | 昭和16年、漢学者・簡野道明の遺志により、蒲田女子高等学校として設立。「子どもの教育に最も大切なのは母親であり、その母親となる女性の教育こそ教育の根本」「人間生活を律する根本は道徳なり」との先生の教育理念に基づき、女性としての徳育を在学中に身につけさせる指導をしています。27年度から養成校でしか行えない実技科目を導入した幼児教育・保育コースと、色々なことを体験し、人生設計を考えるキャリアデザインコースに分かれての募集になります。 |
| 7 京華商業高等学校 | 文京区 | 全 | 商業科 (150) | 生徒一人ひとりの個性を伸ばすオンリーワン教育を推進。資格検定試験合格にむけたきめこまかい指導を行っている。また、はやくからインターンシップをとり入れるなど、キャリア教育にも力を入れている。 |
| 8 京北学園白山高等学校 | 文京区 | 全 | 募集停止 | 人間力を①自己学習能力②コミュニケーション能力③プレゼンテーション能力の3つの力と定義し、その育成に努力する。 現役大学進学率7割の新しいスタイルの商業科進学校 |
| 9 昭和第一学園高等学校 | 立川市 | 全 | 普通科 (336) 工学科 (240) 総合工学コース 機械コース 電子情報コース 建築デザインコース | 普通科:特進コース、総合進学コース(2年次より文・理選抜)。 工学科:1年次共通の科目を学ぶ。2年次から4つのコースに分かれる。 総合工学コース、(進学向けのコース)、機械コース、電子情報コース、 建築デザインコースで専門科目を学ぶ。 |
| 10 昭和鉄道高等学校 | 豊島区 | 全 | 鉄道科 (215) | 校名に「鉄道」を冠した、日本で唯一の高校である。昭和3年(1928年)創立、以来一貫して、鉄道・交通を中心とする産業教育をすすめて、現在まで19,000名以上の卒業生を鉄道界を中心に送り出している。社会情勢に鑑み、平成16年(2004年)に男女共学とした。鉄道科のみを設置している。 |
| 11 大成高等学校 | 三鷹市 | 全 | 普通科: 特別進学コース (75) 文理進学コース (290) 情報進学コース (40) | 校名の由来である「大器晩成」を教育理念とし、生徒の能力が大きく開花するように、学力や人間力を身につけさせます。特別進学コースはもちろん文理コースでの進学実績も向上しています。また、情報コースでは全員が情報処理検定1級に合格することをめざして専門技術と理論の習得に力を入れています。 |

| | 学校名 | 所在地 | 課程 | 平成 28 年度 募集 学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|------------------|------|----|---|---|
| 12 | 中央学院大学 中央高等学校 | 江東区 | 全 | 普通科 (35) 商業科 (65) | 少人数クラスをベースにしなが、生徒一人ひとりの将来を考えた教育を展開しています。中央学院大学への優先入学とともに、幅広い進路に配慮した指導に特色があります。 |
| 13 | 東京学園 高等学校 | 目黒区 | 全 | 募集停止 | 男子に特化した多様な教育によって、生徒一人ひとりの強みを引き出し、自信を持って生きていける知力・気力・体力と他者を尊重する心を養い、優れた学力と逞しい人間力を育成します。また、平成 18 年には目黒区と協定を結び、本校の敷地内に目黒区の災害用防災倉庫を設置し、地域の方々にも貢献する事が出来る態勢を整えています。 |
| 14 | 東京実業 高等学校 | 大田区 | 全 | 機械科 (135) 電気科： 電機コース (45) ゲーム IT コース (45) 普通科： ビジネスコース (180) 文理科コース (90) | 全科男女共学。週 5 日制。総合学園高校として各科、各コースの生徒は目的を持って学校生活を送ります。自立できる人間を育成するために、3 年間で各種の資格取得に力を注ぎ、進路の決定に役立てます。また、転科試験で学校生活を見直す機会を持ち、国際理解教育の一環として、米国コロラド州ボルダー地区の公立高校との間に交換留学制度があります。電気科ゲーム IT コースは平成 22 年度より、文理科コースと共に土曜日は特別授業。 |
| 15 | 日本工業大学 駒場高等学校 | 目黒区 | 全 | 普通科： 特進コース (20) 理数特進コース (20) 総合進学コース (70) 工業科： 理数工学科 (120) 国際工学科 (30) 機械科 (80) 建築科 (40) 電子情報システム科 (40) | 生徒一人ひとりの希望進路の実現を目指す普通科 (3 コース) と永年培ってきた工業技術教育を大切に、多様な進路選択ができる工業科 (5 学科) を持つ創立 109 年の学園です。まわりの人にはできる限り優しく接することができる「優しい心」と将来どんなに苦しく辛い場面に出会っても決してくじけない、しなやかな強さ「勁い心」を持つ生徒になってほしいと願い、教育運営の基本である「優しく勁い心を育てる」姿勢を大切にしています。また、カナダ・アルバータ州のクロズネストパスにある本校のカナダキャンパスは、中高の短期留学と高校卒業後の州立大学留学の拠点となっています。 |
| 16 | 八王子実践 高等学校 | 八王子市 | 全 | 普通科： 特進コース (40) 文理科コース (160) 普通科コース (280) 調理科 (80) | 建学の精神は「自重・自愛・自制・自立」、そして伝統的教育理念である「実践」を根幹として「知育・徳育・体育」の調和のとれた全人教育を目標に 89 年の歴史を歩んでいます。普通科は特進コース、文理科コース、普通科コースの 3 コースを設け、進学や就職など、多様な進路選択ができるよう学習指導を行っています。一方調理科は、和・洋・中・製菓の全般の知識と技術を習得。卒業と同時に調理師の資格が習得でき、食育インストラクター、栄養士、管理栄養士といった資格への道も開かれています。 |
| 17 | 朋優学院 高等学校 | 品川区 | 全 | 普通科・ 特進コース (240) 進学コース (120) 国公立コース (35) | 専門コースは募集を停止しております。 |
| 18 | 村田女子 高等学校 | 文京区 | 全 | 普通科 (80) 商業科 (82) | 夢を叶え素敵な未来を拓くために、目的を持って現役進学を目指す普通科と現代社会に即した知識と技術を磨き、社会で活躍するステキな女性を目指す商業科。村田は二科五コースで生徒一人ひとりのキャリアデザインを支援しています。その柱になるのが「資格取得」教育。中学までは気がつかなかった自分の可能性を、「検定試験」への挑戦で引き出し、自信につなげていきます。 |
| 19 | 日野工業 高等学園 | 日野市 | 通 | (40) | 日野自動車株式会社にある、「モノづくり」のリーダの育成を目指す企業内高校です。授業、実習、クラブ活動、様々な学校行事があります。知識・技能だけでなく、心の育成にも重点をおき、心技体のバランスのとれた人材を育成し、卒業後は各職場で活躍しています。 |

都立高校

▽農業に関する学科

| | | | | | |
|---|--------------|------|---|--|--|
| 1 | 都立園芸 高等学校 | 世田谷区 | 全 | 園芸科 (70) 食品科 (35) 動物科 (35) | 平成 20 年度に 100 周年を迎えた全国農業系高校の中心校である。100 年前に日本からの桜寄贈のお礼に米国から頂いた「百年ハナミズキ」が我が国で唯一現存しており、27 年 4 月にはケネディ 米国大使、農林水産副大臣、都教育長が来校され記念式典を行った。さらに、三代将軍徳川家光公遺愛の松の盆栽など歴史的財産が校内随所にある。園芸科、食品科、動物科があり生徒の多様な進路に込んでいる。定時制園芸科では大人を対象とした園芸技術専修生制度もあり、夜間 2 年間の専門学習で卒業ができる。 |
| | | | 定 | 園芸科 (30) | |
| 2 | 都立農業 高等学校 | 府中市 | 全 | 都市園芸科 (35) 緑地計画科 (35) 食品科学科 (35) 服飾科 (35) 食物科 (35) | 1909 年 (明治 42 年) に創立された多摩地区で長い伝統と歴史をもつ専門高校です。107 年にわたり常に社会の変化に対応した先進的な取組を行い、農業及び家庭に関する専門教育とそれを支える普通教育を両輪として 21 世紀を担う人材を育成しています。全日制では、「自分の未来は自分でつくる」をテーマに、①手の仕事の面白さ、②本物体験で心を豊かに、③普通教科の学習は一生の基礎、④チームワークで協調性、⑤発表力や表現力を磨く、⑥プロ講師の授業という 6 つの学びの特色を生かして、本校でしか学べない学習内容を生徒が熱心に取り組んでいます。定時制では、教育目標「他者への思いやりをもって、未来を切り拓く人間の育成」を達成するため、普通科及び農業科としての特色ある教育活動を展開し、きめ細かい指導を通じて生徒一人一人の進路希望の実現を目指しています。 |
| | | | 定 | 食品化学科 (30) | |
| 3 | 都立農芸 高等学校 | 杉並区 | 全 | 園芸科学科 (35) 食品科学科 (70) 緑地環境科 (35) | 創立 1900 年 (明治 33 年) の歴史と伝統のある専門高校である。全日制に園芸科学科、食品科学科、緑地環境科の 3 学科 4 学級、定時制に農芸科 1 学科を設置している。都心にありながらも緑に囲まれた校舎、実習棟や農場などあわせて 73,304m という広い敷地を持ち最新の施設や設備が導入されている。JR「阿佐ヶ谷」駅前の花壇作り、小学生を本校に招いての豆腐作り教室等、地域貢献活動を推進し、学校の教育機能を積極的に地域社会に提供している。また、平成 18 年度のエコアクション 21 (環境省認証) 取得を契機に、環境にやさしい農業高校を目指している。なお、都立高校唯一の馬術部を設置し馬場馬術競技の練習に励んでいる。 |
| | | | 定 | 農芸科 (30) | |

| | 学校名 | 所在地 | 課程 | 平成28年度募集 学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|---|----------------|-------------|----|--|---|
| 4 | 都立農産 高等学校 | 葛飾区 | 全 | 園芸デザイン科 (70) 食品科 (70) | 東京都東部にある唯一の農業高校で、「食と緑と農を創造する学校」として地域に根ざした教育活動が行われている。 全日制では、2学科4類型を設置している。園芸デザイン科では、草花や野菜の栽培、バイオテクノロジー、フラワーデザイン、造園など、食品科では食品の原材料の栽培から加工・流通、食品化学実験、食品デザインまで幅広く関連分野を体験・体感しながら学んでいる。 定時制は、農産科として園芸系と食品系の両方を学ぶことができる農業高校として、生徒は落ち着いた環境の中で生き生きと学習や部活動に取り組んでいる。 全日制・定時制ともに、キャリア教育の充実や農業の6次産業化を踏まえた実践的な経営学習、学校農業クラブ活動の充実、FFJ検定の実施、アグリマイスター顕彰制度への取り組みなどをとおして自己の可能性を伸ばさせるとともに、農業関連分野を中心とした生徒の第一志望の実現を図る教育活動を展開している。 |
| | | | 定 | 農産科 (30) | |
| 5 | 都立瑞穂農芸 高等学校 | 西多摩郡 瑞穂町 | 全 | 畜産科学科 (35) 園芸科学科 (35) 食品科 (35) 生活デザイン科 (70) | 都内唯一の畜産科学科があり、大動物の飼育・管理が学習できる。豊かな自然環境、恵まれた施設・設備の下、充実した専門科目の学習に取り組める。日本獣医生命科学大学と連携協定を結び大学の施設を使用しての学習が体験できる。さらに、キャリア教育の一環として地域と連携した教育活動を推進し、望ましい職業観や豊かな社会性を育てており、進学から就職まで幅広い進路希望に対応している。 定時制は規模が小さいが、きめ細かな指導が行われ、園芸、食品、畜産の幅広い分野について学習でき、大変落ち着いた学習環境である。 |
| | | | 定 | 併合科(普通・農業) (30) | |

▽工業に関する学科

| | | | | | |
|----|-----------------|------|---|--|---|
| 6 | 都立足立工業 高等学校 | 足立区 | 全 | 総合技術科 (175) | 機械・電気系の総合技術科。1年は機械、電気の基礎を共通履修、2年から機械系か電気系を選択、選択科目で得意分野を伸ばす。第二種電気工事士を中心に資格取得に力を入れている。地域密着の工業高校として、2学年全員のインターンシップ実施や小中学校や地域連携を積極的に推進している。施設・設備拠点校に指定され、施設・設備が充実している。 |
| 7 | 都立荒川工業 高等学校 | 荒川区 | 全 | 電気科 (70) 電子科 (35) 情報技術科 (70) | 本校は、平成25年度創立全日制50周年、定時制65周年を迎え、歴史と伝統のある都内唯一の電気系専門高校である。 全日制では「ものづくり」に関する技術・技能を身につけさせる。電気系専門技術者に必要な基礎的な学力をつけさせる。社会で役立つ資格(第2種電気工事士等)を取得させ生徒に自信をつけさせ、より確かな進路実現を図る。特に、第2種電気工事士の合格者は、平成27年度58名の実績を誇る。 定時制では基礎・基本の徹底を図り、分かる授業を行い、分かるまで教える。良いことを誉め、悪いことは正す。資格取得や検定合格で自信と意欲を育てる。 |
| | | | 定 | 電気・電子科 (30) | |
| 8 | 都立葛西工業 高等学校 | 江戸川区 | 全 | 機械科 (70) 電子科 (35) 建築科 (70) | 都教委指定のデュアルシステム導入校(平成23年度入学生～) 施設が充実しており、設備拠点校実習を行なっている。 地域産業界、小中学校と連携し、ものづくりを担う人材を育成。 地域と協働し、実践力ある生徒を育てる。 |
| 9 | 都立北豊島工業 高等学校 | 板橋区 | 全 | 総合技術科 (175) | 全日制課程 大正9年に創立され、現在95年の歴史を刻みつつ、社会に有用な人材育成を図り、約2万名の卒業生を社会に送り出している。機械・電気系の総合技術科として工業に関する技術・技能を広く学び、社会に貢献できる人材育成に取り組み、電気工事士、危険物取扱者、工事担任者などの社会で役立つ資格取得に力を入れ、確かな進路実現を図り、就職決定100%を保持している。東京都教育委員会より、デュアルシステム推進校として指定を受け、企業と高校が連携した新しい職業教育システムであるデュアルシステムを取り入れた教育課程を編成して、日本のものづくりの後継者の育成を目指している。また、工業実習の設備拠点校としての指定を受け、施設設備が整え、近隣の工業高校と連携し、ものづくりの技術・技能の習得と継承に力を入れている。 定時制課程 機械科の単科の定時制課程である。各学年一学級30人定員で、ものづくりの加工技術・技能を習得し、確かな進路実現を目指し、人材育成に取り組んでいる。就職希望者の内定率100%を維持している。部活動を通じて心身ともに成長を促し、資格取得指導の充実により、より確かな進路実現への力を培っている |
| | | | 定 | 機械科 (30) | |
| 10 | 都立蔵前工業 高等学校 | 台東区 | 全 | 機械科 (70) 建築科 (35) 電気科 (35) 設備工業科 (35) | ○全日制 東京都教育委員会よりものづくり人材育成教育プログラムに関わる「特定分野推進校」の指定を受け、都立工業高校を牽引する役割を担い、スペシャリストの育成を目指したものづくり人材の育成教育を実践している。 進路指導では、理工系大学への進学を視野に入れた指導や補習・補講を行いながら目標を持たせると共に一人ひとりの能力や希望に応じた進学活動を実践している。就職では、伝統校として安定した求人数があり、生徒の将来を見据えた就職活動を実践している。 創立90年を超える伝統に裏打ちされた教育活動により、多くの卒業生が産業界で活躍し、日本の工業界をリードしている。 ○定時制 都内の定時制課程で唯一「建築と設備工業」の専門を学べる。 学修方法によっては、3年間で卒業も可能。 学外単位の履修も弾力的に認定し、学ぶ側に立った教育活動を展開している。 |
| | | | 定 | 建築工学科 (30) | |
| 11 | 都立工芸 高等学校 | 文京区 | 全 | マシクラフト科 (35) アートクラフト科 (35) インテリア科 (35) デザイン科 (35) グラフィックアーツ科(35) | 本校は、100年を超える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。Only One のものづくりを通して個性と創造力を伸ばし、心豊かな人間性のある生徒を育てています。 開校以来2万人を超える卒業生の中には、人間国宝の方・文化勲章受章者も多く、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアなど社会で幅広く活躍しています。 また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種の競技で常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の実力、教育実践は全国のトップクラスで内外から高く評価されています。 卒業後の進路は、進学の割合が多く美術系の国公私立大学を中心に幅広い分野へ進学しています。 |
| | | | 定 | マシクラフト科 (30) アートクラフト科 (30) インテリア科 (30) グラフィックアーツ科(30) | |

| | 学校名 | 所在地 | 課程 | 平成 28 年度 募集 学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|-----------------|------|----|---|---|
| 12 | 都立小金井工業 高等学校 | 小金井市 | 定 | 機械科 (60) 電気科・電子科 (30) | 平成 22 年 3 月に全日課程が閉課程となり、平成 22 年度から定時制単独校になる。施設・設備が充実していて、多摩地区唯一の定時制工業高校である。校舎の改築・改修工事が進み、新校舎が平成 23 年 8 月に完成した。平成 23 年 9 月から座学の授業は新校舎で、実習の授業などは改修した新しい実験・実習棟で行っている。 |
| 13 | 都立杉並工業 高等学校 | 杉並区 | 全 | 機械科 (70) 電子科 (70) 理工環境科 (35) | 本校は、昭和 38 年に開校し、教育目標として (1) 勤労と責任を重んじる誠実な人をつくる、(2) 個性を伸ばし、自主的にして協調性のある人をつくる、(3) 豊かな教養を備えた地球環境に配慮できる技術者をつくる、ことを掲げています。機械科、電子科、理工環境科の 3 つの科をもち、都立高校で初めて ISO14001 認証を取得し、環境教育に積極的に取り組んでいます。東京都 No.1 の資格取得を目指して朝講習などや期末考査後に様々な講習会を行い、生徒を全面的に応援しています。また、部活動を通じて、顧問や友人同士の絆を深める取組みや近隣の小中学校生に対してものづくり体験の機会を提供するなど、地域との連携を通じて多くのことを学ばせています。 |
| 14 | 都立墨田工業 高等学校 | 江東区 | 全 | 機械科 (35) 自動車科 (35) 電気科 (70) 建築科 (35) | 全日制は、4 学科を持つ工業の専門高校として、自治・勤労・敬愛を校訓に掲げ、技術力を身につけた社会に役立つ人材の育成を行っている。資格取得や検定合格など実践的な教育に取り組む、進路希望達成率 100% を常に維持している。今年度 116 周年を迎える歴史と伝統を持ち、多くの卒業生が産業界をはじめ各方面で活躍している。定時制においても全日制と同じく進路希望達成率 100% を実現しており、生徒主体の実践的教育に取り組んでいる。 |
| | | | 定 | 総合技術科 (30) | |
| 15 | 都立総合工科 高等学校 | 世田谷区 | 全 | 機械・自動車科 (70) 電気・情報デザイン科 (70) 建築・都市工学科 (70) | 平成 18 年 4 月に世田谷工業高校と小石川工業高校を発展的に統合して開校した。全日制では、理工系大学進学に対応した教育課程を編成するとともに、約 40 科目の自由選択科目を設定することで、さまざまな進路希望に対応している。海外修学旅行も含めた国際理解教育の推進と、部活動の振興を図っている。定時制では、資格取得を中心に、2 年次から自動車、電気・メカトロ、建築コースの 3 コースが選択できる教育課程を編成している。また、高等学校卒業程度認定試験、技能審査及び都立砂川高校通信制課程併修等の学校外における学修により、3 年間での卒業が可能な三修制を実施している。 |
| | | | 定 | 総合技術科 (60) | |
| 16 | 都立田無工業 高等学校 | 西東京市 | 全 | 機械科 (70) 建築科 (70) 都市工学科 (35) | 本校は、機械科、建築科、都市工学科の三科からなる工業高校である。都市工学科は、全国でも数少ない学科であり、建築科は多摩地区の工業高校では唯一本校に設置されている。「地域との連携」や「資格取得」に重点を置いた教育を推進しており、どの学科も地域に根差した技術者の育成を目標としている。また、デュアルシステムを導入し、三年間を通してキャリア教育を推進している。 |
| 17 | 都立多摩工業 高等学校 | 福生市 | 全 | 機械科 (70) 電気科 (70) 環境化学科 (35) | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 38 年、西多摩地域に唯一の工業高校として開校、平成 24 年度に 50 周年を迎えた。平成 13 年度、時代とともに進展する生徒の多様化、産業社会のニーズ等に対応するため、工業化学科を都立高校で唯一の環境化学科に学科改編した。 さらに、地域産業を担う人材の育成、生徒個々の進路希望に応えるために、学科ごとに類型コース制を導入し、合わせて教育課程の改編を行った。 全校をあげての環境教育、環境活動が環境省の提唱する「エコアクション 21 環境経営システム・環境活動ガイドライン」の要求事項に適合するという事で平成 19 年 3 月「エコアクション 21」に認証・登録された。 平成 22 年度～「設備実習拠点校」 平成 23 年度～平成 25 年度「言語能力向上推進指定校」 平成 23 年度～「デュアルシステム」導入校 平成 24 年度「防災教育推進指定校」「安全教育推進指定校」 平成 25 年度～「日本史必修指定校」 平成 26 年度～「ものづくり人材育成プログラム特別分野推進校」 平成 27 年度～「部活動推進指定校」「オリンピック・パラリンピック教育推進校」「人間としての在り方生き方に関する新教科先行実施校」 |
| 18 | 都立中野工業 高等学校 | 中野区 | 全 | 総合技術科 (175) | 本校では、総合技術科の特色を生かして、一人一人の自己実現を応援する教育を行っている。また、都内で、唯一食品工業が学べる工業高校である。1 学年で、工業の基礎を学習しながら、自分が目指す専門分野を探索する。全日制課程では、2 学年から、機械類型、食品工業類型、工業化学類型の係わる各コースを選択し、専門性を深める。定時制課程では、2 学年から、機械類型、食品工業類型のいずれかを選択し、専門性を深める。 |
| | | | 定 | 総合技術科 (30) | |
| 19 | 都立練馬工業 高等学校 | 練馬区 | 全 | キャリア技術科 (175) | 平成 18 年度から、生徒の「やる気」を応援し頑張りをもつ学校として、工業高校初のエンカレッジスクール「キャリア技術科」をスタートさせました。基礎の基礎から学び直すことができ、工業分野の幅広い知識・技術を体験的に学びながら適性を見つけ、それを将来の進路選択に生かせる学校です。就業体験や資格取得にも力を入れ、3 年生では 6 系列（機械加工技術、オートメカニック技術、設備技術、コンピュータ技術、デザイン・DTP 技術、インテリア技術）から選択して、より専門的な学習を行います。 |
| 20 | 都立府中工業 高等学校 | 府中市 | 全 | 機械科 (35) 電気科 (70) 情報技術科 (35) 工業技術科 (35) | <ul style="list-style-type: none"> 「ものづくり人材育成プログラム」の指定を受け旋盤技能士、電気工事士などの各種資格取得に向けた指導に積極的に取り組んでいる。 インターハイ出場をはたした陸上部をはじめ、野球部、バスケット部、軽音楽部、自動車整備部など活発に活動し、実績をあげている。 |
| 21 | 都立本所工業 高等学校 | 葛飾区 | 定 | 総合技術科 (30) | <ul style="list-style-type: none"> 少人数指導の特色を生かし、きめの細かい・わかりやすい指導を推進している。 生涯にわたるキャリア設計に基づいた進路実現が図れるよう支援する。そのための技能・資格取得の指導が充実している。 平成 18 年に新校舎が落成。平成 19 年度にグラウンド、人工芝テニスコートも含め、全面改修工事完了。 |

| | 学校名 | 所在地 | 課程 | 平成28年度募集 学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|----------------|-----|----|----------------------|--|
| 22 | 都立町田工業 高等学校 | 町田市 | 全 | 総合情報科 (175) | 総合情報科は情報システム、アプリケーション、情報デザイン、電気システム、機械システムの5つの系列からなります。1年次では工業の基礎科目や実習を全員が同じ内容を学習をします。生徒は1年次の総合的な工業科目の学習、それぞれの興味・関心、進路希望に基づき5系列から系列を選択し、2年次から系列別のクラスに分かれて専門性を深める学習をします。普通・専門科目の選択科目も数多く設置しており、充実した施設・設備の下、生徒は自分に適した学習を進めて、「力をつけて卒業」を目指しています。 |

▽工業に関する学科 (単位制)

| | | | | | |
|----|----------------|-----|---|---|--|
| 23 | 都立六郷工科 高等学校 | 大田区 | 全 | プロダクト工学科 (70) オートモビル工学科 (35) システム工学科 (35) デザイン工学科 (35) デュアルシステム科 (35) | 平成16年4月に開校した、都立高校で初めての単位制・二期制の工業系高校である。東京都初の東京版デュアルシステムを持ち、夜間定時制課程も設置されている。全日制課程には、機械系のプロダクト工学科、自動車3級整備士資格取得可能なオートモビル工学科、電気電子情報系のシステム工学科、コンピューターグラフィックスとプロダクトデザインが学べるデザイン工学科の4科がある。各科ともに、一年次から「工業技術基礎」を中心に工業分野の基礎・基本を学べる。普通科目も1学年と2学年の英語・数学を習熟度別クラス編成にしたり、進学に必要な自由選択科目を用意している。デュアルシステム科は、将来のものづくりを担う人材育成のために設置された全国で唯一のデュアルシステム専門の科である。地域の企業と学校で連携して生徒に技術指導する。企業での長期就業体験を最大20単位卒業の単位として認めている。定時制には、単位制と3修制を取り入れた生産工学科と普通科の2科がある。 |
| | | | 定 | 普通科 1学年 (30) 生産工学科 1学年 (30) | |

▽科学技術科

| | | | | | |
|----|------------------|------|---|-------------|---|
| 24 | 都立科学技術 高等学校 | 江東区 | 全 | 科学技術科 (210) | 都立高校改革推進計画に基づき設置された新しいタイプの進学型の専門高校です。平成24年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに再指定され「科学技術と人間」などの特色ある学校設定科目の設置、理系進学に対応した豊富な学習量と少人数指導などを特徴として、大学や研究機関と連携を図りながら、理論、実験、研究の3ステップ学習による科学技術教育を行っています。 |
| 25 | 都立多摩科学 技術高等学校 | 小金井市 | 全 | 科学技術科 (210) | 理系大学進学を前提とした進学型専門高校です。将来、理学、工学、薬学、医療など様々な分野で科学技術者として活躍することを目指し、科学への視野を広め、基礎力と基礎学力を高めます。インフォメーションテクノロジー、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、エコテクノロジーなど先端科学技術の基礎に関する幅広い学習と、大学入試に備えた数、英、理を中心とした普通教科学習に力を入れています。 |

▽商業に関する学科

| | | | | | |
|----|----------------|-----------|---|---|---|
| 26 | 都立赤羽商業 高等学校 | 北区 | 全 | 商業科 (210) | 《チャレンジ赤商2015》を合言葉に、商業の専門学校としての伝統を引き継ぎつつ、新たなことにチャレンジしています。今年度も『規範意識向上推進モデル校』『部活動推進指定校』『オリンピック教育推進校』の3つの推進校の指定をいただきました。スポーツ科学センターや赤羽自然観察公園など「西が丘」の恵まれた環境、近隣自治会や商店街、地元消防署との連携など、地域と育てられ、地域とともに歩む学校です。社会で自立できる生徒の育成を目標に、就職や進学などの多様な進路実現を支援しています。 |
| 27 | 都立足立 高等学校 | 足立区 | 定 | 普通科 (90) 商業科 (30) | 学級数15、在籍生徒数約300名の大規模な夜間定時制課程で、商業科は4学級ある。英語科で習熟度別授業を実施するとともに、芸術科では2名の専任教諭により豊かな情操を育てている。定時制のコンピュータ教室は26年度最新機種に更新された。学校規模を生かし文化祭やスポーツ大会など数多くの学校行事が行われる一方、部活動もさかんである。 |
| 28 | 都立荒川商業 高等学校 | 足立区 | 全 | 総合ビジネス科 (210) | 平成18年度より文部科学省「目指せスペシャリスト」スーパー専門高校に指定(3年間)され、特色ある教育活動を展開している。地元商店会のPRフラッグのデザインを考案(年4回更新)したり、生徒のデザインによるラッピング都電(外装塗装)を、平成18年より22年3月まで通常運行させるなど地域に根ざした教育活動が高く評価されている。生徒商業研究発表大会・全国産業教育フェアにも参加。平成21年度創立50周年を迎えた。 |
| | | | 定 | 商業科 (60) | |
| 29 | 都立五日市 高等学校 | あきる野 市 | 全 | 普通科： 「ことばと情報」の コース (80) 商業科 (70) | 本校は四季折々に変化する五日市の山なみに囲まれた静かな五日市に位置しています。普通科は平成17年度より「ことばと情報」コースに改編しました。このコースではコミュニケーション能力の修得を柱とし3年間で「ことばの力」を身につけます。商業科では二年次に「簿記コース」と「情報コース」に別れ、これからの社会に対応した知識・能力・資格の修得を目指します。平成25年度はOJT推進校、また、同年より規範意識向上推進校、都立高校の社会的・職業的自立をめざす進路支援モデル事業の指定を受け、生活指導や中退の未然防止等、生活指導の一層の充実を図っています。28年度入学者選抜では、普通科及び商業科ともにバスケットボール女子1名ずつの文化・スポーツ特別推薦を実施します。定時制は面倒見が良い指導で定評があります。進路実現100%を目指しています。 |
| | | | 定 | 併合科(普通・商業) (30) | |
| 30 | 都立葛飾商業 高等学校 | 葛飾区 | 全 | 商業科 (140) 情報処理科 (70) | 全日制は、平成23年4月に創立50周年を迎え地域に根ざした専門高校として、キャリア教育を推進し、資格取得の向上や地域産業界との連携を図り、生徒ひとりひとりの進路実現に取組んでいる。健全育成に努め、社会に貢献できる人材育成を目指している。22・23・24年度部活動推進、23・24・25年度言語能力向上推進の各指定、25年度規範意識向上先行実施校、26・27年度規範意識向上推進モデル校の指定を受けて、あらゆる機会を通して生徒の資質向上と学校生活の充実に取り組んでいる。定時制は、マーケティング部はもとより、バスケット、バレー、芸術部門の部活動が盛んで、生徒の活躍が学校全体の活力になっている。 |
| | | | 定 | 普通科 (30) 商業科 (30) | |
| 31 | 都立江東商業 高等学校 | 江東区 | 全 | 総合ビジネス科 (175) | ビジネス三言語(IT、会計、英語)に力点を置き、実践的な商業教育を核として教育活動に取り組んでいる。同時に、社会人としての必須のマナーを身につけた生徒の指導を行っている。さらに、クラブ活動の振興を積極的に図り、学んで楽しい学校作りを目指している。 |

| | 学校名 | 所在地 | 課程 | 平成 28 年度 募集 学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|----------------|-----|----|-------------------------|--|
| 32 | 都立芝商業 高等学校 | 港区 | 全 | 商業科 (210) | 実社会で活躍する目的を持って学ぶ東京都における商業高校の拠点です。目標を明確に持つ学びのため、実社会を知る全員インターンシップやオリンピックを控えた竹芝地区まちづくりへの参画ほか地域社会との連携に取り組み、商業で学んだ知識・技能を実践的に学ぶ高校生開発商品アンテナショップ経営も推進している。各自の目標達成に必要な資格取得や就職・進学・マナー指導に定評ある教育を展開している活気ある高校です。ビジネスと観光の拠点、JR 浜松町駅、東京メトロ大門駅から徒歩 5 分という、ビジネス学習には最適な環境にある都心の伝統校です。 |
| 33 | 都立第一商業 高等学校 | 渋谷区 | 全 | 商業科 (210) | 東京都の商業高校のリーダーとして、生徒に愛され、地域に愛され、都民の皆様へ信頼される学校として、教職員が一丸となって教育活動をすすめている。高度な資格取得、大学進学・企業就職の両方に対応した教育課程と進路指導を充実させており、大学進学では指定校や公募推薦等で現役合格している。ソフトボール部や女子バレー部及び簿記部など部活動も盛んであり、地域連携では、学校開放事業、地域の行事への参加、公開講座や出前授業等「地域に学び、地域に貢献する学校」として高い評価を得ている。 |
| 34 | 都立第三商業 高等学校 | 江東区 | 全 | 商業科 (210) | 全日制課程、定時制課程ともに、多くの卒業生がわが国の実業界や経済界の中核で活躍しています。まさに校歌に謳われるように「日本の富を担う」学校です。「生徒一人ひとりが光り輝く学校『SUN 商』というコンセプトに基づき、生徒の思いや願いを実現するため、次の Mission Statement (ミッション・ステイトメント：使命宣言) を約束します。①充実した商業科目の学習により、将来に役立つ資格取得を応援します。②習熟度別による丁寧な指導により、国語・数学・英語の基礎学力を向上させます。③卒業後の進路実現 100% を目指します。④地域と連携し、地域から愛される学校を目指します。 |
| 35 | 都立第四商業 高等学校 | 練馬区 | 全 | 商業科 (140) 情報処理科 (70) | 一マナーの四商、資格の四商、社会人基礎力を養成する学校一昭和 15 年の開設から今日に至るまで、70 年を超える伝統と歴史の中で一貫して産業界で活躍する多くの有為な人材を育成してきました。商店会等と連携した Web ページ・ポスター作成等の体験的授業の実施や IT パスポート試験合格など着実に力をつけています。部活動も盛んで、アーチェリー部は関東大会出場、他にも硬式野球部、女子バスケットボール部、女子バレーボール部、吹奏楽部なども学校として力を入れています。 |
| 36 | 都立第五商業 高等学校 | 国立市 | 全 | 商業科 (210) | 全日制課程は、「資格の五商」「部活の五商」といわれる伝統校です。特に「IT パスポート試験」や「日商簿記検定」など、高度資格取得に実績があります。都立高校屈指の就職実績と独自の大学進学指導計画「白き翼」により大学進学指導にも力を入れています。定時制課程は、「基礎・基本の学習を徹底」「楽しい行事がたくさん」「部活動がさかん」「夢が実現する進路」「充実した施設設備」を特色とする伝統校です。平成 28 年度から標準服を制定します。 |

▽ビジネスコミュニケーション科

| | | | | | |
|----|----------------|-----|---|----------------------|---|
| 37 | 都立千早 高等学校 | 豊島区 | 全 | ビジネスコミュニケーション科 (210) | ・英語とビジネス教育に重点をおいた進学型専門高校。 ・「使える英語」を目指して「多読と発表」を授業に取り入れ、会話もイングリッシュキャンプ (1 年)、海外修学旅行 (2 年) と行事で実践。 ・新しいビジネス教育分野に NPO/NGO を学ぶ学校設定科目として「コミュニティデザイン」を設置。ビジネスで社会を学び大学卒業後を見据えた進学を特色とする。 |
| 38 | 都立大田桜台 高等学校 | 大田区 | 全 | ビジネスコミュニケーション科 (210) | 「本当に英語を使える人」を育てるために 10,000 冊の英書を活用した「英語多読」の授業や「アメリカン・キャンプ (1 年生)」「キャリア・アップ修学旅行 (2 年生)」などの学校行事を通し国際理解を深めます。また、「キャリア・デザイン」「東京の経済」「プレゼンテーション技術」「ファイナンス」「ビジネスモデル研究」など多様な学校設定科目により充実したビジネス教育を行います。 |

▽家庭に関する学科

| | | | | | |
|----|--------------|-----|---|-------------------------|--|
| 39 | 都立忍岡 高等学校 | 台東区 | 全 | 普通科 (160) 生活科学科 (70) | 平成 18 年 4 月 1 日、全日制・単位制、普通科と生活科学科の併置校として開校した。学科の目標は、普通科「大学進学希望の実現」、生活科学科「将来のプロフェッショナルとして必要な資質・能力の育成、大学進学希望の実現」である。単位制を活用して様々な選択科目を設置するとともに、習熟度別授業、少人数授業により基礎的・基本的な学力の定着に努めている。また、大学・専門学校と連携した専門性の高い授業も実施している。茶道、華道、将棋などの「日本の伝統文化」を自由選択科目として第 7 限に設置している。 |
|----|--------------|-----|---|-------------------------|--|

▽福祉に関する学科

| | | | | | |
|----|---------------|-----|---|----------|--|
| 40 | 都立野津田 高等学校 | 町田市 | 全 | 福祉科 (35) | 平成 8 年度より普通科看護福祉コースとしてスタートし、平成 18 年度から学科改編をおこない、東京都として初の福祉科を設置した。介護福祉士の国家試験の受験資格が得られる唯一の都立高校である。 |
|----|---------------|-----|---|----------|--|

▽国際関係に関する学科

| | | | | | |
|----|------------------|-----|---|------------|--|
| 41 | 都立大島海洋 国際高等学校 | 大島町 | 全 | 海洋国際科 (80) | 「海を通して世界を知る」というコンセプトに基づき、体験的な国際教育・海洋教育により、21 世紀の課題を発見・探求するとともに、これに貢献する高い志と国際化社会に対応する優れたコミュニケーション能力、良識、学力、逞しさをもつ国際人を育成します。2 年生からは「国際系」と「海洋系」に分かれ、前者は国際的な視野を持ち 4 年制大学を目指し、後者は海洋系大学進学向けに海洋のスペシャリストを目指します。また、都立高校唯一の実習船大丸丸による国際航海学習、海外語学研修を行い、寄宿舎においては自律的な生活習慣を育て、学習サイクルと「宅習 3 時間」による学習習慣により、生徒の進路実現を図ります。 |
|----|------------------|-----|---|------------|--|

| | 学校名 | 所在地 | 課程 | 平成28年度募集 学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|-------------------|-----------------|------|----|---|---|
| ▽併合科 | | | | | |
| 42 | 都立大島 高等学校 | 大島町 | 全 | 普通科 (80) 併合科 (農林・家政) (35) | 併合科の農林と家政では、専門科目の基礎から応用まで発達段階に応じた実習を多く取り入れた実践力を身に付けます。農林では産学公連携を拡大して、野菜・畜産・草花・森林分野の地域産業振興を重視して学びます。島の特産であるツバキに関しては、世界水準の学校椿園 (平成28年2月26日にICS優秀つばき園認定) での研究も可能です。家政はスペシャリストの育成に向けて、技能オリンピックメダリストを招聘において、教科書にはない専門技術、知識を習得できるようにしています。その他、グローバル化や地域社会貢献に向けた体験的活動や奉仕活動もあり、恵まれた大島の自然環境においてジオパーク等の調査、地元産業の研究などの世界水準のプレ研究を可能にしています。 |
| | | | 定 | 普通科 (30) | |
| 43 | 都立八丈 高等学校 | 八丈町 | 全 | 普通科 (120) 併合科 (園芸・家政) (35) | 八丈島唯一の高等学校として、地域のニーズから左記の各科を設置している。敷地面積は約63,000㎡を有する。全日制は習熟度別学習や少人数制を導入し、生徒の学力に応じた授業を展開している (昨年度進路実績96%)。部活動が大変盛んで、生徒の約89%が所属している。定時制は三修制を取り入れるなど、生徒の要望に柔軟に対応している。島のほぼ中央に位置し、学校内外、花と緑に囲まれた素晴らしい環境にあり、羽田空港から空路約50分、1日3便就航。大変至便な学校である。 |
| | | | 定 | 普通科 (30) | |
| 44 | 都立三宅 高等学校 | 三宅村 | 全 | 普通科 (40) 併合科 (農業・家政) (35) | 併合科は、農業科または家政科の専門科目を中心に学び、食の生産や加工、生活の改善などに積極的に取り組む能力を身につけさせる学習を行っている。少人数の長所を生かし、生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばす指導を実践している。 |
| ▽産業科 | | | | | |
| 45 | 都立橘 高等学校 | 墨田区 | 全 | 産業科 (210) | 「ものづくりから流通、販売まで」を総合的に学習して、将来、地域社会・産業界を担う人材と起業家を育成します。「ものづくり・ビジネス・IT」を専門教育の柱に、上級学校への進学を視野に入れた好ましい勤労観・職業観を身につけるキャリア教育を実践します。 |
| | | | 定 | 産業科 (60) | |
| 46 | 都立八王子桑志 高等学校 | 八王子市 | 全 | 産業科 ：デザイン分野 (70) ：クラフト分野 (35) ：システム情報分野 (35) ：ビジネス情報分野 (70) | 本校はIT特区&学園都市八王子に開校、産業界や地域社会との連携を発展させます。国家試験をはじめ高度な資格取得や検定合格で自信をつけ将来を切り開き、複眼的に考える力と専門性を身につけ各界において活躍する人材を育て、広く社会から信頼される学校を目指します。特色は、桑高ブランド指導計画「千の夢計画」をもって時代の要請に応える「未来の産業人」の育成です。 |
| ▽情報科 (単位制) | | | | | |
| 47 | 都立新宿山吹 高等学校 | 新宿区 | 定 | 普通科 (100) 情報科 (65) | 各自が興味・関心・進路等に基づき科目を選び幅広く、深く、学習するので、基本的に一人一人時間割が異なります (単位制)。定時制 (普通科・情報科) と通信制 (普通科) があり、どちらも、努力次第で3年間で卒業ができます (三修制)。定時制は、朝から夜まで、1部から4部の四つに分かれます (4部制)。情報科は、都立唯一の普通教科情報科の専門学科です。通信制は、平日は自宅でレポート作成を行い、土曜日はスクーリングで本校に登校し授業を受けます。教員相互の授業見学を全教員で行い授業力を高め、本校教員による夏期講習等も行っています。昨年度は、国立大学や、早慶上智・GMARCH理科大等の難関私大に現役で44名の合格者を出しました。 |
| | | | 通 | 普通科 (50) | |
| ▽総合学科 | | | | | |
| 48 | 都立青梅総合 高等学校 | 青梅市 | 全 | 総合学科 (240) | 平成18年旧都立農林高等学校跡地に、全・定併置の総合学科高校として開校した。豊かな自然に恵まれ、都立高校随一の広大な校地、大規模改修を行った新校舎、充実した施設・設備を活用して食・農・環境等の様々な体験活動を通して学ぶ特色ある総合学科高校である。全日制課程は文科・理科、生命・自然、食品・健康、環境・資源、生活・福祉の5系列を、定時制課程は生命・自然、生活・福祉の2系列を設けている。 |
| | | | 定 | 総合学科 (90) | |
| 49 | 都立葛飾総合 高等学校 | 葛飾区 | 全 | 総合学科 (240) | 平成19年4月に東京東部地区に開校した全日制総合学科高校。国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、環境サイエンス、情報メディア、メカトロニクスの6系列を通して、生徒の興味関心に応じた幅広い選択科目と大胆な選択制を採用して、生徒一人ひとりに明確な目的意識を育てつつ、希望進路実現を図る。 |
| 50 | 都立杉並総合 高等学校 | 杉並区 | 全 | 総合学科 (240) | 都立桜水商業高校と都立永福高校とを前身として、平成16年度に都立で3番目の総合学科高校として開校。国際理解教育やキャリア教育を重視、部活動の推進や学校行事の充実などと合わせて、生徒の意欲を高め「生きる力」を育て、個性や能力の伸長をめざす。 |
| 51 | 都立世田谷総合 高等学校 | 世田谷区 | 全 | 総合学科 (240) | ○平成20年4月開校 ○幅広い6系列 (社会・教養、環境・サイエンス、国際・文化理解、情報デザイン、ライフデザイン、ものづくり) に魅力ある様々な選択科目を配置し、一人ひとりにきめ細かく対応した時間割を作成。 ○生活マナー (身だしなみ、頭髪等) を重視し、自主・自律の態度を育成するために、ノーチャイム、ノー放送を展開。男女ともに制服を決め、毎日校門指導を実施。女子制服には、パンツスタイルも採用。 ○進路実現をサポートするために、「産業社会と人間」の授業の他、キャリア教育を重視 |
| 52 | 都立つばさ総合 高等学校 | 大田区 | 全 | 総合学科 (240) | 平成14年に新規開校した都立2校目の総合学科高校である。美術・デザイン系列、科学・技術系列、国際・コミュニケーション系列、スポーツ・健康系列、生活・福祉系列の5系列を配備し、生徒が自身の適性・能力・興味・関心・進路希望等に応じて独自の時間割を編成し学習を進め、大学進学を中心とした希望進路を実現している。IS014001 (国際環境認証) を取得し、環境教育に力を入れ、平成19年度「環境大臣賞」、平成21年度「文部科学大臣賞」、27年度「米国環境保護局EPA表彰盾」を受賞している。豊かな施設・設備の下、部活動も盛んであるとともに、様々な地域連携活動を展開し、地域に愛され親しまれている学校である。 |

| | 学校名 | 所在地 | 課程 | 平成28年度募集 学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|------------------|-----------|----|----------------------|--|
| 53 | 都立晴海総合 高等学校 | 中央区 | 全 | 総合学科 (280) | 東京都の総合学科高校のバイオニア校として平成8年に開校。近代的で充実した校舎・設備を持ち、「産業社会と人間」の工夫やキャリア教育の充実をベースに、情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会経済の6系列に多様な選択科目を設置し、大学進学を視野に入れた生徒の進路実現を図れる学校である。 |
| 54 | 都立東久留米 総合高等学校 | 東久留米 市 | 全 | 総合学科 (240) | 本校は、平成19年4月に開校した全日制、定時制併置の総合学科高校。全日制では、学ぶ意欲を育てるための魅力選択や先進的な進路指導により大学などへの希望進路の実現を図る。自然科学、人文科学、情報・ファイナンス、スポーツ科学、看護・福祉、美術・デザインの6系列を設置。定時制では、教養、情報・ファイナンスの2系列を設置するとともに、三修制を実施。 |
| | | | 定 | 総合学科 (60) | |
| 55 | 都立若葉総合 高等学校 | 稲城市 | 全 | 総合学科 (240) | 平成17年度に開校した、多摩地区最初の総合学科高等学校。自らを「進路指導充実校」と名づけ、多彩な教育活動により生徒の意欲と力を伸ばし、進路実現を目指す。人間探究・芸術表現・伝統継承・情報交流の4系列を持つ。教育目標のコンセプト "TO BE AMBITIOUS, ACTIVE, AND ATTRACTIVE" ※大志を抱き (AMBITIOUS)、生き生きと活動し (ACTIVE)、 魅力あふれた (ATTRACTIVE) 若者を育てる学校 |
| 56 | 都立町田総合 高等学校 | 町田市 | 全 | 総合学科 (240) | ○平成22年度4月開校、全日制総合学科高等学校 ○社会での生き方を視野に捉えた「キャリア教育」を教育活動の根幹とした学校 ○校訓「創」; 「自分創り」に取組み、「社会創り」の基礎を身に付け、「未来創り」に備える。 ○基本的な学力を養うとともに、生徒一人ひとりが自己実現のための科目を自ら選択する。自分で創る自分自身のための時間割 ○「暮らし」「ひと」「まち」「自然」の4つの系列・自らを磨く「日本文化」の授業・社会と連携し、体験を重視した教育活動・自主・自立・自律の部活動 |
| 57 | 都立王子総合 高等学校 | 北区 | 全 | 総合学科 (240) | 平成23年度開校、全日制総合学科高等学校。 ○「Design Your Dream」(自己の生き方を真剣に考え将来を切り拓く力をつける学校) をキャッチフレーズとしている。自己の進路へ自覚を深め自ら夢を描き、その実現に向かって意欲的に計画し実行する行動力と態度を育てていきます。 ○「メディア・ネットワーク」「ビジネス・コミュニケーション」「工業・デザイン」「伝統文化・工芸」「スポーツ・健康」の5つの系列があります。 |

▽総合学科 (チャレンジスクール)

| | | | | | |
|----|----------------|------|---|------------|---|
| 58 | 都立大江戸 高等学校 | 江東区 | 定 | 総合学科 (150) | 平成16年4月開校の三部制総合学科(単位制、定時制)高校。「伝統・文化」「情報・ビジネス」「生活・福祉」の3系列があり、地域に根ざした特色ある教育活動を行います。体験学習や実習を重視し、少人数の授業で一人一人が分かるまで指導します。「一人一人の学びを実現する学校」「一人一人のチャレンジを支援する学校」「地域に支えられ育てられる学校」 |
| 59 | 都立桐ヶ丘 高等学校 | 北区 | 定 | 総合学科 (150) | 平成12年度に開校した、最初のチャレンジスクール(総合学科、単位制、昼夜間開講三部制の定時制)です。 『夢・挑戦・感動』を校訓に「福祉教養」「情報ビジネス」「アート・デザイン」の3系列で①多様な教科・科目を設置した総合学科②基礎・基本の重視③単位認定の弾力化④体験学習の重視⑤充実した相談体制など、特色ある教育活動を展開しています。 |
| 60 | 都立世田谷泉 高等学校 | 世田谷区 | 定 | 総合学科 (180) | 「学ぶ時間帯」を選べる三部制、「学ぶ計画」を選べる単位制、「学ぶ科目」を選べる総合学科のチャレンジスクールといわれる定時制の学校です。「製作・技術」「生活・福祉」「創作・表現」の3系列があり、たくさんの選択科目や体験学習を用意しています。 |
| 61 | 都立稔ヶ丘 高等学校 | 中野区 | 定 | 総合学科 (210) | 平成19年4月に開校したチャレンジスクール(三部制定時制、総合学科、単位制)です。各学年7学級で、校服(制服)があり静かな学習環境です。心理学に裏づけされた授業「コーピング」があり、「対人関係力、学習スキル」を向上させていきます。「強い(つよい)心」「自立した未来」のもとたくさんの選択科目や少人数授業、体験学習を行っています。 |
| 62 | 都立六本木 高等学校 | 港区 | 定 | 総合学科 (150) | 平成17年に開校したチャレンジスクール。小・中学校において不登校を経験した生徒、高校を中退した生徒及び、これまでの教育の中では十分に力を発揮できなかった生徒が自分の夢に向かってチャレンジしている。教育目標は“見つけて磨いて未来を拓く”である。演劇・美容・和太鼓・陶芸等、市民講師による特色ある授業も実施している。三修制により平成25年度末には第7回目の卒業生が出ました。 |

▽普通教育を主とする学科 (単位制)

| | | | | | |
|---|--------------|-----|---|-----------|--|
| 1 | 都立浅草 高等学校 | 台東区 | 定 | 普通科 (240) | 平成18年4月開校。生徒のライフスタイルに応じた柔軟な教育課程を持つ、昼夜間三部制、普通科の単位制高校である。9階建て全館冷暖房完備のオフィスビルディングタイプの校舎と地下に年間フル稼働の温水プールを持つ。学び直しから大学受験まで対応するカリキュラムと保育体験や介護体験のできる「体験学習」などを特色とする。 |
|---|--------------|-----|---|-----------|--|

国立高校

| | | | | | |
|---|------------------------------|----|---|------------------------|---|
| 1 | 東京工業大学 附属 科学技術 高等学校 | 港区 | 全 | 科学・技術科 (推薦60、一般140) | 科学技術における基礎学力の充実に重点を置き、高大連携の強化により、先端的な科学技術を注視しながら、より高度な教育に対応できる多面的素養を身に付けることが出来る授業を展開している。2年次から、材料科学・環境科学・バイオ技術、情報・コンピュータサイエンス、システムデザイン・ロボット、エレクトロニクス・エネルギー・通信、立体造形・デジタルデザインの5分野に分かれる。 |
|---|------------------------------|----|---|------------------------|---|

| 学校名 | 所在地 | 課程 | 平成28年度募集 学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|-----|-----|----|----------------------|----------|
|-----|-----|----|----------------------|----------|

高等専門学校

| | | | | |
|---|------------------|-----|------------------------------------|---|
| 1 | 都立産業技術 高等専門学校 | 品川区 | 全 ものづくり工学科 (320) 創造工学専攻 (32) | 平成18年度に都立工業高等専門学校(工業高専)と都立航空工業高等専門学校(航空高専)の再編統合を行い、本科の“ものづくり工学科”に新たな8つの教育コースを設置した東京都立産業技術高等専門学校を開校しました。本校では「首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成」を目指しています。更に、科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対応できる、より高度な総合的実践的技術者を育成することを目指し、本科5年の上に2年の専攻科課程“創造工学専攻”を設置しています。平成20年4月には、公立大学法人首都大学東京に移管し、同法人の首都大学東京及び産業技術大学院大学との連携を推進しています。 |
| | | 荒川区 | | |

専修学校

| | | | | |
|---|-----------------------------|------|--|---|
| 1 | 愛国学園保育 専門学校 | 江戸川区 | 昼 幼児教育科 (50) 介護福祉士専攻科 (募集停止中) | 本校は、昭和44年に設立された伝統のある専門学校である。幼児教育科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭2種免許状が取得でき、介護福祉士専攻科は、卒業と同時に介護福祉士資格が取得できる。学生は、完備された学園において、斯界の権威ある教授に囲まれ、楽しく熱心に勉強している。就職についてみると、幼児教育科は毎年ほぼ100%の就職率となっており、幼稚園や保育所などに就職している。介護福祉士専攻科は、毎年100%の就職率となっており、介護老人福祉施設などに就職している。卒業生は勤務先から、専門に精通しており、明るく元気で、礼儀正しく、真面目で就職後もよく成長するという評価を得ている。 |
| 2 | 青山製図 専門学校 | 渋谷区 | 昼 建築工学科 (25) 建築設計デザイン科 (60) 建築インテリア工学科(25) 商空間デザイン科 (25) 建築インテリアデザイン科(50) 建築設計研究科 (60) | 昭和52年に設立以来、設計・製図・デザイン・CADの技術者を輩出している。現在、建築・インテリア系の8学科を設置。実践的な授業を展開し、産業界のニーズに沿った即戦力となる技術者、国際性豊かな幅広い知識を持った常識ある社会人の育成を目指している。 |
| | | | 夜 建築科 (55) インテリア工学科 (30) | |
| 3 | 国際デュアル ビジネス専門 学校(新校名) | 台東区 | 昼 国際観光学科4月生(40) 国際ホテル学科4月生 (80) 航空貿易学科4月生(40) 医薬・医薬学科4月生(40) | 実践的な観光、医療及び薬業従事者の育成を目指し、座学と企業実習を組み合わせた教育を行っている。現場力のある職業人を養成していく。平成22年4月より国際デュアルビジネス専門学校と校名を変更した。 |
| | 国際観光専門 学校(旧校名) | | | |
| 4 | 国際理容美容 専門学校 | 荒川区 | 昼 職業実践専門課程→ 理容科 (80) 美容科 (120) ビジネス美容科 (80) 【修業年限2年】 ビューティアーティスト科(40) 【修業年限1年】 高等課程→美容高等科 (60) 【修業年限3年】 | 専門的な知識・技術と共に、心からお客様に尽くす為に自らを磨き続けることのできる人間を育て、「装」の教育を目標としている。また、生活文化の向上による顧客の多様なニーズに応え、今後の時代の変化に対応できる人材および業界の向上と発展を担う人間性と教養豊かな資質の高い職業人の育成を目指している。 |
| | | | 通 理容科 (40)、美容科 (80) 【修業年限3年】 | |
| 5 | 中央工学校 | 北区 | 昼 建築学科、建築工学科、 建築設計科、木造建築科、 建築設備設計科、建築室内 設計科 (250) インテリアデザイン科、 インテリア科 (40) エンターテインメント 設営科 (20) 都市環境学科、土木建設 科、造園デザイン科、測 量科、地理空間情報科 (170) 機械学科、メカニカルデザ イン科、3D-CAD科(50) スポーツ健康学科 (40) | 中央工学校は1909年(明治42年)に創設し、2009年10月21日創立100周年を迎えた。伝統と歴史を誇る専門学校で、社会に送り出した卒業生は10万5,000人を超え日本の国づくりをリードしています。教育理念を『厳しい実務教育』『人間涵養教育』『楽しい学校生活』『誇りの持てる学校』とし、時代の変化やニーズに対応した教育内容と実習施設・設備を完備し、本格派の技術者を育成しています。学習面においては、クラス担任制できめ細やかな指導を行い、教師陣も技術革新の時代にふさわしい内容で備えています。学生寮なども充実しており、地方からの進学者にも安心して学べる環境となっています。資格についても建築系の全ての学科で卒業と同時に2級建築士の受験資格、土木・測量系学科では国家資格の測量士補が卒業と同時に無試験取得できる学科などプロフェッショナルになるためのカリキュラムを整えており、また、資格取得のバックアップ体制も整えています。就職指導においては、全国に広がった卒業生とのネットワークを活かしてクラス担任と就職指導の担当職員が連携を取り、学生の希望職種に就職できるようにしっかりとサポートしています。毎年ほとんどの学生が自分の目指す職業に内定を決めています。『中央工学校=就職に強い学校』の評判は広く社会に認められています。 |
| | | | 夜 建築科 (80) 土木科・測量科 (30) | |
| 6 | 東京エアトラベル・ ホテル専門学校 | 小金井市 | 昼 エアライン科 (60) エアポートサービス科 (40) 英語キャリア科 (30) ホテル科 (60) ブライダル科 (60) ビジネスマナー・秘書科 (30) ファッションビジネス科 (30) 観光旅行科 (30) 鉄道交通科 (40) 研究科 (20) | 昭和48年の設立と同時にスイス航空日本人スチュワーデス第一期生の採用と教育を実施。以来、エアライン、ホテル、観光、ブライダル、鉄道 の各分野に優秀な人材を送り出している。少人数制で仕事に直結した豊富な実習やインターンシップ実習での現場を体験、ことば遣いや礼儀作法などのホスピタリティ教育、英語の他にも近年需要が高まっている中国語や韓国語などの語学教育など充実したカリキュラムで、社会で通用する品格のある人材を育成。こうした教育内容が評価され、現在は、アジアナスタッフサービス(株)や中国東方航空、中国南方航空の採用指定校となっています。 |

| 学校名 | 所在地 | 課程 | 平成 28 年度募集 学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|------------------------------------|------|----------|---|--|
| 7 東京工学院 専門学校 | 小金井市 | 昼 | コンサート・イベント科 (60) 音響芸術科 (40) ミュージック科 (20) 放送芸術科 (30) 声 優・演劇科 (40) ゲー ムクリエイター科 (30) CGクリエイター科 (20) Webクリエイター科 (20) マンガ科 (40) ア ニメーション科 (30) グラフィックデザイン科 (30) スポーツビジネス 科 (60) 幼児教育学科 (40) こども学科 (40) 教育 専攻科 (60) 公務員科 (30) 建築学科 (40) イン テリアデザイン科 (20) 情報システム科 (40) 情報スペシャリスト科 (20) 電気電子学科 (40) 電気主任技術者専攻科 (20) 航空学科 (20) 法 律情報科 (20) 経営情 報科 (20) 大学併修学 科 (30) 研究科 (20) | 昭和 34 年、文部省認定唯一のテレビ専門学校「名城大学付属東京テレビ高等技術学校」として創立。オックスフォード大学をはじめとする海外大学との提携や一流企業の現場でのインターンシップ体験、各業界で活躍している講師陣による徹底指導など、時代のニーズに応える高度な専門性や広い視野を持つ人材を 50 年以上社会に送りだしている。27 学科 42 コースもの多彩の専門分野から構成される総合学院であり、各専門分野の知識や技能を修得するのみならず、他の専門分野との学科間、コース間を越えた学びも可能。それぞれの専門分野が協力して成り立っている社会という形を学校内に再現することで、学生たちにとっては貴重な経験となっている。一つのキャンパスで様々な専門分野を学ぶ学生同士が交流できることで、新たな価値観に触れ視野を広げ、コミュニケーション能力を鍛えられるのも特長の一つ。各学科は少人数制なので、学生一人ひとりの個性や適性に合わせた丁寧な指導を実施。また、中央大学、産業能率大学との 4 年制大学通信教育課程と連携した W スクールシステムにより、「専門士」と「学士」の両方の学位の取得も可能。 ビジネスの最先端で求められる力を身につけたスペシャリストの育成を目指している。 |
| 8 専門学校東京工科 自動車大学校 | 中野区 | 昼 | 1 級自動車整備科 (4 年・50 名) 自動車整備科 (2 年・100 名) エンジンメンテナンス科 (2 年・80 名) | 自動車業界のメーカー・ディーラー・モータースポーツ等様々な職種に対応した学科を設置するクルマとバイクの自動車大学校です。一級・二級自動車整備士資格をはじめ多種資格取得にも対応できるカリキュラム改革を展開し、安心できる授業システムによる解る・出来る・取れる授業運営をしております。 |
| 9 東京誠心調理師 専門学校 | 大田区 | 専門 高等 | 調理師科 2 年制 (120) シェフパティシエ科 2 年 制 (40) 調理師科 1 年制 (120) [調理技術・福祉調理] 調理師科夜間部 2 年制 (40) | 1970 年創立。2007 年 8 月京急蒲田駅西口すぐそばに HACCP や ISO22000 に適用した、全く新しいコンセプトの基、新校舎が完成。 調理師科 2 年制には、学内レストランにて、一般の方々を対象に専門学校生レストランを運営。メニュー開発から運営までをトータルに学ぶことができます。 この他、毎年 2 月に開催されている全国調理技術コンクールでは、数々の大臣賞を受賞しており、技術教育についてもその質の高さを誇っています。 2012 年からは、週 3 日制の夜間部 2 年制を開校。社会人や大学生の方々にも入学し易い学科を設立。 |
| 10 東京デザインテク ノロジーセンター 専門学校 | 新宿区 | 昼 | スーパー IT 科 (80) IT・デザイン科 (80) IT・デザインコミュニ ケーション科 (80) | 本校は、業界が必要とする人材育成を産学協同教育によって行っています。 学科は、IT を核としたエンジニア、クリエイター、デザイナーの育成カリキュラムで構成されています。資格取得にも力を入れ国家資格、ベンダー資格、業界資格の取得に取り組んでいます。 |
| 11 東京美容 専門学校 | 新宿区 | 昼 通 | 美容総合科ヘアスタイ リストコース (80) (専門課程) 美容総合科トータル ビューティーコース (40) (専門課程) エステティック科 (16) (専門課程) メイク・ネイル科 (40) (一般課程) 美容通信科 (通信) (80) エステティック通信講座 (16) | 本校は 1947 年の創立以来、「堅実な学風、先進の技術」という建学の精神を大切に 60 年の歴史を重ねてまいりました。現理事長、田中みさ子は、約 80 店舗のヘア & ブライダルサロングループを率い、国内外の美容業界において活躍しています。 また、海外のコスメティックスメーカーとも提携し、教育システムにおいても多くのサポートを受けてきました。こうした伝統を踏まえ、常に「時代と共にある美のスペシャリスト、時代を超える美しさ」を模索しながら、ハートフルな美容師育成に専心し、そのために必要な施設、カリキュラムを充実させております。 |
| 12 東京 YMCA 医療福祉 専門学校 | 国立市 | 昼 | 社会福祉専門課程 介護福祉科 (2 年) (80) 医療専門課程 作業療法学科 (3 年) (30) | 世界の YMCA に共通の精神である「平和で優しい社会の実現に貢献する」に基づいて、学校法人東京 YMCA によって 1996 年に設立されました。 学生一人ひとりに合わせた指導で「人に向き合い、人を支える専門家」として豊かな人間性を持つスペシャリストを養成し業界に送り出しています。 |

| | 学校名 | 所在地 | 課程 | 平成28年度募集 学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|---------------------|------|----|---|---|
| 13 | 日本ウェルネス スポーツ専門学校 | 練馬区 | 昼 | アスレティックトレーナー科 (40) 健康スポーツ科 (40) チャイルドスポーツ科 (37) ウェルネス IT 科 A (4月入学) (30) ウェルネス IT 科 B (10月入学) (30) | 日本ウェルネススポーツ専門学校は、1998年(平成10年)4月に開校された体育スポーツ・健康づくり及び、情報技術に関する知識・技能を修得するための専門教育を行い、その分野における指導並びに社会活動に対応し得る人材を育成する専門学校です。 本校はオリンピック出場、世界選手権優勝、国際大会優勝等、数々の実績を残しているスポーツ専門学校の名門です。 競技スポーツを中心としたアスリート(硬式野球・サッカー・陸上など多数のスポーツ)の他、スポーツトレーナー(トップアスリート、スポーツクラブ、学生のトレーナー)、スポーツインストラクター、保育士、幼稚園教諭、幼児体育指導者のスペシャリストを養成します。 学校主導の徹底した就職支援による高い就職率と、たくさんの専門資格を取得できることが特色です。 本校グループでは、スポーツ業界初の「専門学校・大学連携の内部推薦制度」が誕生しました。本校の卒業生は内部推薦により、「日本ウェルネススポーツ大学」の3年次に編入学できます。3年次編入の際、本校での取得単位が大学の単位として読替えされるので、編入後無理なく2年間で大学を卒業できます。 また、日本ウェルネススポーツ大学では「保健体育教員免許」の取得が可能です。 本校卒業後、大学にて学位を取得し、職業に直結した実践力を深めたい方には、この内部推薦制度による編入学はお勧めです。 |
| | | | 夜 | アスリート研究科 (40) 保育科 (40) | |
| 14 | 日本電子 専門学校 | 新宿区 | 昼 | コンピュータグラフィックス科(160)、高度コンピュータグラフィックス科 (40)、CG映像制作科 (40)、ゲーム制作科 (150)、ゲーム制作研究科 (120)、ゲームCGデザイン科 (80)、ゲーム企画科 (80)、アニメーション科 (80)、アニメーション研究科 (40)、Webデザイン科 (80)、グラフィックデザイン科 (80)、コンピュータミュージック科 (40)、ケータイ・アプリケーション科 (40)、Webシステム科 (40)、組込みシステム科 (80)、コンピュータネットワーク科 (80)、ネットワークセキュリティ科 (80)、情報処理科 (120)、情報システム開発科 (80)、高度情報処理科 (80)、電子応用工学科 (40)、電気工学科 (50)、電気工事技術科 (50) | 「電子技術を核とした創造性豊かな技術者の育成を通して世界に貢献する」という建学の精神により、現在は「最先端の技術をいち早く実学として取り込み、個性を生かせる教育環境の中で、国際社会に貢献することのできる感性豊かなスペシャリストを育成する」を教育理念として掲げ、独自の教育システムを構築している。 |
| | | | 夜 | コンピュータグラフィックス科 (40)、キャラクターデザイン科 (40)、ゲーム制作科 (40)、ネットワークセキュリティ科 (40)、情報処理科 (40)、電気工学科 (50) | |
| 15 | 二葉栄養 専門学校 | 武蔵野市 | 昼 | 管理栄養士学科 (40) 栄養士科 (120) 調理師科 (76) 調理実践科 (76) | 本校は開校以来数多く調理師、栄養士を養成してまいりました。平成14年より管理栄養士学科を東日本地区にて第一番目に開設し、平成27年には第10期生の90.6%を管理栄養士国家試験合格として輩出いたしました。栄養士科においては2つのコースを2年次に選択し、希望の就職先に合わせた教育により、就職希望者に対する就職率100%を実現しています。また、調理師科においては基礎衛生知識と、食の安全を中心に学習、調理実習時間は300時間を設定し、知識と技術をバランスよく学び即戦力に対応できる人材を育成しています。2年制の調理実践科を新設し調理実習授業のさらなる充実とフードサービス全般の知識と技術の習得をします。 |
| 16 | 町田・デザイン 専門学校 | 町田市 | 昼 | 建築デザイン科 (30)、インテリアデザイン科 (35)、雑貨・プロダクトデザイン科 (40)、グラフィックデザイン科 (40)、イラストレーション科 (40)、Web・CGアニメーション科 (35)、まんが科 (40)、コミックイラスト科 (40) | 創立37年の総合デザイン系専門学校です。 4学群(建築学群・ビジュアル学群・コミック学群・ライフ学群)・8学科38専攻の昼間部と、東京都初の通信教育部2学科(建築デザイン科、二級建築士受験科)を設置しています。「個々の力を最大限に引き出したい!」それがmdcです! |
| | | | 通 | 二級建築士受験科 (30) 建築デザイン科 (20) | |
| 17 | マリールイズ 美容専門学校 | 新宿区 | 昼 | 美容本科 (40) ・ブライダルアーティストコース ・国際スタイリストコース | 104年を迎えるマリールイズ美容専門学校は、「日本の美容の歴史は、常にマリールイズと共にありました。」歴史を踏まえ「1に人格・2に技術」を教育の根幹に据え、「1学年40人」少人数による指導の下で、一人ひとりの学生と向き合い「美容のプロ」を本気で育てたいと日々授業に取り組んでいます。 その結果、美容師免許合格率100%の実績を積み重ね、未来の「夢実現」に卒業生を輩出しています。 授業内容は、入学後の6カ月間はカットやメイクの美容の基礎を学び、その後は、自らの個性を重視し、希望する「将来像」に合わせたコース選択を行っており、専門知識と技術を学ぶことができます。 さらに、卒業後の進路選択コースに合わせ、(株)美容マリールイズ企業連携、卒業生の経営するサロン提携等を通じ、職業人として実習を通して、実践的なカリキュラムを編成、特色化を図っています。 |

| | 学校名 | 所在地 | 課程 | 平成 28 年度募集 学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|-------------------|------|----|---|--|
| 18 | 武蔵野東 高等専修学校 | 武蔵野市 | 昼 | 総合キャリア学科 (75) | 「理想」～世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる～を校訓に、将来の職業生活に直接役立つ専門的な知識・技術を学ぶとともに人間的成長を図る。 また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、林間学習、学園祭などの体験学習を重視している。 |
| 19 | 日本工学院 専門学校 | 大田区 | 昼 | 放送・映画科 (160)、声優・演劇科 (200)、演劇スタッフ科 (80)、マンガ・アニメーション科四年制 (40)、マンガ・アニメーション科 (200)、ゲームクリエイター科四年制 (80)、ゲームクリエイター科 (80)、CG映像科 (40)、グラフィックデザイン科 (40)、Webクリエイター科 (30)、インテリアデザイン科 (40)、プロダクトデザイン科 (40)、ミュージックアーティスト科 (80)、コンサート・イベント科 (240)、レコーディングクリエイター科 (80)、ダンスパフォーマンス科 (80)、IT スペシャリスト科 (80)、情報処理科 (160)、パソコン・ネットワーク科 (40)、情報ビジネス科 (40)、診療情報管理士科 (30)、医療秘書・事務科 (30)、電子・電気科 (160)、環境・バイオ科 (40)、建築学科 (40)、建築設計科 (80)、機械設計科 (40)、臨床工学専攻科一年制 (80) | 本校は、1947年の創立以来、「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来創造に寄与する」をミッションとし、最先端の学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、実践的で質の高い専門教育を行っております。これまでに多くの卒業生を社会に送り出し、それぞれが各分野の第一線で活躍していることが、本校の教育の何よりも実績と自負しております。 多彩なスペシャリストを育てるカレッジ制 長い歴史のなかで培ってきた総合専門学校としてのノウハウと、グレードの高い専門教育を実現するために、カレッジ制を導入。総合専門学校のメリットはそのままに、これまでの学科を発展させ、より専門性を追求する学習環境を実現。「総合性」+「専門性」のカレッジ制専門学校として生まれ変わりました。 「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「医療」の6つのカレッジは、専門領域を深く掘り下げながら相互に関わりあい、連携することで新たなスペシャリスト教育の創造を実現しています。 より充実した教育を提供する「教育設計図」 本校では、就職難の時代に対応し学校の本質である学生への教育をより充実させるべく、長年積み上げてきた教育ノウハウを結集・体系化した「教育設計図」を確立いたしました。これは、“すべての学生に就労に必要なスキルを身につけさせること”を目的とした、全く新しい教育カリキュラムです。すべての学生にこの「教育設計図」に基づいた「専門力」教育を行うとともに、社会人として必要不可欠となる「人間力」の育成にも力を入れ、学生全員が就職・デビューを叶えることができるよう徹底サポートしております。 |
| 20 | 日本工学院 八王子専門学校 | 八王子市 | 昼 | 放送・映画科 (80)、声優・演劇科 (80)、マンガ・アニメーション科四年制 (40)、マンガ・アニメーション科 (120)、ゲームクリエイター科四年制 (80)、ゲームクリエイター科 (40)、CG映像科 (40)、グラフィックデザイン科 (40)、Webクリエイター科 (40)、インテリアデザイン科 (40)、プロダクトデザイン科 (40)、ミュージックアーティスト科 (80)、コンサート・イベント科 (120)、レコーディングクリエイター科 (40)、IT スペシャリスト科 (40)、情報処理科 (120)、パソコン・ネットワーク科 (40)、情報ビジネス科 (40)、診療情報管理士科 (40)、医療秘書・事務科 (40)、ロボット科 (40)、電子・電気科 (120)、一級自動車整備科 (50)、自動車整備科 (100)、応用生物学科 (80)、建築学科 (40)、建築設計科 (120)、土木・造園科 (80)、機械設計科 (40)、鍼灸科 (60)、柔道整復科 (60)、スポーツトレーナー科三年制 (40)、スポーツトレーナー科 (40)、スポーツ健康学科三年制 (40)、スポーツ健康学科 (120)、こども学科 (40) | 本校は、1947年に東京都大田区西蒲田に創立した創美学園を起源とし、1987年に八王子市に開校しました。「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、約38万㎡の広大な敷地に最先端の学習・研究施設を機能的にレイアウト。充実した学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、実践的で質の高い専門教育を行っております。これまでに多くの卒業生を社会に送り出し、それぞれが各分野の第一線で活躍していることが、本校の教育の何よりも実績と自負しております。 多彩なスペシャリストを育てるカレッジ制 長い歴史のなかで培ってきた総合専門学校としてのノウハウと、グレードの高い専門教育を実現するため、カレッジ制を導入。総合専門学校のメリットはそのままに、これまでの学科を発展させ、より専門性を追求する学習環境を実現。「総合性」+「専門性」のカレッジ制専門学校として生まれ変わりました。 「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「医療」「スポーツ」の7つのカレッジは、専門領域を深く掘り下げながら相互に関わりあい、連携することで新たなスペシャリスト教育の創造を実現しています。 より充実した教育を提供する「教育設計図」 本校では、就職難の時代に対応し学校の本質である学生への教育をより充実させるべく、長年積み上げてきた教育ノウハウを結集・体系化した「教育設計図」を確立いたしました。これは、“すべての学生に就労に必要なスキルを身につけさせること”を目的とした、全く新しい教育カリキュラムです。すべての学生にこの「教育設計図」に基づいた「専門力」教育を行うとともに、社会人として必要不可欠となる「人間力」の育成にも力を入れ、学生全員が就職・デビューを叶えることができるよう徹底サポートしております。 |
| 21 | 早稲田速記 医療福祉専門学校 | 豊島区 | 昼 | 医療秘書科 (120)、医療マネジメント科 (2年制) (80)、医療マネジメント科 (4年制) (10)、速記コンピュータ科 (20)、くすり・調剤事務科 (40)、診療情報管理専攻科 (30)、介護福祉科 (30)、鍼灸医療科 (30)、看護科 (35) | 21世紀を支える、医療・福祉分野のスペシャリストを養成している。本校独自の「専門教育」と「社会人教育」で、職業人として社会に貢献できる人材を育てる。 |

| 学校名 | 所在地 | 課程 | 平成28年度募集 学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|-------------------|------|----|--------------------------------|---|
| 短期大学 | | | | |
| 1 愛国学園 短期大学 | 江戸川区 | 全 | 家政科： 家政専攻（50） 食物栄養専攻（50） | 家政専攻では、豊かな教養を身につけるとともに、衣食住の分野に渡り実践的なスキルを持つ自立した社会人を育成します。中学校教諭二種免状（家庭）、医療事務管理士（医科）の取得も可能です。食物栄養専攻では、食と健康に関わる専門的な知識と技術をもち、人々の健康の維持・増進に役立つ栄養士を育成します。栄養士の資格に加えて、栄養教諭二種免許及びフードスペシャリストの課程も備えています。さらに、両専攻ともに卒業と同時に社会福祉主事任用資格を、また、所定の単位を取得する（又は所定の科目を学ぶ）ことによりフードコーディネーター3級の資格を取得でき、P検、秘書技能検定、簿記検定、アロマセラピー3級などの検定資格取得も支援しています。 |
| 2 東京家政大学 短期大学部 | 板橋区 | 全 | 保育科（120） 栄養科（80） | 本学の学びには、社会で活躍するための即戦力となる専門知識と技術の習得、資格取得に加えて人間性を高め、視野を広める教養教育が備わっている。 保育科は保育士、幼稚園教諭二種の資格・免許が取得でき、90%が専門職に進路を決定。公立の保育士合格者多数。 栄養科は栄養士、中学校教諭二種（家庭）、栄養教諭二種の免許、フードスペシャリスト（受験資格）が取得でき、栄養士には約40%、その他食品関連企業を中心に一般企業に進路を決定。 |

平成27年度会員中学校

公立中学校

| | 学校数 | | 学校数 | | 学校数 | | 学校数 | | 学校数 |
|------|-----|------|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|
| 千代田区 | 2 | 墨田区 | 10 | 渋谷区 | 8 | 練馬区 | 34 | 調布市 | 8 |
| 中央区 | 4 | 江東区 | 23 | 中野区 | 11 | 足立区 | 37 | 狛江市 | 4 |
| 港区 | 10 | 品川区 | 15 | 杉並区 | 23 | 葛飾区 | 24 | 東大和市 | 5 |
| 新宿区 | 10 | 目黒区 | 9 | 豊島区 | 8 | 江戸川区 | 33 | 羽村市 | 3 |
| 文京区 | 10 | 大田区 | 28 | 北区 | 12 | 武蔵野市 | 6 | 三宅村 | 1 |
| 台東区 | 7 | 世田谷区 | 29 | 荒川区 | 10 | 府中市 | 11 | 合計 | 395 |

| |
|-----------------|
| 公立中等教育学校 |
| 千代田区立九段中等教育学校 |
| 都立中学校 |
| 都立白鷗高等学校附属中学校 |
| 都立両国高等学校附属中学校 |
| 都立武蔵高等学校附属中学校 |
| 都立富士高等学校附属中学校 |
| 都立大泉高等学校附属中学校 |
| 都立中等教育学校 |
| 都立小石川中等教育学校 |
| 都立桜修館中等教育学校 |
| 都立立川国際中等教育学校 |
| 都立南多摩中等教育学校 |
| 都立三鷹中等教育学校 |

| |
|--------------|
| 私立中学校 |
| 愛国中学校 |
| 武蔵野東中学校 |

| |
|---------------|
| 国立大学法人 |
| 筑波大学附属中学校 |

本会への入会のご案内

本会は、「産業界、教育界および教育行政当局が連携し相互に連絡協調して、東京都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善を図り、産業経済の発展に寄与する」等を目的としています。

産業教育に関心のある企業・学校・個人で、入会希望の方または新会員をご紹介いただける方は、本会事務局までご連絡ください。

(連絡先) 〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

東京都産業教育振興会 事務局

TEL 03 (5320) 6729 FAX 03 (5388) 1727

編集後記

本年度は東京都産業教育振興会が設立されて60年を迎えたことから、第53号を60周年記念特別号とし、特集テーマを「東京都産業教育 この10年の歩み、そして提言」とさせていただきました。平成17年度に第43号「50周年記念特別号」を発行して以来、この10年間は変化の激しい10年間でありました。そこで、この10年を振り返るとともに、次の10年を展望した提言等を各方面にお願いいたしました。

ご多忙にも拘わらず、玉稿をご執筆いただきました皆様に感謝申し上げるとともに、今後も本会への更なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

産業界と教育界、行政が連携して産業を担う人材を育成していくことは、今後ますます重要となります。産業教育の充実・発展のために本誌が幾許かの参考になればと願っております。

ホームページアドレス <http://www.tosanshin.org/>

表紙デザイン (平成24年度本誌50号記念表紙デザインコンクール最優秀作品)

製作者 川口彩花さん (東京都立工芸高等学校 グラフィックアーツ科3年:当時)

東京の産業教育 第53号

発行 平成28年(2016年)3月1日 発行

東京都産業教育振興会

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

TEL 03 (5320) 6729 FAX 03 (5388) 1727

印刷 昭和印刷株式会社

再生紙を使用しています

広告目次

| | | |
|----|--------------------|-----------|
| 1 | 株式会社 カナック企画 | 表表紙 内側 |
| 2 | 東京美容専門学校 | 99 |
| 3 | ヤマ産業株式会社 | 100 |
| 4 | 株式会社 ツバサ | 101 |
| 5 | 中央工学校 | 102 |
| 6 | 東京 YMCA 医療福祉専門学校 | 103 |
| 7 | 愛国中学校・高等学校 | 104 |
| 8 | ベストワールド株式会社 | 105 |
| 9 | マリールイズ美容専門学校 | 106 |
| 10 | 学校法人誠心学園 | 裏表紙 内側 |
| 11 | エス・イー・シーエレベーター株式会社 | 裏表紙 |

あらゆる美の感性を磨く。
それは喜びと感動のはじまり。

美容総合科 ヘアスタイリストコース



美容総合科 トータルビューティーコース



エステティック科



メイク・ネイルアーティスト科



美容通信科

エステティック通信講座

体験入学

体験実習(選べる2コース)&個別説明
土・日は毎週開催
午前の部:10時~12時30分(先着4名)
午後の部:14時~16時30分(先着4名)

ご予約はコチラ

☎0120-344276
<http://www.tahb.ac.jp/nyugaku/taiken.html>

カット&スタイリングコース・フェイシャル&ネイルアートコース
※希望のコースと土曜日から日曜日の午前か午後をお選びください。



携帯QRコード
からお申込み

tahb*

Tokyo Academy of Hairdressing & Beauty

学校法人 田中芸術学園
東京美容専門学校

〒161-8557 東京都新宿区下落合1-2-4 03-3360-6061 <http://www.tahb.ac.jp> info@tahb.ac.jp

教育備品総合商社

ヤマ産業株式会社

学びの場づくりの一翼をになつて、
教育現場からのきびしい要求にお応えします。

- スチール・木製家具
- 各種特別教室
- 黒板・スクリーン
- 学校用品
- 室内装飾
- 図書館設備
- 視聴覚設備
- OA事務機器



〒112-0015
東京都文京区目白台3-26-8
TEL：03(3941)7258
FAX：03(3943)3826



東京都経営革新計画承認企業

翼学院グループ

学習困難な児童・生徒のための進学・補習塾 **翼学院**

NHK総合・朝日学生新聞等メディアで話題
芦澤式学習法が本になりました!

学院長が開発した対話と定式化の“芦澤式”指導法。
学習が苦手でも学力が飛躍的にのびます。
その実績が話題となり「学校では何ともしてくれない小中高生を
何とかしてくれる塾」「他に例をみない塾」など多数のマスコミで
紹介されています。

落ちこぼれ
でも
大丈夫!

**1か月で
偏差値20伸ばす
芦澤式学習法**

成績オール1、学校嫌い、学習障がいでも
「学力と心を豊かに育める」指導法教えます!

NHK総合テレビ「おはよう日本」で
独自の指導法を紹介!

「うちの子、どうしよう……」
とお悩みの親御さんも必ず解決できます!!

東京都指定
児童発達支援・放課後等デイサービス **つばさクラブ**

対人関係など苦手感のあるお子さんのソーシャルスキルトレー
ニングや学習のベースとなる復習を行っています。また、常勤の養護
教諭(保健師・看護師、埼玉県立大学院で保健医療福祉研究)がメ
ンタルケアやご家族からの相談を受けています。

NHK学園高等学校
連携教育相談センター **翼学院高等部**

全国ランキングNo.1就活本を執筆!
翼学院はキャリア教育に自信あり!!

「翼学院高等部」は生涯の生きる力を育む高校卒業サポート校です。
主要5科目から実技科目まで教員免許所持の専門性の高い講師が
指導。進学指導はもちろん、都立高での面接指導や全国ランキング
No1就活本の執筆と当学院は“キャリア教育”に自信があります。地域
企業と連携した就業体験で、自分の夢探しを行います。教員が同伴し、
体験後に一緒に振り返ることで生徒の“夢”が見つかります。

サクセス! '16
**一般常識
&
最新時事**

売上実績 **1**
受けたい企業の今がわかる
【別冊】業界別重要キーワード
NO.1
無料ダウンロード! 学習アプリ付き
赤シート付き



「地域の皆様からのご支援に感謝し、これからも一筋に歩んでいきます!」

学院長 **芦澤 唯志**

- ★公益財団法人 産業教育振興中央会 理事
- ★東京商工会議所葛飾支部 副分科会長
- ★葛飾間税会 理事



(株) **ツバサ
翼学院**

高砂校

青砥駅前校

水元校

東水元校

お問い合わせはこちらまで!

合格 ツバサ

03-5699-5283

翼学院

検索

中央工学校

105年を超える伝統と実績！
あなたの夢《未来》を勝ち取る！



建築・木造・設備

- 建築学科 (4年) ■建築設備設計科 (2年)
- 建築工学科 (3年) ■建築室内設計科 (2年)
- 建築設計科 (2年) ■夜間 建築科 (2年)
- 木造建築科 (2年)

《建築関連学科》

— 平成27年1級建築士試験 専門学校トップの合格者数 —
平成27年1級建築士試験「設計製図の試験」学校別合格者一覧が発表され、専門学校では連続トップの成績を収めました。
(平成27年12月17日、公益財団法人建築技術教育普及センター発表)



室内・インテリア・家具

- インテリアデザイン科 (3年)
- インテリア科 (2年)

《インテリア関連学科》

住空間・商業空間のインテリアデザインから、施工方法まで学び、さらに家具デザイン・家具制作技術などを身につけた、インテリアデザイナーを目指します。



舞台美術・イベント設営

- エンターテインメント設営科 (2年)

《エンターテインメント設営科》

TVや野外ステージなどの設営に必要な設計技術(舞台造形・空間装飾デザインなど)から、仮設足場を計画し、イベント設営物の制作・設営技術まで習得します。

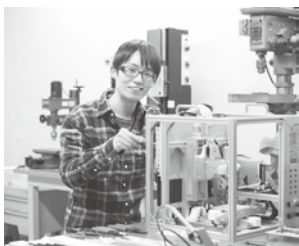


土木・測量・造園

- 土木建設科 (2年) ■造園デザイン科(2年)
 - 測量科 (1年) ■夜間 土木科 (2年)
 - 地理空間情報科(1年) ■夜間 測量科 (2年)
- 《測量士補取得者対象》

《土木・測量関連学科》 ※造園デザイン科を除く

| Point 1 | Point 2 | Point 3 |
|-------------------|------------------|------------------------|
| 卒業と同時に測量士補を無試験取得※ | 2年の実務で測量士を無試験取得※ | 地理空間情報科を卒業すると測量士を無試験取得 |



機械・CAD

- 機械学科 (4年)
- メカニカルデザイン科 (2年)
- 3D-CAD科 (2年)

《機械・CAD関連学科》

身の回りの工業製品などの、設計技術を作品制作を通して、習得します。
また、最先端のCAD技術を短期間に習得できます。



スポーツ《ビジネス・トレーナー・インストラクター》

- スポーツ健康学科 (2年)
- ・スポーツビジネスコース ・チャイルドスポーツコース
- ・スポーツインストラクターコース ・福祉スポーツコース
- ・スポーツトレーナーコース ・競技スポーツコース

《スポーツ健康学科》

スポーツの専門知識や技術はもちろん身に付きますが、PC・流通・簿記会計のビジネス教育も学び、スポーツ業界で幅広く活躍できるスペシャリストを育成します。

■〒114-8543 東京都北区王子本町一丁目 26-17
 ■TEL : 03-3905-1511 (入学相談室) ☎0120-79-1511
 ■PC : <http://chuoko.ac.jp> (携帯からもアクセス可)
 ■Mail : info@chuoko.ac.jp

オフィシャルサイトにアクセスできます。
(資料請求や学校説明会・体験入学の申込可能)



東京YMCA医療福祉専門学校は厚生労働大臣指定の

介護福祉士・作業療法士養成校です。



「互いに愛し合いなさい」をカレッジスピリットとし
専門的知識や技術を身につけるだけでなく、常に笑顔と優しさを持った
人材の育成を目指しています。

介護福祉科

国家資格受験資格：介護福祉士
(卒業時取得)

作業療法学科

国家資格受験資格：作業療法士
(卒業時取得)

学校法人 東京YMCA学院



東京YMCA医療福祉専門学校

■お問い合わせ■

〒186-0003 東京都国立市富士見台 2-35-11

TEL 042-577-5521 FAX 042-577-5506

<http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/>

E-mail ifs@tokyo.ymca.ac.jp



■資料請求方法■

TEL・ハガキ・FAX・E-mail・URL(学校案内書・送料共無料)

■交通手段■

●JR中央線「国立駅」徒歩20分

又は、バス3つ目「国立高校前」徒歩3分

●JR南武線「谷保駅」徒歩9分



愛国中学校 募集人員

60名

愛国高等学校 募集人員

普通科 240名

(一般教養コース・進学コース)

商業科 120名

(会計コース・情報処理コース)

家政科 80名

卒業と同時に無試験で

調理師免許取得

衛生看護科 40名

准看護師試験受験資格取得

資格試験 100%合格実績

創立77年

伝統ある中高一貫女子教育

愛国中学校・愛国高等学校

TEL.03-3658-4111 FAX.03-5668-1717

〒133-8585 東京都江戸川区西小岩5-7-1

中学校 <http://www.aikokugakuen.ac.jp/junior-high/>

高等学校 <http://www.aikokugakuen.ac.jp/senior-high/>

京成小岩駅下車徒歩3分・JR小岩駅北口下車徒歩10分・北総線新柴又駅下車徒歩13分・JR金町駅よりバス12分

優先入学できる上級併設学校

愛国学園大学 人間文化学部



仕事や生活に直結する
専門的知識や技能を修得

取得できる資格
○認定心理士
○上級秘書士
○上級情報処理士
○社会福祉主事任用資格
など

愛国学園短期大学 家政科 (家政専攻・食物栄養専攻)



食と健康に関係する
広範囲な知識を修得

取得できる資格
○栄養士免許
○中学校教諭二種免許(家庭)
○栄養教諭二種免許
など

愛国学園保育専門学校 幼児教育科(2年制)



人間性豊かな保育士、
幼稚園教諭へ

取得できる資格
○幼稚園教諭二種免許
○保育士

愛国高等学校衛生看護専攻科(全日制2年過程)



看護師として必要な知識、
技術を修得する

取得できる資格
○看護師国家試験受験資格
※衛生看護専攻科受験資格
高等学校卒業かつ
准看護師資格所有

愛国学園は皆さんの夢を応援しています

感動の旅



旅の感動を無限に大きくする

海外視察・研修旅行をお世話して50年

産業教育振興中央会をはじめ、文部科学省、全国英語教育研究団体連合会、全国商業高等学校長協会、全国学校図書館協議会、全国高等学校長協会、全国私立中学高等学校連合会、日本私立大学協会、日本私立医科大学協会、国際婦人教育振興会等の各教育研修旅行、その他、中高生を対象とした夏期英語研修・ホームステイ、業界別視察旅行、企業の社員旅行等を多数主催しております。オーダーメイド旅行も承りますので、お気軽に下記の連絡先までお問合せ下さい。50年の経験に基づきサポートいたします。

ベストワールド株式会社

会長：大沼 淳

(文化学園大学理事長／日本私立大学協会々長)

観光庁長官登録旅行業第145号／日本旅行業会員正会員

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-7-4

TEL: 03-3295-4111

FAX: 03-3295-4118

e-mail: info@bstworld.co.jp

http://www.bstworld.co.jp

伝承される技術と心。

The beauty training school which was established by The principal Marie Louise at 1912. By keeping the history and tradition for 104 years, it have been become The Marie Louise Beauty Special School. We have philosophy that of `1st personality, and technique`. We educate students who will be able to produce the beauty and the happiness. We create originality by absorbing from the leading fashion, yet inheriting from the tradition. Yes! We, Marie Louise Beauty Special School, will send out many `professionals` to the world.



マリールイズ美容専門学校が新たな歴史を歩み始めました。

初代校長マリールイズが創設した美容講習所は、104年の歴史を経て現在のマリールイズ美容専門学校に至っています。「一に人格、二に技術」という理念のもと、美と幸せをプロデュースする人材を育成。伝統を受け継ぎながらも、時代の最先端をゆく美容を取り入れ、オリジナリティを大切にした教育方針で、「プロフェッショナル」を送り出しています。

■国際ヘアスタイリストコース

海外経験豊かな教員の指導のもと、語学、技術ともに将来グローバルに活躍する美容師育成に力を入れています。

■ブライダルアーティストコース

マリールイズグループで婚礼美容業務に携わっている教員の指導のもと、着付けはもとより、ヘアセット、アップ、メイクまで丁寧に教育しています。

●一学年40名の少人数体制 ●美容師免許取得可能 ●充実したサロン実習

「学校見学&体験入学」随時受付中! ※詳しくはお電話又はホームページにてお問い合わせください。



学校法人 マリールイズ学園 厚生労働大臣指定

マリールイズ美容専門学校

<お問い合わせ>

TEL:03-3357-8015 www.marie-louise.ac.jp

〔調理師科 2 年制〕

フランス料理専攻コース
イタリア料理専攻コース
日本料理専攻コース
中国料理専攻コース

〔シェフパティシエ科 2 年制〕

〔調理師科 1 年制〕

調理技術コース
福祉調理コース
※入学後にコースを選択

〔調理師科夜間部 2 年制〕

国際フード製菓専門学校 ◆

〔製菓製パン科 2 年制〕

洋菓子専攻コース
和菓子専攻コース
パン専攻コース

〔製菓製パン科 1 年制〕

〔調理師科 1 年制〕

〔製菓製パン科夜間部 2 年制〕



学校法人 誠心学園

東京誠心調理師専門学校
国際フード製菓専門学校

〒144-0052
〒220-0004

東京都大田区蒲田3-21-4
神奈川県横浜市西区北幸2-9-6

Tel.03-3734-4411
Tel.045-313-4411

技術と人材で、 縦の交通を快適に。

昭和42年の創業以来約50年、
都市高層化の歩みとともにSECも発展してまいりました。
全メーカー対応の技術力、高度な専門知識を有するスタッフで、
安心のエレベーター環境づくりを提供いたします。

SECエレベーター株式会社

検索



エス・イー・シーエレベーター株式会社

〒110-0016 東京都台東区台東 3-18-3 SECビル



0120-83-1171 www.secev.co.jp

※支店支社含め全国150拠点以上のサービス網でメンテナンスサービスを提供しております。

業務内容

- 全メーカーのエレベーター保守管理
- エレベーター改修工事一式
- SEC製エレベーター製造販売
- デジタルサイネージの企画製造販売
- LED等照明事業を含むエコ事業